

249 回の事業を主催、2,421 人のボランティア（+住民数万人）が参加し、

延べ 42,354 日間活動しました！

～地域と地球のポップな架け橋～

NICE 2007年 活動総合報告書

☆ヘルシーでカラフルな世の中を☆



台湾で初開催！（国際ワークキャンプ・台西）



世界遺産を守ろう（国際ワークキャンプ・白神）

はじめに	(P 2～ 3)
序章 社会ビジョンと活動の成果	(P 4～11)
第1章 国際ワークキャンプの主催	(P 12～19)
第2章 国際ワークキャンプの派遣	(P 20～26)
第3章 週末ワークキャンプの主催	(P 27～33)
第4章 中長期ボランティア	(P 34～40)
第5章 ネットワーク作りのリード	(P 41～47)
第6章 その他の様々な事業	(P 48～54)
第7章 組織運営	(P 55～63)
おわりに	(P 64)

～代表・事務局長挨拶と 10 大ニュース～
～分野別のビジョンがまとまりました☆～
～日本・アジアで、85 回企画しました！～
～世界中で、最多の 745 人の日本人が参加！～
～日本各地で、身近な企画が 137 回！～
～長めの活動にも、史上最多の参加！～
～世界中の NGO とつながっています！～
～環境・福祉・教育、色々やっています！～
～会員・理事・職員・広報・財政などなど～

特定非営利活動法人 NICE（日本国際ワークキャンプセンター）

はじめに

2007 年の世界と N I C E

代表 開澤真一郎



2007 年の世界は、人類に大きな課題を突き付けました。「地球温暖化」。97 年の京都議定書締結後、日本・世界の世間ではいったん注目がされなくなっていました。この 1 年程はメディアも大々的に取り上げていますね。ツバルやヒマラヤの危機、異常気象と、もはや将来でなく、現在の問題になってきています。ゴアさんと IPCC がノーベル平和賞を受賞し、G8 サミットでも初めて最大の議題に浮上しました。

温暖化問題は単に気温のことだけでなく（これも大問題ですが）、私達の生活や文明のあり方を根本から問い質しているのではないのでしょうか。

低炭素社会は貧しく、不便で不幸、と考える人も少なくありません。先日の環境省や環境 NGO の人達とのミーティングでも、みな悲壮な表情で「どこまで日本が痛みを覚悟するか」という話になっていました。

が、そうした面もありつつ、実は低炭素社会は「健康」を優先する奈良、今よりよっぽど豊かで幸せな社会になるのでは！（と言いました）。それは単なる机上の理屈ではなく、日本やアジアの農村等で冗談を言い合いながら汗を流し、質素だけど美味しいものを食ってきた生活の実感から湧き上がってきた思いなのです。もしかしたら、「ワークキャンプ」という生活様式も、低炭素社会への一つの練習場になるかもしれません。

2007 年はこの他、参加するボランティアの多様化が進んだ年でした。今までワークキャンプの参加者は大学生が多数を占めてきましたが、本来もっと多くの世代が参加できるものなのです。ここ数年、欧州では若者以外を対象とする事業が率ではまだ少ないながらもどんどん増え、NICE も 2004 年から親子ワークキャンプを試験的に企画しています。今年は更にアジアでは初となる、シニア・ワークキャンプもモンゴルで開催しました。また国際ボランティア界では日本の NICE が始めた「グループ・ワークキャンプ」が今年も急増し、従来の事業では参加しなかった企業やサークルの様々な方々が、新たにワークキャンプに参加しています。

2007 年、NICE は大勢の方々のご協力に支えられて事業数や参加者数が史上最多を記録しました。そして、様々な成果（と課題）を生み出すことができました。この場を借りて、皆様に厚くお礼を申し上げます。

そしてこれからも一緒に力を合わせましょう！

2007 年の日本と N I C E

事務局長 塚本竜也



2007 年の漢字に「偽」が選ばれたことが示すように、企業の偽装、不祥事や年金の記録漏れなど、長い間日本社会を支えてきたモラルや信頼、安心社会の前提が崩壊し始めています。利益、効率、表向きが優先されてきた結果、人を信じることができなくなってしまう不信社会が当然のことのようになってしまいました。それは決してお金に換算することができない、社会の根幹を揺るがす重大な問題です。

そのような時代の中、NICE は何を担い、何を生み出していくのか、時間をかけて検討した 1 年でした。それは、NICE を客観的に見つめなおす作業でもありました。内部的には理事会を中心にこれまでの NICE の事業や経験、経験から見えてきたものを整理し、NICE 取り組む各分野におけるビジョンを検討し、策定する作業に力を入れました。

一方で、各分野の NP0、メディア、研究など一線で活躍する人々にご協力をいただき評議会を結成し、NICE のミッションや事業に対してそれぞれの視点からアドバイスをいただける機会をつくりました。

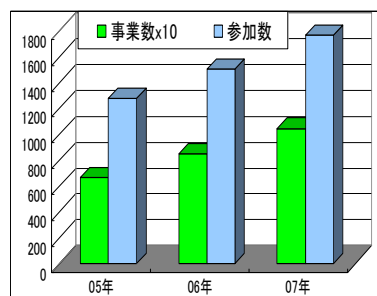
いろいろなことが見えてきました。ワークキャンプが各分野において果たしうる役割の大きさ、それを達成するために NICE がもっと磨いていかなければならない点、NICE メンバーが持っている力。そして、広く社会を捉えたとき、ワークキャンプはそこに集い関わる多くの人々が、思いと行動を共にすることで、失われた人と人との信頼や絆を再構築する作業でもあるということ。

NICE も中核を担い、2 年目を終えた全国ワークキャンプフォーラムもその意義と活動を深めることができました。全国各地で多くのワークキャンプがたくさんの人々の手によって作られ、多くの人々が参加し盛り上げる、共感が絆をつむぎだす、つながり社会の実現に向けて全力を尽くしていきたいと思います。そのために、今年度積み重ねた経験をこの報告書でしっかり振り返り、2008 年の発展につなげていきたいと思っています。

2007 年、NICE やワークキャンプの発展に向けご協力をいただいた全ての皆様に感謝いたします。☆

< NICE 2007年10大ニュース >

① 事業数・参加者数が、史上最多を更新☆



(年間を通じて)
国際ワークキャンプと中長期ボランティアは、初の3桁・112回を主催、1834人が参加(週末を含めると249回を主催、3,421人が参加)

② 台湾で国際ワークキャンプを開拓◎



(8月1日～同10日)
台湾史上初の開催。
VYAと共催し、漁村の台湾で日韓台の若者が異文化理解促進の壁画アートに取り組んだ。
→詳細はP18。

③ アジア初のシニア・ワークキャンプ♪



(6月20日～同26日)
50歳以上を主な対象に、MCEとの共催。日本人5人が首都郊外の孤児院の農場で、子ども達と農作業。
→詳細はP18。

④ 成果を測る初の国際事業を実現！



(7月10日～11月1日)
NVDA、ASEFと共催して環境・教育等の分野に対する成果を測定する事業を欧州アジア7ヶ国で開催。
→詳細はP45。

⑤ 「若チャレ」ワークキャンプを開催♪



(7月28日～11月10日)
厚生労働省と連携して「若チャレ！ワークキャンプ」を8回の週末に8県でリレー、158名が参加。
→詳細はP29。

⑥ 都との協働で、「奉仕」の授業を開始。



(6月20日～12月17日)
都立高校で始まった「奉仕」の授業を受託。10校で17回行い、1,995人の生徒が受講。
→詳細はP51。

⑦ 開催地サミットと特別シンポジウム！



(2月11日～同12日)
第5回のサミットでは初のシンポジウムも開催、74名が集まり、大好評。ソフトバンクが助成。
→詳細はP16。

⑧ CCIVSの第30回総会を企画☆



(11月19日～11月26日)
3年に1度開催の国際ボランティア界のトップ会議。ウクライナのLvivに24ヶ国・41名が参加。
→詳細はP43。

⑨ 長期社会活動推進協議会の設立を主導。



(5月29日～)
国内で長期ボランティア事業を企画する5団体に呼びかけて結成。課題や共通のビジョンを討議。
→詳細はP37。

⑩ 地球ボランティア・フェスタを開催♪



(10月28日)
東京都渋谷区で110名が参加。8ヶ国のNGOリーダーの講演が目玉、ラバンバ生演奏で盛り上がった。
→詳細はP62。

次点：各界の精鋭の方々と、評議会を発足◎

(2月12日・9月28日)北海道～熊本の17名が就任。
→詳細はP58。

序章 社会ビジョンと活動の成果

0-1) 目指す社会ビジョン

NICE が掲げる目的・目指す社会は、「**カラフルでヘルシーな世の中**」である。「カラフル」には多様な個性・文化・生態系が友好共存する意味がこめられ、「ヘルシー」には身体のみならず、心・自然・文化・経済・人間関係等、様々な面での健康を意味している。

もう少し具体的には、以下の通りになる。

① 新しい環境保護・福祉・地球協力を実践・推進

自由で新鮮な発想と行動力を生かし、気軽に楽しいボランティアを広げながら、しっかりとした成果を狙います。競争・膨張優先の社会に、人と人・人と自然の絆を再生します。

② より良い地域づくりへの意識と行動を高める

住民を大勢巻きこみ、出会いと活動の場を作ります。地域の団体と住民を結んだり、国内外の若い力を呼び込んで、地域の自然・文化資源を活かした元気でユニークな地域作りを進めます。

③ 地球色の友情・相互理解・連帯や、人を育てる

日本／世界の人々や地域の住民が共に働き、暮らし、笑い、語り合いながら、自然に友情・理解・連帯を育てます。地球的な視野や感性、個々の力を伸ばし、発揮する場を創ります。

1～3によって、**近現代文明の本質的な諸限界を乗り越え、貧困・差別・戦争・環境破壊などを克服し、多様な生態系・文化・個性が生き生きと友好共存する地球社会**を開拓します！

では今年の活動では、この目的を達成するために、**どれだけの成果を生み出すことができたか？**

全ての成果を測るのは、以下の点から非常に難しい。

- A) 目に見えない成果が多い。
- B) 時間がかかって出てくる成果が多い。
- C) 成果を測る手法や時間が不十分である。

それでも、これらの限界を踏まえた上で、**できる限り成果をチェックし、まとめる**ことは自分達の活動の方向性やエネルギーの割き方を正しくするためにも、社会から共感・協力を集めるためにも、必要である。

この報告書でも、この点はまだまだ足りないので、今後はもっと磨いていきたい。

0-2) 6分野でのビジョンと成果

2007 年に NICE では理事会を中心に、各事業のリーダーや会員、評議員のご意見・アイデアも合わせて、6分野でのビジョンを作った。

< なぜ作ったのか？ >

① 各分野での力に対する、社会的な認知を上げる。

様々な分野・地域で、様々な人達が集まってつくるワークキャンプは、その多様性が強み。だが、逆にそのために、各分野での役割に対する社会的な評価は、実際に生み出している成果と比べて、遙かに低い。

② 団体・活動の持つ、分野への潜在力を引き出す。

それぞれの事業で違った目標・目的もあるが、共通の部分束ね、進む方向を明確にし、「目標→計画→実行→評価→再計画」の輪を回すことで、ワークキャンプの持つ力をもっと引き出すことができる。

③ 世の中全体の方向付けにも、寄与する。

世界中の現場での実践から上がってくる生の情報は、貴重な宝である。各地の社会状況、専門家の知恵、住民やボランティアの取り組みの結果をうまく活かせば、一味違った政策や行動の提言がつくられるはず。

< ただし、 >

A) 上記の目的のためにはビジョンを作っておしまい、ではなくて、その実現のために活動が生む成果を地道にしっかり測り、まとめることが大切である。

B) ビジョン自体も、まだまだ磨く必要がある。

また、分野をやや強引に6つに絞ったが、ここには入りきらないもの（平和等）、重なるものもある。

C) これらは、NICE が目指すものの全てではない。各分野の社会状況の改善以外にも、0-1 の②や③の目的・成果（後述も色々あり、等しく重要である）。

D) あまりビジョンを明確にし過ぎると、それに賛同できない人は参加できなくなるため、偏りすぎたり、息苦しくならないように注意する必要もある。

以上を踏まえた上で、試みとして作った6つの分野でのビジョンを次頁以降に簡単に紹介する（写真や体験談を使って各事業の成果の具体例を紹介したいが、スペースの都合で割愛）。

環境分野 ～85 事業を主催、1,082 人+住民多数が参加、13,429 日間活動～

A) 現状（スタート）～何が問題か～

① 森林の保全・再生：

世界では 1990～2000 年で、9,400 万 ha（日本の国土の 2.5 倍）が**減少**。劣化も進行。日本は国土の 7 割が森林だが、多くが放置され**荒廃**。

② 水資源の減少・劣化：

砂漠化の進行や水の消費増大が進み、**水資源が急激に減少**。産業・生活排水の影響で、**汚染・汚濁**が深刻化する河川・湖沼が増加。

③ 生物・生態系や景観の、多様性の消失：

開発や乱獲、外来種の侵害が進み、絶滅寸前の生物が急増。景観や生物・生態系の多様性が急激に失われている。

④ 自然体験や環境学習の機会の不足：

現代の生活は自然に接して感じ、環境を考ええる機会が少ないため、環境破壊に無関心な人が増え、また情緒・生命観が育まれない。

⑤ 地球温暖化と環境負荷の大きい生活様式：

大量生産・大量消費・大量廃棄の経済社会、資源・エネルギーの無駄遣いの激しい生活の広がりにより、**地球温暖化**がいよいよ深刻化。

B) 目標（ゴール）～どうなってほしいか～

①：世界の森林の**乱伐の防止**、伐採地での**植林**を通じ、豊かな森林の維持・形成。日本では、間伐等必要な作業を進め、**健全な森林**を広げる。二酸化炭素吸収量を増やし、温暖化防止にも。

②：汚染・汚濁の深刻な河川・湖沼を**浄化**し、**汚れを出さない生活・産業**への転換も進める。**水資源も保全**し、豊かな水の地球を再生。

③：原生種、特に**絶滅寸前の動植物を保護**し、**外来種や経済活動の悪影響を低減**、多様な生態系を持ち、美しい自然環境が広がる地球に。

④：子どもからお年寄りまで、生活の一部として誰もがいつでも気軽に触れ合える自然環境の**保全・再生**。触れ合う**機会の増加**。

⑤：将来の世代も安心・安全に生きられる**持続可能で、環境負荷の少ない循環型社会**の構築。自分の地域の環境情報が提供され、各自が環境にやさしい行動を取ることでできる社会創り。

植樹（白川郷）



C) N I C E なアクション ～行った活動の例～

海亀の保護（浜松）



①：☆**植林の実施**：裸地や森林伐採地での植林・育林（モンゴル、インド、ケニア他）
☆**健全な森作り**：荒廃した森林で、間伐・下草刈り等の整備（青森、岐阜、福岡他）

②：☆**河川・湖沼の浄化**：水草の植栽・除去、清掃、アクリルたわしの推進（インドネシア他）
☆**水源の森作り**：水源涵養・土壌流出防止の森作り（北海道、インド他）

③：☆**景観の保全・自然再生**：山頂の景観保全、海岸の清掃、景観整備（新潟、島根、熊本他）
☆**生物多様性の保全**：野鳥公園整備、動植物保護用の柵作りやパトロール（東京、メキシコ他）

④：☆**里山の保全**：住民を巻き込みながら、枝打ちや下草刈り、歩道整備（大阪、新潟、三重他）
☆**自然体験活動の応援**：サマーキャンプや自然学校の運営補佐（大分、北海道、福岡他）

⑤：☆**ゴミの削減**：リサイクルや再生可能な代替エネルギーの推進（ドイツ、ケニア他）
☆**CO2 排出量の減少**：共通アクションとして、エコロジカルなワークキャンプの推進（多数）

農業分野 ~39 事業を主催、456 人+住民多数が参加、5,794 日間活動~

A) 現状（スタート）～何が問題か～

① 世界全体の食料不足と配分の偏り：

生産量は十分あっても、**飢餓が絶えない**。市場化や開発で、**自給経済は各地で崩壊中**。特に天災・紛争の地、都市のスラムで深刻。水不足や気候変動による**環境リスク**も大。

② 日本の自給率低迷と、耕作放棄地の増加：

過疎化・後継者不足で離島・山村を中心に、**放棄地が都の面積と同じ程に増加**。**自給率はカロリー換算で40%で低迷**、大半を輸入品に頼る燃料・飼料・資材を考慮すると更に低い。

③ 環境・健康への汚染と、食育の欠如：

環境・健康への悪影響や土地の消耗が深刻。が、有機農業も**作る困難・売る困難**が重い。また多国籍企業が、**一代交配種で市場を支配**。食の大切さへの理解や生産者との絆も希薄に。

B) 目標（ゴール）～どうなしてほしいか～

①：家庭・地域・国の順でできるだけ**自給率**を上げ、**自給経済**を各地で再生させる。政府の政策も、**万人に食料**が行くことを最優先し、非常時でも**飢えない**ようにする。**温暖化**を可能な限り抑え、**水や土**も十分保護。

②：食料も燃料も、**自給率は①と同様**の方向に。跡継ぎ以外の農家や、ボランティア・NPO・学校・職場・家庭も、**担い手の中核**に成長。中山間地や離島に人が流れやすく構造改革。**放棄地**は公で管理し、自然林と田畑に分別。

③：持続可能で生態系と調和しやすい**有機農業**と**地域固有の種**が、市場でも主流に。各地域の知恵を基本にしつつ、世界の**新技術も融合**。生ゴミ・し尿・落ち葉等も効果的に循環。食育や消費者・生産者の絆を強化。

有機農業（鎌倉）



C) NICEなアクション ～行った活動の例～

田の除草（真木）



- ①：☆ **自給用食料の増産**：+児童養護施設の自給用・有機野菜畑で草取り・収穫（モンゴル、鎌倉）
+田舎の湖畔の放置された農場を再生。園芸や塗装（フィンランド）
- ☆ **農家の経済力向上**：+学校を運営でき、給食も始められるよう、住民と野菜を栽培（ケニア）
+果樹・養蜂の振興。灌漑設備の整備や蜂の巣作り（トーゴ）
- ☆ **環境リスクの低減**：+土壌保全・貯水力向上のための植林（多数）、原生種の保護（トーゴ）
- ②：☆ **今ある農家の応援**：+アルバイトも集まりにくい離島で、菊の収穫・出荷を補佐（えらぶ）
+機械化を進めにくい中山間地で、農作業（緒方・波野・水俣・高根）
- ☆ **耕作放棄地の再生**：+荒地となった茶畑を、住民達がみんなで楽しめるように再生（和東）
- ☆ **外部後継者の育成**：+ボランティアがワークキャンプを契機にプロの農家に（和東、えらぶ）
- ③：☆ **生産する農家を応援**：+有機農業共同体で米や野菜の収穫、水道管の敷設等（新得、真木）
+有機農家や土地固有の種を使った農法を応援（八郷、鎌倉、綾）
+有機農業に関する情報交換・国際協力の推進（タイ）
- ☆ **消費者の意識を変革**：+有機野菜を使った国際料理教室を開催（鎌倉、和東）
+地元の安全な食材を楽しく自炊する機会の創設（ほぼ全ての事業）
+植物を育て、動物を殺して食べる体験の提供（モンゴル、他多数）
- ☆ **有機への転換を促進**：+有機農家を優先して応援することで、メリットを増加（日本各地）
+化学肥料から有機肥料への転換。啓発やコンポスト作り（トーゴ）

開発分野 ～17 事業を主催、320 人+住民多数が参加、5,359 日間活動～

A) 現状（スタート）～何が問題か～

① 絶対的な貧困：

世界では今なお **8 億人が飢え**に苦しんでいる。初等教育の不足、男女差別、幼児や妊産婦の高死亡率、感染症の蔓延、大規模災害の発生等、様々な問題が複雑に絡み合っている。

② 格差・過疎：

都市への一極集中、過疎の拡大、地域共同体の崩壊、経済格差の拡大等、地域が抱える問題は **世界・日本で多様化かつ複雑化**している。

③ 災害・安全：

気候変動の激化もあり、大規模な災害が頻発。被災直後に支援があっても、**復旧の手が少なく**苦しむ地域は多い。治安の悪化も各地で深刻化。

B) 目標（ゴール）～どうなってほしいか～

①：全ての人々が貧困や飢餓で苦しむことなく、**安全で健康な生活**を送られる社会の実現。国連開発目標（MDGs）を参考しつつ、物質面だけでなく、**精神面での豊かさ**も重視する。

②：**地域固有の資源**を活かし、金・物だけでなく健康・安全・環境・文化・教育・市民参画・絆を重視した総合的な観点での地域開発を行う。**外からの知恵・力**をうまく融合しながら、**住民が主体的に参画**する社会作りを実現させる。**循環型経済や非貨幣領域の再生**も目指す。

③：災害の**予防や復旧**、災害を**バネとした**地域再生を充実させる。安心して暮らせる社会に。

道路整備（マレーシア）



小屋作り（ケニア）



C) N I C E なアクション ～行った活動の例～

①：☆**インフラの整備**：教室の建設（ケニア他）、図書館を建設（ガーナ）、難民ホームレスの家を建設（アメリカ）、先住民の孤児達に家を建設（メキシコ）

☆**保健・医療の支援**：路上児童に健康診断（インドネシア）、HIV・AIDS 教育（トーゴ他）

☆**生活向上の支援**：フェアトレード船の修理（フィンランド）、エコ蝋燭の販売（モンゴル）、伝統的な方法でパンを焼き、貧しい子どもを支援（ペルー）

☆**技能の向上**：貧しい子ども達に職業訓練（トーゴ、インドネシア）

②：☆**限界集落の作業応援**：独居老人宅で薪割り（高根）、ミカン畑等の再生（伊方）

☆**地域の活性化**：若者が来て地域活動や交流することで、住民も元気に。地元出身の若者も交流するために戻ってきて活動し、自分の地域を見直す機会に（多数）

☆**イベントの補佐**：廃れた祭りや人手が足りないイベントの手伝い（多数）

③：☆**復旧活動**：台風で壊れた家を修理（アメリカ）、地震で壊れた幼稚園再建（インドネシア）

☆**予防活動**：山火事予防の防火林づくり（イタリア）

☆**治安向上**：小学校で登下校パトロール（東京）

文化分野 ～6事業を主催、163人+住民多数が参加、2,648日間活動～

A) 現状（スタート）～何が問題か～

① 伝統文化の消失、文化多様性の喪失：

地方で過疎化が進み、次世代に残すべき伝統文化が消滅の危機にあたり、欧米・都市文化の流入より、文化の多様性が失われつつある。

② 異文化間の衝突、相互理解の欠如：

移民・難民の流入や経済の地球化により、異文化理解の必要性は高まっているが、無知・偏見により、様々な衝突が生まれている

③ 文化の持つ潜在的な力の埋没：

環境破壊・貧困・格差・差別・迫害・不自由な社会問題の改善において、大きな力を発揮しうる文化活動の力がまだまだ足りない。

B) 目標（ゴール）～どうなってほしいか～

①：過疎地域や少数派の人々が、自分達の伝統文化の守るべき価値を認識して誇りを持ち、守れるようにする。また画一的な外部文化の暴力的な侵害を食い止める。

②：多文化共生社会の構築。異文化理解を進め、衝突・偏見をなくす。

③：文化の潜在的な力を開花させ、個人～地球レベルでの様々な社会問題を改善に貢献する。

神輿担ぎ（大沼）



化石探し（スペイン）



C) NICEなアクション ～行った活動の例～

①：☆無形文化財：伝統的な祭・イベントを応援（イタリア、岐阜、福島、ウクライナ他）
☆有形文化財：寺・城の修復、伝統工芸の継承や紹介（イギリス、セルビア他）
☆考古学への貢献：遺跡発掘（スペイン等）

②：☆ボランティア間で：共同作業・生活を通じての促進（全て）
☆地域住民とボランティアで：同上（全て）。国際理解プログラムの企画（多数）

③：☆国際ボランティア推進：アフリカンフェスタ、アースデイ（共に東京）、フジロック（新潟）
☆反人種差別：反人種差別をテーマとしたミュージカルを路上で上演（ドイツ）
☆外の視点提供：外からの視点で地域を発見するテレビ番組の制作（ドイツ）
☆禁煙教育・エイズ予防教育：劇を使って小学校で上演（フィンランド、ウガンダ他）

教育分野 ～24 事業を主催、374 人+住民多数が参加、6,574 日間活動～

A) 現状（スタート）～何が問題か～

① 学校・基礎教育が受けられない（量的問題）：

世界では 7700 万人の子どもが学校に行けず、サハラ以南のアフリカでは、36%の子どもが初等教育さえ受けられない。貧困のために継続できない子も多い。7 億 8100 万の成人が文盲である。

② 学校教育の中身にも問題色々（質的問題）：

特に日本では画一的・詰め込み・学力第一主義による弊害で、生きる力が育まれていない。いじめ・不登校も深刻。教師も負担重く、疲弊。他の国でも、質や環境が不十分な点が多い。

③ 不十分な学校外・ノンフォーマル教育：

多くの国で、自然との関わり・社会活動・生活体験等が不足し、社会性や自主性が低下。国際的な視野・感性を育む教育も不十分で、多文化社会への移行において障害を生んでいる。

④ 非社会化・反社会化する若者達：

日本ではニート・引きこもりの若者が 100 万人弱に増加。一方、欧州やアフリカ等では、高い失業率を背景に、町に出て非行・犯罪に走る若者の増加が、深刻な社会問題となっている。

B) 目標（ゴール）～どうなしてほしいか～

①：全ての子ども達がバランスの取れた、質の高い教育を継続して学べるようにする。また、希望する全ての成人が読み書き・計算等の基礎教育を無料で受けられるようにする。更には、職業訓練や異業種交流、文化伝承も充実。

②：自主性・個性・本人の興味や持ち味を尊重した教育を推進する。考え方や方向性を自分でつかめる手助けをし、グループワークも多用。家庭・地域・社会に開かれた学校づくりを進め、様々な大人が様々な形で関わる機会を増やす。

③：子ども達の選択により、ボランティア活動や自然・生活体験等ができる場を、多数創る。また、異文化を理解・尊重でき、海外や地球規模の問題への共感と想像力を持ち、課題を解決できる担い手が増えるように環境を充実。

④：経験ある大人達の支えで、様々な社会活動の場を提供し、社会性を持った若者を育む。

授業運営（インドネシア）



フリースクール（綾上）



C) N I C E なアクション ～行った活動の例～

- ①：☆施設のインフラ整備：校舎・教室・教員寮の建設・修復（アフリカの多数の国）
☆勉強できる環境づくり：野菜畑で学費の捻出（ウガンダ）
☆文房具の寄贈：ノートブック・アクション（日本とインドネシア・ネパール）
- ②：☆国際理解の推進：多文化紹介の授業の運営（塩尻、他多数）
☆学力の向上：英語・日本語の授業（モンゴル他）
☆学校間交流づくり：姉妹学級プロジェクトの推進（日本とバングラデシュ）
- ③：☆子ども：夏休みの長期自然体験やボランティア体験のキャンプ運営（熊本、北海道他）
☆中高生：10 代を対象としたワークキャンプの実施（島根、リトアニア、フランス他）
☆路上児童：保健・技能教育（インドネシア）
- ④：☆ニートの社会化：若者自立塾の運営（モニョンゴロ村）
☆登校拒否者への応援：フリースクールの応援（池の原、綾上、方丈舎）
☆不利な若者達の社会化：活動に参加する機会の提供（欧州各国）

福祉分野 ～78 事業を主催、1,025 人+住民多数が参加、10,520 日間活動～

A) 現状（スタート）～何が問題か～

- ① **子どもの権利**：児童虐待・労働・買春等、世界でも日本でも、ないがしろにされている。
- ② **少数派への差別・迫害**：違いを認められず、障がい者やお年寄り、難民等へ止まない。
- ③ **施設の困難**：人手が足りなく、内にこもりがちだが、ボランティアを受けるのも負担。
- ④ **社会経済の構造**：短期的な視野での競争・膨張社会で不利になり、本来より弱い存在に。
- ⑤ **「弱者」の孤立**：それぞれが社会から孤立しているだけでなく、互いの協力も少ない。
- ⑥ **健康の増進**：健康の意識・知識が不足。また乱れた生活習慣をもつ若者が多い。

B) 目標（ゴール）～どうなってほしいか～

- ①：子どもの人権を尊重し、子どもが生き生きと可能性を開花させられる社会をつくる。
- ②：違いに寛大で、誰もが持ち味を認められ、**差別・偏見のない、カラフルな社会**を創る。
- ③：ボランティアが活発・効果的に活躍し、外・一般市民にも**支えられる福祉施設**に転換する。
- ④：「弱者」を不利にする構造を変え、社会全体を健康にする。
- ⑤：社会的に不利な人達同士が効果的につながった、**助け合いネットワーク**を盛んにする。
- ⑥：身体や病気に関する正しい知識を身につけ、心身ともに健康な生活を送る人を増やす。

スラム支援（ベトナム）



C) N I C Eなアクション ～行った活動の例～

- ①：☆ **子ども達への直接支援**：仲良くなり、国際理解や社会参加を進めて、力を育む。（池の原他）
 ☆ **施設の補佐による間接支援**：職員の負担を減らし、生活環境や財政の改善する（小山他）
 ☆ **子どもの権利・問題の啓発**：住民、ボランティア、会員、市民の意識を高める（鎌倉他）
- ②：☆ **活動への引き込み**：大勢の住民と様々な形で接点を作り、差別・偏見を減らす。
 ☆ **広く社会への広報**：口コミ、メディア、ホームページ等を通じ、理解を広げる。
 ☆ **他NGOへの協力**：問題に取り組む、様々な地域・種類の団体をサポートする。
- ③：☆ **人手の提供**：職員だけでは大変な、行事の手伝いや大規模な作業の一翼を担う（若駒他）
 ☆ **風・活気づくり**：外部の視点や活力を加えて、施設の発展・改善を共にすすめる。
 ☆ **ボランティア受入補佐**：長期ボランティアやN I C E職員が、施設職員と実行（日の出他）
- ④：☆ **都市住民たちの逆流**：疲れた現代人が癒される場としても、様々な機会を提供（日の出他）
 ☆ **各自のカラーを磨く**：得意技を活かせる場を増やして、自信と技能を向上する。
 ☆ **文明の本質を変える**：人も自然も健康で、循環・協力を基調とした社会に転換。
- ⑤：☆ **姉妹NGO事業**：同種の施設・団体を、国を超えてボランティアがつながぐ（日本・モンゴル他）
 ☆ **出会いの場作り**：他種の施設、他分野のNPO、他セクターと出会う場を作る。
 ☆ **他の形での推進**：情報本やホームページでの紹介、共同の提言や行動計画等。
- ⑥：☆ **食生活を正す**：仲間と共に自分たちの食事を作り、その大切さと楽しみを知る（全て）
 ☆ **運動不足を解消する**：規則正しい生活を通し、心身共にたくましい若者を増やす（全て）
 ☆ **予防知識の促進**：正しい健康を保つ方法を伝え、世界の健康水準を向上（インドネシア他）

障がい児と（マレーシア）



0-3) 各分野に注がれた人的パワー

以下はあくまで、特定方法で算出した概算である。
 国主＝国際ワークキャンプの主催
 国派＝国際ワークキャンプの派遣
 週末＝週末ワークキャンプの主催
 中長期＝中長期ボランティアの主催（・派遣）

<主催事業数>

	環境	農業	開発	文化	教育	福祉	計
国主	25	12	9	6	16	18	85
週末	51	22	4	0	4	56	137
中長期	10	5	4	0	4	4	27
計	85	39	17	6	24	78	249
率	34%	15%	7%	2%	10%	31%	100%

＊ 各項目の合計と、実際に行われた事業総数を一致させるため、分野比×総事業数で計算した。実際はそれぞれの分野で行った事業はこれよりも多い。
 （例：環境&教育の事業の場合、環境は0.5で計算。）

<参加ボランティア数>

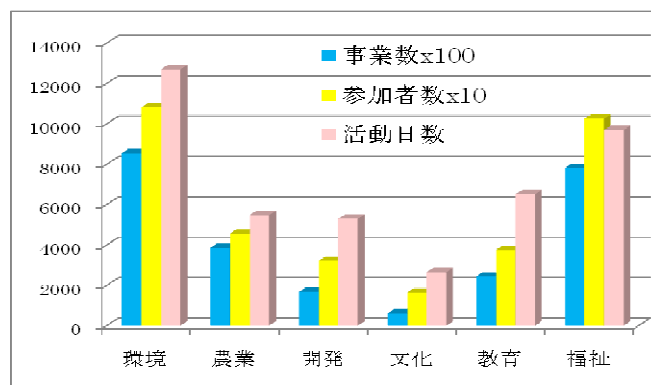
	環境	農業	開発	文化	教育	福祉	計
国主	57	24	89	62	168	186	885
国派	168	46	165	97	133	136	745
週末	217	94	18	0	18	241	587
中長期	70	32	19	5	25	52	204
計	712	296	290	163	344	615	2,421
率	29%	12%	12%	7%	14%	25%	100%

＊ 各項目の合計と、実際に参加した総数を一致させるため、分野比×総参加者数で計算した。実際はそれぞれの分野に参加した人数はこれよりも多い。
 ＊ 中長期の派遣参加者分（103人）は、分野比が未集計なため、主催事業の分野比に準じて計算。
 ＊ プログラムにフル参加したボランティアの数。
 部分参加した住民参加者数は、この数十倍。

<活動日数>

	環境	農業	開発	文化	教育	福祉	計
国主	3,593	1,735	1,239	867	2,354	2,602	12,390
国派	2,358	645	2,311	1,353	1,860	1,904	10,430
週末	434	188	35	0	35	481	1,174
中長期	6,304	2,907	1,714	428	2,264	4,712	18,360
計	12,689	5,474	5,299	2,648	6,514	9,700	42,354
率	30%	13%	13%	6%	15%	23%	100%

＊ 計算が複雑すぎるため、大まかな平均値を設定し（国主・国派は14日間、週末は2日間、中長期は90日間）、参加者数×平均日数で計算。



0-4) 目に見えない成果と限界

今までは主に活動による、直接的・物理的な成果を紹介してきた。が、ワークキャンプの場合はそれだけでなく、以下の面からも課題の解決に寄与している。

- ★ 受入側への精神的な励まし
- ★ 住民の巻き込み、意識・行動の向上
- ★ 地域・国内・世界での新たなネットワーク作り

勿論、期待通りにいかないこともある。例えば、

- ★ ボランティアの意識・技能が低い、バラバラ。
- ★ 事業リーダーの運営の仕方が、不十分。
- ★ NICE や共催の企画の組み立て方が、不十分。
- ★ 地域への理解が浸透していない。
- ★ ハプニング（例：台風）で作業が進まない。

そして本質的に「よそ者・素人」の限界もある。が、それでもプロの指導や協働を入れたり、多数の住民が参加することで、限界を超える工夫をしてきた。

0-4) 分野以外の成果

先述のように、異文化理解や人材の育成にも、非常に多くの成果を例年と同様に生み出した。例えば、

- ★ 外国人やその文化に対する偏見がなくなった。
- ★ メディアの報道をうのみにしなくなった。
- ★ 第二の故郷・第二の家族ができた。
- ★ 将来やりたい仕事が決まった。
- ★ 英語と地域のことを勉強する意欲が湧いた。
- ★ 体力・忍耐力・協調性・交渉力がついた。
- ★ 掛け替えのない友人、恋人ができた。
- ★ 仕事からのいいリフレッシュになった。

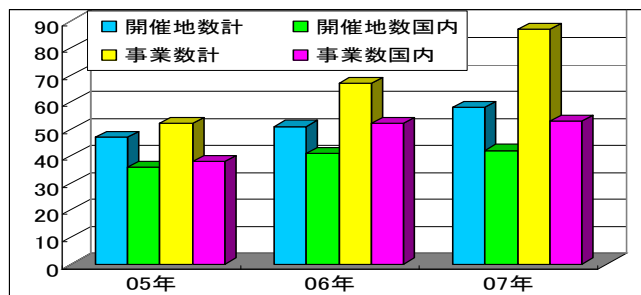
勿論、100%の人がみんな満足・ハッピーだったわけではないだろう。が、少なくともこうしたチャンスを提供したことが大切である。

次頁以降では今年、具体的に行った活動を事業を種類別に見ていこう。

第1章 国際ワークキャンプの主催

世界中から集まったボランティア達が2～3週間共に生活しながら、住民達と環境保護・福祉・農村開発等に取り組む、合宿型国際ボランティア事業。1920年にフランスで始まり、07年は98ヶ国で約2,980回開催。NICE結成以来の主幹事業で、18年間に19ヶ国で650回開催、7,716人と住民約13万人が参加。

1-1) 開催数 ～史上最多の85回～



	国 県		開催地数		開催事業数	
			計	国内	計	国内
05年	9	23	47	36	52	38
06年	8	34	51	41	67	52
07年	15	37	57	41	85	51

史上最多だった06年を18回も上回り、開催地・県・国の数等も史上最多。開催地数はアジアでダントツ(世界6位)、事業数でも**世界第6位**に上昇。

ここ数年間、専従職員が開催地の開拓に費やす時間・労力はかなり減ったが、逆に開催を**希望する問合せも増え**、全体も増えるサイクルにある。更に、

①現在・過去の**会員・共催団体**パワーが大きい。長年の活動の蓄積・成果の一つとして、彼らの紹介や提案を通じて6事業(昨年も7)が立ち上がった。

②企画・講演した**開催地サミット**や**全国ワークキャンプ・フォーラム**を通じて、6事業が誕生した。

③同じ開催地で複数回開催する所が増えた。

④シニア・関西在住者・大学サークル等を対象とした、アジアでの特別事業が増えた(計9事業)。

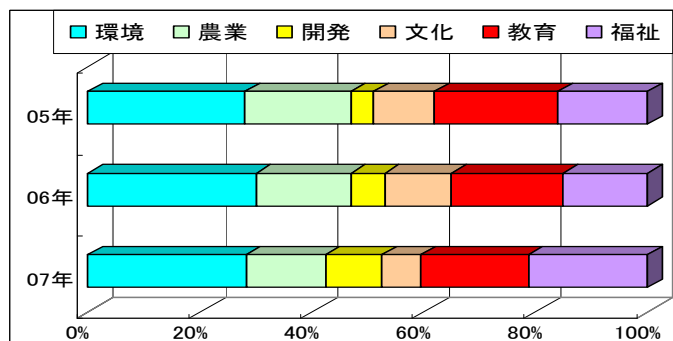
勿論、ただ多ければいい訳ではなく、**質も重要**。

NICEでは、①事業の意義、②受入意欲と態勢、③財政自給、の3条件を満たす所で行っている。逆にある程度、質が確保されていて、NICE側も実行可能なら**積極的に開拓**する方針だ。

<世界の団体ベスト10(事業数、開催地数)>

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ①フランス CONC (118,102) | ⑥日本 NICE (85, 57) |
| ②タイ GW (107, 12) | ⑦フランス SJ (81, 74) |
| ③ドイツ IJGD (95, 93) | ⑧インド FSL (77, 29) |
| ④イタリア LEG (93, 81) | ⑨フランス UNAR (68, 50) |
| ⑤フランス JR (89, 73) | ⑩スペイン SVI (62, 47) |

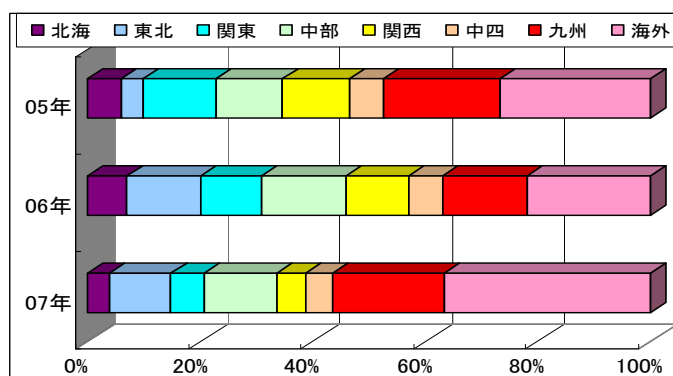
1-2) 分野・地域別の内訳



	環境	農業	開発	文化	教育	福祉
05年	28%	19%	4%	11%	22%	16%
06年	30%	17%	6%	12%	20%	15%
07年	28%	14%	10%	7%	19%	21%

環境(保護)は昨年よりやや減ったが、最も多い。福祉と開発の事業が増え、文化が減った。

福祉はアジア・アフリカで路上児童、養護施設、HIV感染者、障がい児の事業が増えたことが要因で、開発はアジアの被災地支援や農村開発に加えて、国内の過疎地4ヶ所で新たに地域おこしに取り組んだ。



	北海	東北	関東	中部	関西	中四	九州	海外
05年	6%	4%	13%	12%	12%	6%	21%	27%
06年	7%	13%	11%	15%	11%	6%	15%	22%
07年	4%	11%	6%	13%	5%	5%	20%	37%

地域別では**海外が急増**、九州も増加。関西・関東で減った。海外は先述のようにアジアでの特別事業が増えたのが大きい。また、立ち上げをサポートしているマレーシアでも、年間4回だったのが、8回に増えた。

2007 年国際ワークキャンプ一覧表 (NICE 主催分)

	開催地	期間	主なワーク	共催	全参加
01	インドネシア Jog Jakarta	02/05-02/17	被災地で幼稚園再建、文具寄贈	NVDA。IWC	12
02	宮崎県綾町	02/09-02/17	空き施設を改造。神社の清掃	実行委員会	6
03	鹿児島県和泊町	02/10-03/02	各農家で、菊の収穫・出荷補佐	長田米隆氏	5
04	マレーシア Sarawak 州	02/12-02/25	過疎の先住民村で、ゴミの穴掘り	MOVE。CLH	8
05	マレーシア Klang	02/12-02/25	養護学校で授業補佐や遊び企画	MOVE。PJKKK	10
06	ケニア Siaya	02/12-02/28	HIV 予防を住民に啓発。農作業	PLAS !。CIVS	15
07	モンゴル Ulaanbaatar	02/14-02/27	養護施設で英語教育や文化活動	MCE。養護施設 CCM	6
08	熊本県水俣市	02/19-03/04	学校のビオトープを再生。農作業	市国際交流協会 MIFA	10
09	宮城県栗原市	02/20-03/05	エコビレッジで雪かき、薪割り	くりこま高原自然学校	4
10	マレーシア Sarawak 州	02/26-03/11	過疎の先住民村で、ゴミの穴掘り	MOVE。CLH	13
11	マレーシア Klang	02/26-03/11	養護学校で授業補佐や遊び企画	MOVE。PJKKK	11
12	ウガンダ Kampala	03/03-03/17	HIV 予防を住民に啓発。学校補修	PLAS !。UPA	18
13	鹿児島県和泊町	03/03-03/23	各農家で、菊の収穫・出荷補佐	長田米隆氏	10
14	インドネシア Jog Jakarta	03/05-03/12	被災地で図書館建設、児童交流	IWC。らぶどれん	8
15	福岡県杷木町	03/10-03/20	国際子ども芸術祭の運営補佐	こどもあーと	10
16	三重県名張市	03/16-03/30	森の手入れ。子どもキャンプ運営	赤目の里山を育てる会	10
17	東京都渋谷区	03/20-03/29	子ども達に、世界の遊びを紹介	東京都児童会館	8
18	モンゴル Buhug	04/23-05/06	養護施設の畑周辺で、植林	MCE。養護施設 CCM	23
19	青森県鰺ヶ沢町	05/19-06/03	世界遺産の山で植林、苗床作り	白神山地を守る会	6
20	岐阜県白川村	05/25-06/07	自然体験森で下草刈りや植樹	トヨタ白川郷自然学校	10
21	青森県鰺ヶ沢町	06/16-06/30	世界遺産の山で植林、苗床作り	白神山地を守る会	9
22	モンゴル Buhug	06/20-06/26	農場で子ども達と、野菜の草取り	MCE。養護施設 CCM	7
23	長野県小谷村	06/27-07/10	生活共同体で有機農業や荷揚げ	共働学舎・真木農場	8
24	大分県日田市	07/07-07/21	子どもキャンプに向けた廃校再生	九州・沖縄子ども文化芸術協会	4
25	大分県日田市	07/20-08/04	子ども自然体験キャンプの補佐	九州・沖縄子ども文化芸術協会	7
26	北海道黒松内町	07/23-08/16	子ども自然体験キャンプの補佐	黒松内ぶなの森自然学校	5
27	東京都日の出町	07/24-08/05	納涼祭の準備・運営。裏山整備	日の出太陽の家	10
28	岐阜県高山市	07/27-08/10	火祭りの準備。老人宅で薪割り	高山市高根支所	14
29	青森県鰺ヶ沢町	07/27-08/27	世界遺産の山で子どもキャンプ	白神山地を守る会	3
30	宮城県栗原市	07/28-08/13	子ども冒険夏キャンプの補佐	くりこま高原自然学校	3
31	岩手県葛巻町	07/29-08/05	子ども自然体験キャンプの補佐	葛巻町畜産開発公社 くずまき高原牧場	1
32	島根県雲南市	07/31-08/10	10 代と、農作業や夏祭りの補佐	実行委員会	24
33	台湾 Yun-Lin	08/01-08/10	漁村で、国際理解の壁画作り	Vision Youth Action	13
34	佐賀県佐賀市	08/01-08/14	子ども達への夏タマテ箱を補佐	夢の学校をつくる会	9
35	福岡県北九州市	08/01-08/14	子どもキャンプ補佐。祭に参加	北九州青年みらい塾	12
36	長野県泰阜村	08/01-08/31	子ども自然体験キャンプの補佐	グリーンウッド自然体験教育センター	2
37	大阪府富田林市・太子町	08/02-08/16	草刈りや道作りで、里山保全	富田林の自然を守る会/太子町葉室山クラブ	12
38	長崎県雲仙市国見町	08/03-08/16	中高生達と、福祉ボランティア	市社会福祉協議会	13
39	福島県塙町	08/03-08/18	大型灯籠作りと、灯籠祭の補佐	塙望舎	14
40	大分県日田市	08/03-08/20	子ども自然体験キャンプの補佐	九州・沖縄子ども文化芸術協会	9
41	熊本県阿蘇市	08/04-08/18	農作業。子どもキャンプの補佐	実行委員会	19
42	ウガンダ Kampala	08/04-08/18	HIV 予防を住民に啓発。学校補修	PLAS !。UPA	12
43	マレーシア Klang	08/05-08/18	養護学校で授業補佐や遊び企画	MOVE。PJKKK	9
44	モンゴル Buhug	08/06-08/20	農場で子ども達と、野菜の草取り	MCE。養護施設 CCM	22
45	愛知県田原市	08/09-08/21	サマーキャンプ運営。森の整備	池の原フリースクール	11

	開催地	期間	主なワーク	共催	全参加
46	東京都大田区	08/10-08/24	池の浚渫等、野鳥公園の整備	東京港グリーンボランティア	10
47	大分県豊後大野市	08/10-08/26	農作業。子どもキャンプの補佐	実行委員会	10
48	宮城県栗原市	08/13-08/26	国際キャンプの補佐。有機農業	くりこま高原自然学校	3
49	インドネシア Semarang	08/13-08/27	医学生が、路上児童の健康診断	IIRC。ユーフォリア	13
50	新潟県佐渡市	08/14-09/02	里山保全。地球祝祭の運営補佐	森人	6
51	神奈川県鎌倉市	08/16-08/29	養護施設の祭を補佐。虐待防止	(独自企画)	17
52	福岡県星野村	08/16-08/29	森の整備。環境教育の学校訪問	実行委員会	10
53	静岡県御殿場市	08/17-08/31	富士山清掃。森林保全。家修復	国立中央青年の家	9
54	香川県綾川町	08/18-08/31	子どもの自然体験活動の補佐	綾上子どもの里インターナショナルスクール	9
55	マレーシア Sarawak 州	08/19-09/01	過疎の先住民村で、道路の整備	MOVE。CLH	15
56	島根県江津市	08/20-09/03	空き家の修復、イベントの補佐	結まーる プラス	7
57	モンゴル Buhug	08/21-08/28	農場で子ども達と、野菜の草取り	MCE。IIRC	15
58	鹿児島県川辺町	08/23-09/06	乗馬施設の補佐。障がい者乗馬	エコ・リンク・アソシエーション	9
59	長野県塩尻市	08/24-09/08	各学校で、国際理解授業を運営	市教育委員会	12
60	京都府和束町	08/24-09/08	お茶公園作り、有機農業の補佐	わづか有機栽培茶業研究会	15
61	フランス Prureaux	08/26-09/07	城を修復し、国際集会所に整備	大学生協トラベル。SJ	15
62	マレーシア Klang	08/26-09/08	養護学校で授業補佐や遊び企画	MOVE。PJKKK	13
63	イギリス Wales	08/29-09/14	森の歩道・柵作り、外来種除去	UNA。Afan Forest	14
64	フィリピン Cebu	08/30-09/09	マングローブの植林、水源地保護	WIP。名古屋外国語大学	17
65	ケニア Siaya	08/30-09/15	HIV 予防を住民に啓発。農作業	PLAS！。CIVS	16
66	インドネシア Semarang	08/31-09/09	養護施設で、交流や活動の企画	IIRC。Ruff	10
67	東京都大田区	08/31-09/14	池の浚渫等、野鳥公園の整備	東京港グリーンボランティア	14
68	バングラデシュ各地	09/01-09/14	両国の小学生の交流・文化理解	BWCA。Purna Jyoti	15
69	インド Auroville	09/01-09/15	稀少な熱帯常緑乾燥樹林の再生	Sadhana Forest	11
70	三重県名張市	09/01-09/15	市民基金の里山で、道の整備	赤目の里山を育てる会	15
71	マレーシア Sarawak 州	09/02-09/15	過疎の先住民村で、道路の整備	MOVE。CLH	8
72	北海道七飯町	09/02-09/16	針葉樹除伐・石積みで湖を保護	大沼マイルストーン 22	7
73	北海道新得町	09/05-09/18	溝掘り。有機農業やチーズ作り	共働学舎・新得農場	16
74	モンゴル 首都&Buhug	09/10-09/23	農場で子ども達と、野菜の収穫	MCE。養護施設 CCM	15
75	フィリピン Cebu	09/11-09/20	マングローブの植林、水源地保護	WIP	10
76	新潟県南魚沼市	09/12-09/23	山頂の自然再生。小学校の訪問	(独自企画)	11
77	モンゴル 首都&Buhug	09/15-09/28	農場で子ども達と、野菜の収穫	MCE。養護施設 CCM	7
78	熊本県氷川町	09/15-09/29	里山で間伐。住民に活動を広報	里山クラブどんごろす	8
79	島根県大田市	09/24-10/08	里山の保全。雑木林会議の運営	緑と水の連絡会議	22
80	タイ Phato	10/02-10/09	灯籠作りと道の補修、植樹	TCDF。とちぎ若者サポートステーション	5
81	長野県小谷村	10/17-10/30	生活共同体で有機農業や荷揚げ	共働学舎・真木農場	8
82	青森県鯉ヶ沢町	10/25-11/07	世界遺産の山で、各種保全作業	白神山地を守る会	8
83	静岡県芝川町	11/01-11/13	祭の補佐。里山の各種保全作業	ホールアース自然学校	8
84	熊本県菊池市	12/09-12/25	廃校活用施設で作業小屋づくり	きらり水源村	3
85	インドネシア Semarang	12/18-12/28	不利な子どもの応援。健康改善	IIRC	6

* 全参加＝全期間参加したボランティアの人数（日本人・外国人の合計）。他に、部分参加したボランティアや住民多数。

* 数字が太字（赤網）の5事業は、特定の団体のために企画した「グループ・ワークキャンプ」

* 数字が薄い（青網）14事業は、日本人と開催国のボランティアだけで行う「2ヶ国ワークキャンプ」。

1-3) 参加ボランティア

まず特筆すべきことは、開催地の共催団体やNICE事務局と共に、事業の準備・運営・フォローアップに尽力した「キャンペリーダー」の存在。NICE発足以来のことではあるが、彼ら抜きにこの事業の維持・発展は考えられず、今年も各地で大活躍してくれた。

	国籍	参加	日本人		外国人		地元	住民参加者
			計	国内	計	国内		
05年	30	569	300	178	215	195	54	8,191
06年	37	738	379	247	312	276	47	9,188
07年	36	885	529	222	281	257	75	9,580

*参加＝全期間参加（日本人＋外国人＋地元）。

地元＝海外開催分で開催国からの参加。

ボランティアの数は、**日本人は十分に確保**できた（総定数の107%を確保。100%を超えているのはキャンセルに備えて、定員以上に受け入れることがあるため）。ただし、事業によってばらつきがあり、定員を確保できなかった事業も25%あった。日本人限定事業が増えていることもあり、参加者は史上最多を大幅に更新した。

一方で**外国人が減った**のは、事業が増えても定員自体が増えていないこともあるが（日本人限定や定員の少ない事業が増加）、定員充足率も低下（96%→81%）。43%（昨年は30%）の事業では定員割れだった。

マレーシア、台湾等の「新しい国での立ち上げ」事業への申込が少なかったことも響いたが、日本の事業は国際的に質の高さが評価されていることに加えて、日本文化（特にマンガ）ブームもあり、**人気は根強い**。

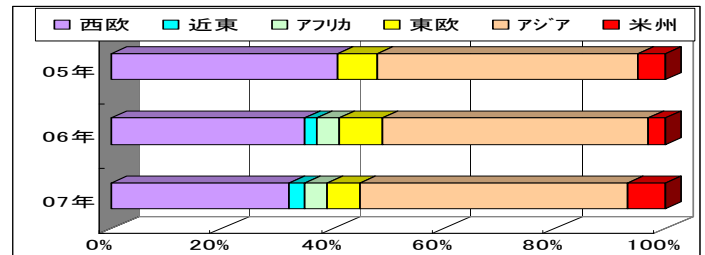
が一方で、（NICEの今までの立ち上げ努力も寄与して）**アジアでの開催国・事業が増えていること、欧米の団体の力が弱**まって、彼らが世界中に派遣する人数自体が減っていることも無視できない。

	日本人			外国人		
	女性	学生	年齢	女性	学生	年齢
05年	77%	84%	21.6	56%	84%	22.7
06年	67%	82%	21.8	60%	72%	23.3
07年	68%	86%	21.7	63%	82%	22.6

日本人の学生率はここ5年間、85%前後で変わらないが、女性率はここ2年間7割を切って、**男性が増加**。

もっと特徴的なのは**外国人の学生率**が2002～03年の6割台から**大幅に増えている**こと。欧州では社会人の休みが長く、渡航費もかかるため社会人が比較的多かったが、近年は社会人の休みが少なく、日本への渡航費が安い韓国人が増えていることが要因か。また、欧州では政府が青少年団体に対する補助を強めていることもあり、青少年団体化も進んでいる。

<外国人の地域比と国籍ベスト10>



	西欧	近東	アフリカ	東欧	アジア	米州
05年	40%	0%	0%	7%	46%	5%
06年	35%	2%	4%	8%	48%	3%
07年	32%	3%	4%	6%	48%	7%

西欧は減り、アジアが主流に。2ヶ国事業が増えたため、現地人の比重が大きくなったことも大きい。

05年	06年	07年
①韓国	①韓国 (31%)	韓国 (28%)
②ドイツ	②フランス (7%)	フランス (7%)
③フランス	③イタリア (6%)	ドイツ (6%)
④インドネシア	④ドイツ (6%)	モンゴル (5%)
⑤マレーシア	⑤マレーシア (4%)	マレーシア (5%)
⑥イタリア	スペイン	イギリス (4%)
⑦ギリシャ	⑦ウガンダ (4%)	イタリア (4%)
⑧スペイン	⑧イギリス (3%)	トルコ (3%)
⑨イギリス	⑨モンゴル (2%)	カナダ
⑩カナダ等	⑩カナダ等 (2%)	ウガンダ等 (3%)

1-4) 事業のレベルアップ作戦

① 選考や事前訓練で、ボランティアの質を向上

活動に強い動機を必要とする幾つかの事業では、申込時に「動機書」の提出を義務付け、厳しく審査。事前訓練（プレ・ワークキャンプ）への参加率は4割前後で、もっと大勢に参加してもらう作戦が必要。

② 週末ワークキャンプや中長期ボランティアの実施

色々組み合わせることで作業の成果を増やし、共催団体との絆を深め、参加者の意識を高める効果を発揮。

③ 成果の数値化・測定と、長期計画づくり

可能な範囲で成果を測り、計画に活かすサイクルづくりに取り組んでいるが、容易ではなく、道半ば。

④ 座談会の推進と、開催地チームの活発化

各事業で「考える」プログラムも推進。また参加経験者のチーム化も進め、活躍してもらっている。

⑤ 開催地同士の横のつながり・協力の推進

次頁で紹介する「開催地サミット」や「姉妹NGO」に加え、「共通アクション」の推進にも取り組んでいる。

特集1：国際ワークキャンプ・開催地サミット

日時	2/11（日）14:00～2/12（月祝）12:00
場所	東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センター（初日 14:00～17:30 のシンポジウムは、新宿区の角筈地域センター）
目的	①各地のワークキャンプのレベルを向上。 ②団体・地域・分野を超えた協力網を築く。 ③事業が生み出す成果を社会へ発信する。
参加者	74 名（全国の共催団体から 23 名、特別招待者 13 名、NICE 専従職員 8 名、一般来場者・運営ボランティア 30 名）。 助成：ソフトバンクモバイル株式会社
内容	① 記念シンポジウム http://nice1.gr.jp/sympo/sympo.htm ② 各事業の抱える課題と解決策 ③ 新しい協力ネットワーク作り

全国で国際ワークキャンプを NICE と共催する、担い手達が集結する「サミット」を 3 年ぶりに開催。

5 回目の今回は記念シンポジウムを企画して、活動の成果をより幅広く社会に発信することを狙った。



第 1 部では以下の 5 氏に、福祉・環境・地域開発・農業・教育における、現場の状況と取り組み・成果を発表して頂いた。

滝沢浄氏（知的障がい者施設 日の出太陽の家 前施設長）
田淵武夫氏（富田林の自然を守る会 代表）
中井剛彦氏（高山市高根支所 地域振興課）
宮嶋望氏（共働学舎 副理事長／同新得農場 代表）
柳田茂樹氏（九州沖縄子ども文化芸術協会 理事長）



第 2 部は各分野ごとに分科会を作り、他の開催地の方も囲みながら、話を掘り下げ、将来への提言やアクションを考えた。

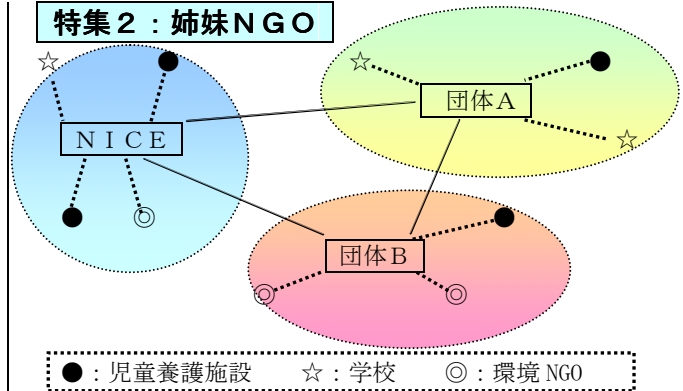
<成果例>

＊ 国際ワークキャンプの開催を検討していた**鹿児島県と長野県**の NPO 職員が参加し、様々な話に触発を受けて、その後**開催が実現**した。

＊ **文科省・厚労省・東京都や企業・助成財団・大学教授**等も招待参加し、国際ワークキャンプの発展・推進に一層協力的になった（例：勤務する大学での説明会開催、提携事業の拡大、事業への助成）。

＊ **開催地同士でノウハウを交換**し、「参考になったので、うちでも取り入れたい」という声相次いだ。また別の形で協力するケースも生まれた。

特集2：姉妹 NGO



上の図の例のように、各国の国際ボランティア NGO（団体 A、B）と「動脈」で、各団体は自国の各地で色々な分野・種類の共催団体と「毛細血管」でつながっている。現在はボランティアが「血液」として国際ワークキャンプに参加し、様々な地域・団体に新鮮な「酸素」を届けている。が実は、他の「栄養」も運べるのではないかな。

その一つが「姉妹 NGO」による協力。同じ国の中では同種の団体同士のネットワークはあっても、国を超えて草の根レベルで実際的につながる機会、そんなにはないようだ。

1) 児童養護施設同士：

2002 年からモンゴルと日本の間で、子ども達の文通等を橋渡し。06 年にはインドネシアも含めた 3 ヶ国で特別ワークキャンプも東京で実現して、多大な成果！07 年もモンゴルで第 2 回を実施（詳細は次ページ参照）。

2) 小学校同士：

2003 年から、「SSP（姉妹学級プロジェクト）チーム」が、日本～バングラデシュの小学校をつなげる特別ワークキャンプを開催。07 年も大成功！

1) 春に東京・埼玉の小学校を 3 回ずつ訪問、バングラデシュの文化や子ども達を紹介。贈り物を作る。

2) 夏にバングラデシュの小学校（ダッカとチッタゴンで 1 校ずつ）を訪問し、日本の文化や子ども達を紹介。お返しの贈り物を作る。07 年は 17 人が渡航。

3) 秋に東京・埼玉の小学校で報告。また、JICA の協力で両国の子ども達が対話するテレビ会議も開催。



3) 環境 NPO 同士：

2007 年に「東京港グリーンボランティア」とイギリスの「Afan Forest」が互いにワークキャンプを開催して訪ねあうプログラムを開始（詳細は次ページ参照）。

1-5) 事業の一部を紹介

<その1：日英森林姉妹 NGO>

日時・場所	①8/10-24 東京都大田区「東京港野鳥公園」 ②8/29-9/14 英国 Wales「Afan Forest」
目的	日英の森林 NGO 同士の交流・協力づくり
参加者	①日本4・英国2・韓国2＋住民多数 ②日本9・英国4・ベトナム1＋住民多数 (日本側は76歳の最高齢参加者も活躍！)
共催	①東京港グリーンボランティア ②UNA. Afan Forest
助成	国土緑化推進機構 (①に対して)
内容	①生態系を保つ草刈り、池の泥の除去等 ②自然歩道づくり、フェンスの設置等

<作業成果とボランティアの感想(共に①)>



作業前はこんなに土で埋まっていた池が



ボランティアの力でこんな風に変身！

泥の中での作業なので、機械も使えずに人力でやるしかない。でもだからこそ、みんなのやる気も一層アップ。メダカの棲める池を目標に、ハードな仕事に取り組んだ。

「草刈りはハードだけど、きれいになっていく所を見たらやってよかったと思えた。虫とか沢山いてすごく嫌だったけど、何日か経つと慣れてきて気にせずできるようになった。」
(大学生ボランティア)

「グリーンボランティアには若い人があまりいないが専門性と継続力が高く、NICEには若い力がいっぱい。両者の良いところを活かしていくべきだ。」(リーダーの大学生)

<プロジェクトの日程(②の場合)>

8月29日	集合
8月30日	アフン森林公園見学
8月31日	石垣作りの手伝い
9月01日～02日	ハイキングコースの整備
9月03日	市役所訪問
9月04日	フリー(ガワに遠足)
9月05日	フリー(カーディフ観光)
9月06日	ハイキングコースの整備
9月07日～11日	枝打ち作業
9月12日	地元の方々とお別れ会
9月13日	フリー
9月14日	清掃・総括・解散

<その2：姉妹養護施設ワークキャンプ>

日時・場所	8/20-27(8日間)。モンゴルの Buhug、ウランバートル、Khandgait の3ヶ所。
目的	子ども達の成長と、施設同士の協力発展
参加者	14名(日本3・モンゴル8・インドネシア2。うち7名が大人)。部分参加420名
共催	モンゴル MCE。インドネシア IWC
助成	日本財団。富士ゼロックス端数倶楽部
内容	有機農場で野菜畑の草取り、子どもキャンプ場の整備、ウランバートル観光、他

<活動の風景と成果の例>



子ども達とバレーボールコート土ならし



間引いた人参で、おしゃれポーズ



サマーキャンプ場で、子ども達との一コマ。



農場の周辺をみんなで散歩。ゲルも訪問！

- * インドネシアの Tamrin はシャイで食べ物や気候・生活に戸惑っていたが、最後は「インドネシアに帰りたくない」。
- * モンゴルの子も達が初めてインドネシア人に会い、言葉や食べ物、踊りにも興味しんしんで「将来はインドネシアに行きたい」という夢を持つようになった子どももいた。
- * インドネシアの引率者 Pujiarti は、その後孤児院を開設した。モンゴルのやり方の幾つか(例：子ども達が働いて食料を自給)を、自分の所でも導入したいと意気込む。
- * 岐阜県高山市の火祭りでは来場者のうち、数百人にこの事業を説明し、うち約40人が国際ボランティア・チーム(15名)の作った炭やエコキャンドルを買って下さった。

<プロジェクトの日程>

8月20日	集合。ウランバートルで宿泊
8月21日	Khandgaitへ移動。サッカー大会
8月22日	バレーボールコートの整備。各国語教室
8月23日	Buhugへ移動(途中、ウランバートル観光)
8月24日	野菜畑の草取り。日本ナイト
8月25日	野菜畑の草取り。インドネシア・ナイト
8月26日	野菜畑の草取り。さよならパーティー
8月27日	清掃・総括・解散

< その3 : 台湾での事業開拓 >

日時・場所	8/1-10 (10日間)。台湾の雲林県・台西 (南西部の漁村。台北からバスで4時間)
目的	アートによる美化、活性化、異文化理解
参加者	15名 (日5・韓2・台8) + 住民多数
共催	Vision Youth Action。台西芸術家協会
内容	殺伐とした壁に、各国を紹介するアートや世界中をボランティアで廻るすごろくを描画

< 活動の風景と成果の例 >



日本の四季の絵を描くボランティア



雨が降っても大丈夫。地元の子ども達も参加



台西はシーフード好きには天国の美味満載



すいか大好き！休憩時間にパワーを充電。

(地域にとって)

- * アートのお陰で町がすっかり明るくなり、最初は疑心暗鬼だった近隣住民も次々と「うちの壁にも描いて！」。
- * プロが描くと住民達は入り込む余地がないが、素人でフレンドリーなボランティア達なので！一緒に描いたり、差し入れをくれたり、日ごとに参加者が増えていった。
- * 戦前、日本領だった時に日本語を習ったお爺ちゃんが嬉しそうに日本人と会話。豪華な夕食を振舞って下さった。
- * 地元から高校生が飛び入り参加。最初は1日のつもり最学校を休んで最後まで参加し、2008年はサブリーダーに。

(台湾全体にとって)

- * 史上初の台湾での国際ワークキャンプが、ついに実現！
- * VYAの事務局長と事務局次長はこの後、日本のワークキャンプに参加。CCIVS、NVDA等の国際ネットワークにも加盟を果たし、台湾での事業を発展させる意欲と実力十分。
- * 新聞・テレビも多数取材。台湾の外務省も全面協力。

< プロジェクトの日程 >

8月01日	集合。海辺で歓迎パーティーのBBQ
8月02日～04日	3ヶ国のイメージを壁画
8月05日～06日	フリー (エコツーリズム体験)
8月07日～09日	すごろくや各国紹介の壁画
8月10日	清掃・総括・解散

< その4 : 初のシニア向け企画 >

日時・場所	6/20-26 (7日間)。モンゴルの Buhug (首都近郊の草原地帯) とウランバートル
目的	養護施設の応援と、シニア参加の推進
参加者	7名 (日本5・モンゴル2) + 住民多数
共催	ワークキャンプ団体・MCE。養護施設・CCM
内容	施設が郊外に持つ有機農場で、草取りの手伝い。ウランバートル観光も

< 活動の風景と成果の例 >



Kidscamp の職員さんに自己紹介。



養護施設の子どもたちに日本語を教える。



Kidscamp の職員さんに自己紹介。



訪問者の馬に乗せてもらうことに。

< プロジェクトの日程 >

6月20日	集合。
6月21日	子どもたちと草取り。周辺散策。
6月22日	子どもたちと草取り。子どもに音楽レッスン
6月23日	Kids camp 訪問。
6月24日	フリー (テルレジ観光。)
6月25日	子どもたちと草取り。フェアウェルパーティ
6月26日	総括・解散 (ウランバートル観光)

(地域にとって)

- * 単調な草取りの作業も、ボランティアが加わって楽しみながら進んだ。
- * ボランティアが持参したおかげで、子どもたちが新しい楽器を弾けるようになった。
- * 養護施設の職員さんたちにとっては世代も近く、嬉しそうに施設を案内してくださった。

(参加者にとって)

- * シニア世代向けと銘打ってあるので、気軽に申込できた。
- * 体力的にも心配だったが、周りにあまり気を遣う必要もなく、自分のペースで作業で来た。
- * 参加後、日本で週末ワークキャンプの企画者に。

<その5：国際ワークキャンプ・和束 08>

日時・場所	8/24-9/8（16 日間）。京都府和束町（お茶の生産で有名な京都府南部の農村）
目的	有機農業の応援と、地域の活性化
参加者	15 名（日 7、韓・ポーランド各 2、スイス・独・加・仏各 1）+住民多数
共催	わづか有機栽培茶業研究会
内容	お茶の公園作り、茶農家で作業

< 活動の成果の例とボランティアの感想 >



挿し木は 2 日間で 3000 本！



幼稚園訪問で異文化理解の教育も推進！

（写真は 2006 年のワークキャンプより）

- ◎ 20 時間×30 人で、「お茶の公園」作りも一気に進んだ。
- ◎ 地域活性化に興味を持ち、取り組む人が増えた。
- ◎ 京都新聞や NHK の取材も受け、数十万人に活動を紹介。

この 2 週間、かけがえのない充実した日々を過ごすことができました。国際ワークキャンプは初参加で、参加前はドキドキしていたけれど、そんな思いはすぐに飛んでいきました。

メインワークは「お茶の公園」づくりを目指して、草刈り等の作業でした。みんなと協力して声を掛け合いながら気持ちのいい汗をかけました。地元の人達と公園の予想図を描いた看板作りも完成できた喜びは、とても大きなものでした。

和束の人達は、優しい人達ばかりで、すぐ和束に魅了されました。お茶に対する見方も変わり、歴史や文化に触れ、何年もかけてみんなの手元に届くのだなと感動を覚えました。

メンバーも思いやりのある人達ばかりで、夕食の時に何人分かの量が足りなかった時、みんな「半分とりや」、「少し分けてあげる」と分け合ったり、一人が体調を崩して寝込むことがあれば看病したりと、私はこの共同生活を通して、文化も違う外国人に対して、「壁なんてない」と実感できました。

（石井理与さん）

< プロジェクトの日程 >

8 月 24 日	集合。オリエンテーション
8 月 25 日～26 日	お茶の公園作り。26 日夜は茶香服
8 月 27 日	フリー
8 月 28 日	小学校で草刈り。夜はスポーツ大会
8 月 29 日～31 日	各農家に分かれて農作業
9 月 01 日	お茶の公園作り（挿し木・木運び）
9 月 02 日	イベント運営（踊り・8m 海苔巻き等）
9 月 03 日	フリー
9 月 04 日～06 日	お茶の公園作り。05 日午前保育園
9 月 07 日	小学校訪問。お別れ会準備・本番
9 月 08 日	清掃・総括・解散

<その6：こども村 08>

日時・場所	8/3-19（17 日間）。大分県中津江村と福岡県杷木町（森や川が囲む、自然豊かな山村）
目的	子ども達の人間・環境教育のサポート
参加者	9 名（日 5、韓・露・台・独各 1）+住民多数
共催	九州・沖縄子ども文化芸術協会
内容	子ども自然キャンプの運営補佐

< 活動の風景とボランティアの感想 >



乗馬も
息びつ
たり！



いつの間にか、こんなに懐いて、
すやすやお昼寝。

海外のメンバーと連携をとれるかが不安でした。特に同じ班のドイツ人は日本語が挨拶程度でしたが、日本語力に関係なく知ろうと努力してくれる人で、助けられました。

私の担当した 2 班は本当にやんちゃで、初めはどうまとめるかが悩みでした。自閉症の子、気付くところか行ってる子。そんな時に、「そんなに仕切らなくても自分でできるから、子どもに任せてればいいよ。安全確認や助言するぐらいで。」と聞き、子ども達との接し方を変えました。献立を決める時、班で何かをする時は、子どもを中心に決めてもらいました。

それ以来、班のまとまりが強くなり自発的に取り組むようになりました。コンテストでは 1 位をとりたいたと、時間内にトンカツを作りました。スタッフなので手伝えませんでした。が、団結している姿を見て、感動しました。キャンプファイアーの出し物時もみんなで 1 時間位話し合い、何回も練習して、本番で見せてくれました。子どもはやりたかった事には、信じられない力を発揮するねんなんと実感しました。掃除も、私の班はゴミ捨てとトイレ掃除。初め、子どもは嫌がってやらないだろうなあと思っていました。しかし、嫌やあとと言いつつも最後までキッチリやってくれたので、改めて子どもって大人が考えるよりもできるんやなあと実感。

これからは、子どもの可能性とかをもっと信じていきたいです。今思うと、子ども達も成長したけど、私自身も子どもに支えられ励まされて、自信につながりました。学生最後の夏休みに、忘れられない思い出が作れてよかったです。

（安田隆子さん）

< プロジェクトの日程 >

8 月 03 日～04 日	集合。オリエン・研修。テント設営
8 月 05 日～18 日	「子ども村 2007」を開催、運営補佐
8 月 18 日～19 日	18 日午後は片付け。19 日総括・解散

第2章 国際ワークキャンプの派遣

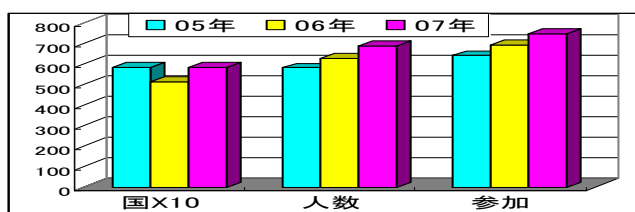
第1章と共に、発足以来の大黒柱のもう一つが、この派遣事業。18年間で95ヶ国に8,226人のボランティアを日本から派遣し、世界各地での取組を応援すると共に、各界に多様な人材を輩出してきた。

2-1) 派遣ボランティア数と傾向

	国	参加	人数	再	女性	学生	年齢
05年	58	639	579	30%	71%	84%	21.9
06年	51	690	627	18%	70%	84%	21.7
07年	58	745	686	13%	75%	87%	21.6

参加 = 同じ人が2つ参加したら、2で計算。

再 = 申込者のうち、参加経験者が占める割合。



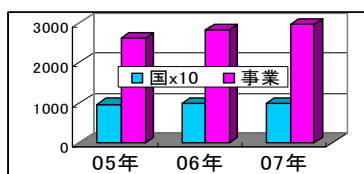
派遣数は05年を除いて毎年増えてきたが、今年は04年の723人を上回って史上最多に。国際ボランティア活動の裾野拡大やピークシーズンに人気国で目立ったテロ・戦争・疫病等がなかったという外部要因（ただしワークキャンプ団体が国内外で増え、競争が激化という負の要因も）、様々な広報・提携の努力・協力といった内部要因が色々と絡んだ結果であろう。

参加者の内訳では、以下の特徴が目立つ。

- ★ 初参加者の比率が、過去最高の87%に増加（00～04年も75～78%で推移）。
- ★ 女性率は第1章では減ったが、ここでは75%に回復（00～02年には78～80%を占めていた）。
- ★ 学生率は、統計を始めた00年以降で史上最多。

2-2) 紹介事業数と情報本作り

	国	数
05年	97	2643
06年	98	2826
07年	98	2980



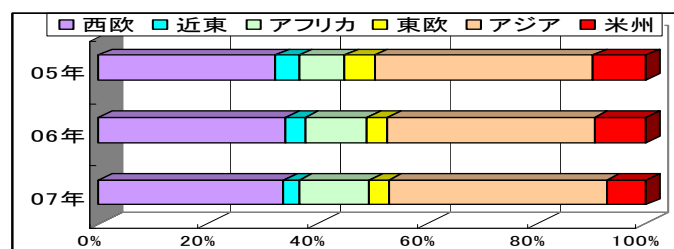
世界の国際ボランティアNGOで、1、2位を争う。これら全てを翻訳・編集した情報本「世界のワークキャンプ」(93年以降毎年発行)はボランティア36名(＋専任職員)の尽力で、4/15に原稿完成、2500部印刷。

2-3) 参加した分野・地域

	環境	農業	開発	文化	教育	福祉
05年	24%	5%	10%	26%	18%	18%
07年	23%	6%	22%	13%	18%	18%

開発が倍増し、文化が半減した以外は変化なし。
ちなみに、世界の全事業平均はあまり変化なく、

	環境	農業	開発	文化	教育	福祉
02年	29%	3%	37%	10%	12%	8%
05年	32%	3%	32%	11%	13%	9%
07年	31%	4%	32%	12%	12%	9%



	西欧	近東	アフリカ	東欧	アジア	米州
05年	32%	4%	8%	5%	40%	10%
06年	34%	4%	11%	4%	38%	9%
07年	34%	3%	13%	4%	40%	7%

2000年に入って急増していたアジア（99年は18%）は04年の46%から減ったが（地震や鳥インフルエンザの影響か？）、約4割で安定。アフリカが増加、米州が減少。

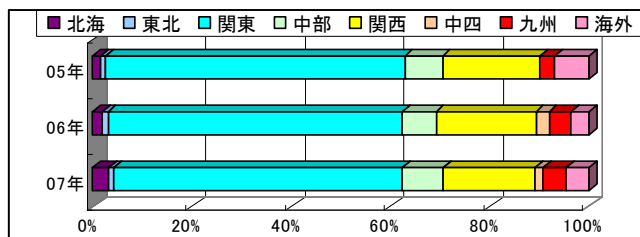
また国際主催で、日本に来た外国人の居住地と比べると、アジアと東欧がやや少なく、アフリカが多い。

<参加した国・ベスト10>

05年	06年	07年
ドイツ	インド	→インド 72
インド	ドイツ	↑ベトナム 71
タイ	ベトナム	↓ドイツ 64
インドネシア	フランス	↑インドネシア 52
モンゴル	イタリア	↑ケニア 44
ケニア	タイ	↓フランス 44
フランス	モンゴル	↓イタリア 38
ネパール	タンザニア	→タンザニア 34
イギリス	メキシコ	↓メキシコ 31
メキシコ	インドネシア	↓モンゴル 30

00～04年はタイが5連覇したが、戦国時代が続く。インドが首位を守ったが、ベトナムが僅差に接近。

2-4) 参加者の在住地域



	北海	東北	関東	中部	関西	中四	九州	海外
05年	2%	1%	59%	7%	19%	2%	3%	7%
06年	2%	1%	59%	7%	20%	3%	4%	4%
07年	3%	1%	57%	8%	18%	3%	5%	4%

ここはあまり変化がなかった。依然として関東が中心。県別ベスト10は、以下の通り。1人もいないのは8県（岩手・秋田・栃木・富山・石川・鳥取・香川・宮崎）。

①東京	216	⑥京都	43	海外在住者 33 人では	
②神奈川	94	⑦愛知	38		
③埼玉	53	⑧北海道	22		
④大阪	47	兵庫			
千葉		⑩福岡	16		
				①アメリカ	13
				②イギリス	8
				③フランス	3
				④中国、他	2

2-5) 経験者達のチーム活動

07年は**アフリカ、南アジア、モンゴル、インドネシア、マレーシア、韓国、中南米**の7チームが活動した。（マレーシアは、正確には第1章の事業に分類。）

<A> これから行く参加者へのケア>

どのチームも、参加者のオリエンテーションや報告会を、事務局と共に企画・運営した。メーリングリストでも、これから行く人に様々な助言を行った。

 広報・新たな参加者層の発掘>

- ☆ アフリカチームは、店を貸し切りで体験談を話し、料理をふるまう「旅のしずく」を引き続き開催した他、「アフリカン・フェスタ」や「フジロック」にも出展。
- ☆ 10/28に、東京都渋谷区で地球ボランティア・フェスタを開催。モンゴルと中南米チームがブースを企画。

<C> ワークキャンプの企画>

中南米チームは、東京都渋谷区での週末ワークキャンプを開催し、親子数十名にゲームや踊りを交えながら中南米の社会・文化を紹介して、理解を広げた。

<D> 現地NGOとの関係強化、来日スタッフのケア>

インドネシア IIWC 代表の Puji 氏、ベトナム VPV 代表の Phuong 氏が AEVTP（第5章参照）のために来日した際、経験者達がホームステイ受入等に積極的に協力。

2-6) 質を上げる他の取り組み

① 評価の吸い上げと、意見交換

参加後に**参加レポート**を書いてもらい、また**報告会**（ただいま会）も計4回開催して計78人が参加。経験を共有しながら、事業や運営の改善点をチェックした。その中で目立った点は**海外の提携団体にまとめて伝え、事実確認や意見交換も行った**（例：キャンプリダーがセクハラ気味なので、注意してほしい）。

② 「オリエン」と「プレキャン」

NICE では、参加者への事前案内・トレーニングを充実させるために、以下を実施している。「不安が解消し、役だった」「仲間が沢山できた」「NICEの他の活動に興味を持った」と概ね好評。

☆ **オリエンテーション**（平日夜に、経験者も交えて助言、質疑応答・情報交換や討論）。参加者の47%が参加。関東21回+関西12回=計33回開催。

この他、札幌・函館・長野・名古屋・福岡でも、会員のチームや職員がミニ・オリエンを実施した。



7月4日は、東・東南アジアへのボランティア20名に経験者・スタッフ9名が助言。終了後は有志でご飯も食べに行き、和気あいあいでした。

☆ **プレ・ワークキャンプ**（週末2日間の合宿で、ワーク・自炊・討論・英会話・オリエンを体験）：関東5回+関西4回=計9回開催。参加者の11%が参加した。（主催事業では、関東の37%・関西の51%が参加）



7月7日～8日は、東京都日の出町で開催し、26人が参加。ワークは田んぼの手入れ。泥んこになりながら、汗と笑いの絶えないひと時でした。



お昼ごはんは、流し素麺。一生懸命働いたから美味しい！素麺を追いかけながら、ボランティア同士も、地元の方とも仲良くなれました☆



夜はオリエンテーション。平日よりも時間をたっぷり使えるので、参加して成し遂げたいことなどもそれぞれが熱く語りました。

2-7) 事業（体験談）の一部を紹介

* 掲載されている写真は、紹介されている報告者及びその参加事業のものとは、異なることもございます。

① たくさんの初めて。 （環境保護 in フランス）

報告者	山本匡位さん
期間	8/25～9/15
ワーク	登山道の整備
宿泊施設	ロッジ
参加者	11名（仏・日各3、チェコ・スロバキア各2、露）



私にとって、初めての海外、初めてのボランティアでした。準備中は何で参加を決めたんだ…と不安になりましたが、実際参加してこんなに楽しいものなんだと、感動しました。

参加したみんなは優しく、私の下手な英語を一生懸命理解しようとしてくれたのでますます頑張ろうという気持ちになり、英語を勉強するには素晴らしい環境でした。

ワークは整備と聞いていたので、土をちょっと入れたりならしたりするだけで簡単なのかな…と思っていたら、全然そうではなく、登山道を作るワークでした。最初の1週間は毎日が筋肉痛でした。慣れてくるにつれだんだん楽しくなってきた、今日は何をしようかな、ああやれば歩きやすいかなと色々考えるくらい余裕が出来ました。そして完成した時！！あの喜びは一生忘れられません！！



普通の生活・娯楽も、とても楽しかったです。湖に行ったり、村の人達とパーティをしたり、山登りをして一緒にカタコトだけれど話してみたり…。ただ観光客として行っていたとしたらこんなに素晴らしい経験はできなかった、と心の底から思います！本当に参加してよかったと思います。私に協力してくれたみなさんにも、ワークキャンプのメンバーにももちろん、感謝しています！！ありがとうございます！！

② No more war ! と心から思える日々 （平和学習と施設整備 in スイス）

報告者	山川朝未さん
期間	8/19～9/1
ワーク	No more war について NGO との勉強会、薪割り、屋根の掃除、庭の道作り
宿泊施設	テントや屋根裏部屋
参加者	10名（独・日各3、伊、ベルギー、ルーマニア、ベラルーシ）

スイスのワークキャンプに参加しました。まず、着いた時に感じたことは想像に反して滞在先の環境が良かったことです。大きな家でキッチンやシャワーもあり、ベットマットの上に寝袋をひいたので寝心地最高でした。

ワークキャンプのテーマが「No more war」ということで、参加者はみんな国際関係学部に関する人ばかりでした。興味が合ったこともあり、いつもわいわい賑わっていて、参加者の多様性にも驚きでした！日本にはあまり接点がないベラルーシ、ルーマニアの子達もいたので、普段出会えない出会いに満ち溢れていました。私はこのワークキャンプで、自分の中の世界観をブワーッと広げられました。

ワークも楽しく、薪割り、屋根上で瓦掃除、ジャム作り、フルーツ採り、粗大ごみの解体等等。更にこのワークキャンプではSTUDYの部分も重要な位置を占めていてワークの半分はNGO団体の方々が来てくれて色々なSTUDY、ディスカッション、ゲームをしました。

週末にはなんと山へハイキングに行って綺麗な山からの景色を一望し、次の日にはカヌーを楽しませてもらえました。

このワークキャンプで現地に住んでいる方々とも親しかなれ、また帰っておいで！と言われ、本当に日本に帰りたくない思いでした。この後、参加者友達とドイツへ行きました。そこでは、毎日毎日いろいろな人と出会えました。この旅でどれだけの出会いがあり、何をしてきたのかはとても書ききれません。しかし、一つ言えることは自分が願って行動すれば、自分の世界は必ず変えられるということです。

＜ちびっこ参加者とも、友達になったよ＞



③ 大切なのは気持ちと笑顔！ (子ども教育 in トルコ)

報告者	阿部由佳さん
期間	7/7～7/21
ワーク	サマークラスで子ども達に英語や文化を伝える
宿泊施設	ペンション
参加者	14 名（トルコ・韓 3、ウクライナ・アゼルバイジャン各 2、オーストリア、ポーランド、ハンガリー、日）

大学4年の夏、私は今しかできない特別な経験がしたい、世界中に友達がほしい、という想いからボランティアへの参加を決めました。そして目標はトルコで達成されました。集合する日の前日、私はすごく不安でした。しかしトルコの人々は本当に親切で、困った私をみるとすぐにみんなが助けてくれました。バス代まで払ってくれたおじちゃんに感動。私は参加前から既にトルコの虜になりました。このワークキャンプでは更なる感動と素晴らしい日々が待っていました。

みんな陽気で思いやりのあるメンバーでした。毎日のように海で泳ぎ、トランプで子どものように真剣に遊んだことも。朝起きたら誰かのイタズラで、ドアにカエルを入れたペットボトルがつるしてあることもあって…アットホームで家族のようでした。

活動内容は子ども（4～16 歳）のサマークラスを受け持つこと。子ども達はトルコ語しか話せないと聞いていたので、少々不安はありましたが、実際に会ってみると何のその。ジェスチャーと笑顔で、十分に分かり合えました。折り紙やテコンドークラス、サッカーゲーム、ダンスパーティを通じて仲はどんどん深まり、私のトルコ語も日々上達しました。子ども達の独占欲の強さには驚かされましたが、子ども達もいろいろな意味でこの2週間で成長してくれたと思います。

現地言葉を話せるから良いということではありません。勿論話せるに越したことはありませんが、大切なのは「気持ち」。理解しようとする心、相手の心に飛び込もうという気持ち、言葉や文化の壁を越えるのだと、このボランティアを通じて実感しました。そして、「笑顔」です。笑顔は世界のどこでも人々を惹きつけるパワーを持っているからです。



④ リアルなアフリカ♪ (建設 in タンザニア)

報告者	佐藤純子さん
期間	9/16～9/29
ワーク	学校の建設
宿泊施設	学校の寮
参加者	23 名（タンザニア 13、独 3、日・スペイン・アイランド各 2、オランダ）

「彼らは村の中で生活しているから、お金なんて必要ないんだよ。」

この言葉を聞いた瞬間ハッとしました。日本では「援助が必要な地域」というイメージが強いけど、本当は「援助」ではなく「理解」することなのではないだろうか？初めてのワークキャンプは、様々な国・文化・宗教・歴史のイメージと実際のギャップを埋める2週間になりました。

開催地に着いてみると、私の想像とは真逆。キリマンジャロの近くにあるルショトという町は「砂ぼこり、刺すような日差し」ではなく、「冷え、雨、森」の世界でした。生活も「貧困」とは違いました。人々は道になっているバナナを食べて、槌から家を作って…確かに停電や断水はたまにありましたが、生活するには十分でした。むしろ日本の生活が十分すぎるのではないかと疑問さえおこりました。

一方で、交流を通じて、日本という国を改めて考えました。「日本の国旗はどういう意味？」、「日本人はなんで団体行動ばかりするの？」。単純だけど、はじめて質問の答えが見つかりませんでした。

今の日本では、新聞、テレビ、インターネットで世界の情報や映像をみることができるけど、それは本当に一部でしかありません。

「自分でその土地に行って、自分の目で見る」
私のアフリカでの体験も1つの側面でしかないけれど、それは確かにリアルなアフリカでした。



⑤ 野蛮で攻撃的な人々？ (難民支援 in ポーランド)

報告者	真鍋昂さん
期間	8/4～8/14
ワーク	チェチェン人難民に対する英語、ポーランド教育
宿泊施設	難民キャンプ
参加者	8名（ポーランド3、スロベニア、フィンランド、クロアチア、米、日）

私が訪れたチェチェン人の難民キャンプは、ワルシャワ中心部から約2時間の小さな村にありました。周りは畑しかない非常に落ち着いたところでした。

まず驚いたのは施設の設備の良さです。「難民キャンプ」と聞くと、快適さに欠けたものを想像しがちですが、ベッド、シャワー等の整った素晴らしい内容でした。仕事の内容は、難民に英・ポーランド語を教えることで彼らが困難を所得し際に自立した生活が出来るような手助けでした。

私以外のキャンプメンバーは英語圏での活動が豊富なアメリカからの人々のため、英語が流暢でない私にとっては初期は大変なものでした。しかし、とにかく失敗を恐れずに発言することに努めました。またメンバーも25歳以上の人がほとんどで大人の発想をもっており、何度も助けられました。

難民の多くはチェチェン人、そして少数のタジキスタン地区からの人々もいましたが、ほぼ全てがロシアから逃れてきた人々でした。彼らとその経緯について語り合う時間も多くあり、私自身にとっても「難民問題」を深く考えさせられました。英・ポーランド語を教えていると、大半の人々は途中で投げ出すものの、中には真剣に毎日私たちとの勉強に取り組んでくれる人もいました。とりわけ女性の方々の学問への意欲が強かったのが印象的でした。

今回のワークキャンプは初めての参加でした。2週間の間はとにかく忙しく、充実した内容のものでした。これからはポーランドでの難民キャンプにより多くの日本の方々が参加して頂ければと思います。チェチェン人の方々は、日本のメディアで伝えられるような野蛮で攻撃的な人々では決してありません。私たち、日本人とは文化が全く異なりますが、これからの参加が増えれば、日本側、チェチェンの人々にとっても良い意味での「文化交流」になると思います。

<ポーランドは肉料理が中心です。美味しい！>



⑥ 未知の国・グルジア (被災地復旧 in グルジア)

報告者	小宮啓吾さん
期間	11/24～12/8
ワーク	津波による破壊の整備、農園の手伝い
宿泊施設	ホストファミリーの家
参加者	6名（米2、ベルギー、チェコ、グルジア、日）

「英語が通じない！！」グルジアに着き、一番強く感じたことがこれだった。どこに行くにも、文字が読めず、また言葉も通じない。旅行用の会話集等でもグルジア語はないのでどうすることもできない。今まで全く聞いたことがない国「グルジア」、そしてほとんど情報も持っていない状況が不安でしかなかったが、最高にスリリングで私の冒険心をくすぐった。そしてどんな状況でも「何とかなる」ことを知った。

ここでのワークキャンプは初開催ということで、主催者側は上手く業務フォローが出来ていないせいもあり、イベントや雨の日には何もすることができず、フリータイムが多くなってしまった等の問題点もあったが、結論的にはすごく楽しむ事ができた。それは二日に一度はBarにお酒を飲みについていたが、毎回現地の人とは全く言葉が通じないなかでも、身振り手振りで話をし、一緒に踊り、みんな何度も乾杯をし、笑い合ったこともあるだろう。

また、普段の仕事はみかん狩りを行ったが、仕事をしながら、お互いにコミュニケーションをとったり、仕事の中に遊びを入れたりすることで仕事を楽しむ事ができた。

さらに、偶然にも現地のボランティアの人に日本人が珍しいということもあり、結婚式の二次会にボランティアメンバーの私だけ誘ってもらった。グルジアの二次会は非常にたくさんの人を呼ぶらしく、会場では数え切れない席、そして料理が並んでいた。私は、その場にいること、見えるもの、食べるもの、全てが新鮮すぎる体験で、一生忘れることができないだろうと感じた。未知の国だったグルジア。気候はとても寒かったが、人々の暖かさは真夏だった。

<子ども達も助っ人で加わってくれました。>



⑦ 子ども達の未来に要らないもの⑧ (教育・人権活動 in インド)

報告者	和田恭子さん
期間	1/8～1/21
ワーク	様々な教育への取り組みや女性の人権運動等
宿泊施設	NGO 施設
参加者	9 名（韓 5、印 2、米、日）

村ではタバコのパッケージがあちこちに捨てられていた。噛みタバコのパッケージはカラフルで 5cm×7cm くらい。道のあちこちがそのせいで色鮮やかだ。

しかし、これは大きな 2 つの問題を意味していた。環境、健康への意識と教育の低さ。村にゴミ箱はなく、地球にかえるものはいいいとしても、プラスチック製のタバコの包みもその辺りにポイ。もちろん掃除する人なんていない。誰もごみを気にしない。もう一つはタバコの害を知らない。小学生もおこづかいに Rs1（約 2,5 円）もらえば、タバコを買うという…。そのせいで成長は目に見えて乏しい。細い体、低い身長、そしてボロボロの歯。

小学校、中学校の中間の校庭で全小中学校の生徒＋地元住民に向けて劇をすると決まったとき、我々ボランティア一致団結で決めたテーマは「タバコをやめよう」ということ。子ども達の未来にタバコはいらない、そう全員が思ったからだ。

まずは脚本作り。案を出し合い、まずは英語で原案を作成。そしてボランティア 7 人で配役を演出。あと、キャンペリーダーと地元学生（英語を理解できる学生はわずか数名）のサポートで、クジャラート語に翻訳をしてもらい、練習を重ねた。タバコのパッケージや血のりのケチャップ、ボロボロの歯を再現するのり等の小道具を用意し、わかりやすくなるよう心がけた。

本番は村の行事を行うグランドの舞台。全生徒（推定 800 名弱）の見つめる中、現地語の発音笑われながらも大成功のうちに幕を閉じた。子ども達が考えるきっかけになれば嬉しい。「バローアネーバナーヴォウ、リックリーネ バナーヴォウ アネー ベーガル ウジャーロウ」（訳：学校へ行こう、勉強をしよう）

<世界にはばたけ！インドからの鶴>



⑧ 下なんかじゃない⑨ (教育 in インドネシア)

報告者	長尾ちひろさん
期間	8/9～8/22
ワーク	村の子ども達に技術教育、語学教育
宿泊施設	ワーク内容に使用した家
参加者	10 名（日・インドネシア各 4、ベルギー、蘭）

子ども達は写真が大好き。「チヒロ、フォト！」と私を呼び、カメラに向かって笑顔を向け、思い思いのポーズをする。指さし会話帳をまさに指さしながらの会話。「なんでそんなに肌が白いの？」「ナシゴレンは好き？」「日本にはある？」外国人である私たちに興味津々。この本とボディランゲージで案外、話はできる。「幸せなら手をたたこう」を日本語で教えてあげると日本語とインドネシア語で繰り返し歌っている。私たちのインドネシア語の発音には厳しい。

日本とは全く違う生活。一生分のヤモリを見た。蚊にもありえない程刺された。マンディ（インドネシア式お風呂、というか水浴び）もはじめはこの生臭い水で体、まして髪や顔なんて洗えないと思ったが、これしかないので仕方がない。3 日もたてば慣れる。水道が通って蛇口をひねれば水もお湯も使いたい放題、という日本はなんて贅沢なのか。ここでは一日に二度ほど、給水所で水をボトルに溜めて運んできて、タンクに入れ替えなければならない。重労働ではあるが、小さな子どもが進んでやってくれる。

私たちの分まで手伝ってくれる。つついこの世界を下に見てしまいがちだが、それでは本当に先進国に住む私たちが彼らの上にいるのか。日本の方が良いのか。私はそうは思わない。彼らは私たちの失ってしまったものを持っている。

どれだけこのワークキャンプに意味があったのかわからない。私たちのインドネシアへの航空券代をそのままあげた方が実は彼らのためになるのでは？という不安もある。しかし、彼らが日本に興味を持ってくれた。「日本までどれくらい時間がかかるの？」「いつか日本に行きたい」等。彼らは今頃何をしているのだろうか。そして 5 年後、十年後、どうなっているのか。彼らには純粋に学ぶ意欲があった。あの体験が少しでも彼らのためになったことを信じたい。

<歯磨きだってみんなで楽しく>



⑨ Calwood の森で☆ (施設整備 in アメリカ)

報告者	佐々木梨沙さん
期間	7/2～7/20
ワーク	障がい者施設の整備
宿泊施設	テント
参加者	5名（フィンランド2、ポーランド・韓・日各1）

「国際ワークキャンプ」。この言葉を初めて耳にしたのは、大学1年の時だった。興味はありつつも、それから数年参加する機会を逃し、また、参加する勇気を持てずにいた。英語なんて上手く話せないし、外国人と共同生活なんて大変そう…。そして大学4年の夏、これがきっと最後のチャンス、そう思った私は思い切ってNICEに申し込んだ。

あっという間に時間が過ぎ、とうとうワークキャンプ当日を迎えた。ドキドキしながら、待ち合わせ場所へ行くと、そこにはもうすでに全員がいた。少し遅れて到着した私をみんなは笑顔で迎えてくれた。

Calwoodの朝は、ハチドリや青い鳥、キツツキの鳴き声で始まる。Tepeeと呼ばれるアメリカ・インディアンのテントで寝泊りする私たちはテントを出て一歩外を歩くとたくさんリスと出会う。

私たちの仕事はトイレやベンチにペンキを塗ったり、切り株を運んだり、フェンスを作ったり…。毎日30℃を超える炎天下で結構ハードだった。自由時間はハイキング、ヒッチハイク、サッカーをし、夜に寝る頃にはぐったりしていた。そして、そのような毎日を3週間一緒に続けた仲間とはもうすっかり大の仲良しになった。

『国際ワークキャンプ』って何?」もし誰かが私にそう尋ねたならば、こう答えるだろう。

「海外の親友に出会う場所だよ!」てね!!

<こちらはお隣、カナダからのヒトコマです>



⑩ ワークキャンプの最後に… (児童養護施設 in ペルー)

報告者	鈴木千恵さん
期間	11/21～12/10
ワーク	養護施設で子どもに教育をしたり、遊ぶ
宿泊施設	一軒家
参加者	11名（米3、仏2、伊・独・ベルギー・加・豪・日）

行く前はワークに対して不安ばかりだった。日本で同じような養護施設でのボランティアをされていて子どもも好きだ。けれど、1年前に訪れたベトナムでのワークキャンプではベトナム語が分からず、子どもとも最後まで通じ合うことができなかった。また同じ結果になってしまうのではないかと。

しかし、URPIの子ども達に会って、そんな不安は一気になくなってしまった。キャンパーの中でたった1人のアジア人だった私は、すぐに子どもに覚えられた。言葉はわからないことだらけだったけれど、子ども達が教えてくれた。

子ども達は日本のアニメが大好き。日本語にも興味津々で自分の名前は日本語でどう書くの?これは日本語でどう言うの?と毎日質問攻めだった。

キャンパーとのコミュニケーションは英語とスペイン語半々。私の場合、どちらもペラペラだったわけではないが、単語を並べるだけでも理解はしてくれたし、何かを伝えたいという思いで気持ちはある程度伝わるんだと思った。3週間もいれば、スペイン語の会話もだんだん理解できるように!

最終日、URPIの施設で子ども達とお別れパーティーをした。ゲームをしたりビンゴをしたり。みんな写真も大好きで、積極的で、シャイな子は1人もいない。

いよいよお別れというとき、仲の良かった男の子が私のためにサイズもピッタリのプレスレットを作ってプレゼントしてくれた。3週間ほとんど一緒に過ごしてきた思い出があふれ出して涙が止まらなかった。一番嬉しかったのはワーク中なかなかつこうとしなかった子が、お別れ会のビンゴと一緒にやろうと誘ってくれて、初めて名前を呼んでくれた。言葉も人種の壁も超え、心で通じ合うことが出来た最高のワークキャンプだった。

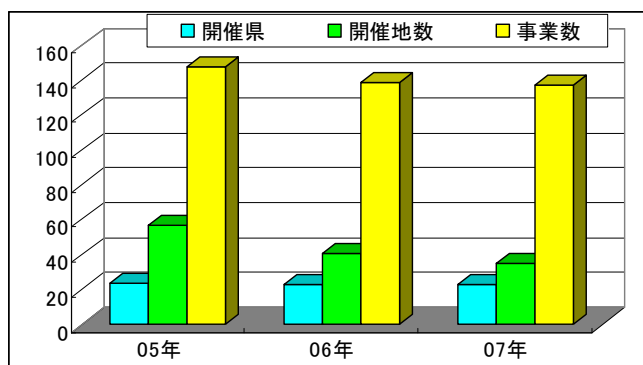
<みんなと一緒に、はい、タバスコ>



第3章 週末ワークキャンプの主催

1～3日間共に生活しながら、住民達と環境保護・福祉・農村開発等に取り組むボランティア事業。国際ボランティアNGOでは初めて、NICEが1993年に始め、インドネシアやベルギーにも広がる。18年間で33県で1,479回を会員主体で主催し、19,007人のボランティアと数万人の住民が参加。

3-1) 開催数



	開催県	開催地数	事業数	1ヶ所当たり
05年	24	57	148	2.6
06年	23	41	139	3.4
07年	23	35	137	3.9

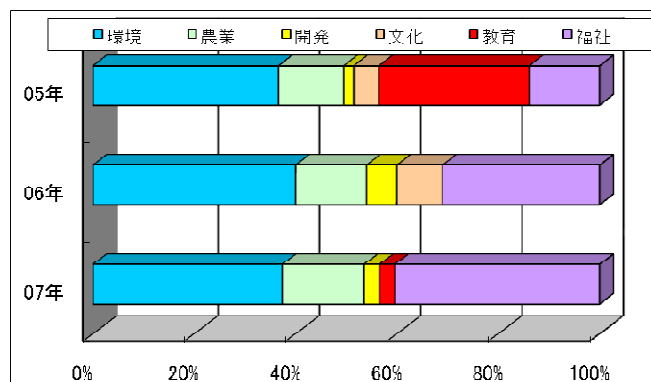
事業数は横ばいだったが、開催地数は減り、1ヶ所あたりの事業数が増えた。イベント的な形よりも、日常的に取り組む方を好む開催地が増えてきていることが考えられる。

週末ワークキャンプは、専従職員が主導して地域の共催団体と企画するNICEの他の基幹事業（国際ワークキャンプや中長期ボランティア）と異なり、NICE **会員が有志で場所ごとに作る実行チームが主体的**になって立ち上げ、企画・運営することが多い。

NICE全体では、会報やホームページを通じて参加者募集を行うことに加えて、2002年からはリーダー経験者達が中心になって「運営委員会」を結成し、年に1回の「リーダー合宿」を企画したり、普段の相談に乗ることで、企画者たちのサポート（訓練やネットワーキング）をしてきた。が、2007年頃から運営委員会の活動は停滞状態になったことも、開催地数が減り続けている一因かもしれない（企画者へのサポート不足）。

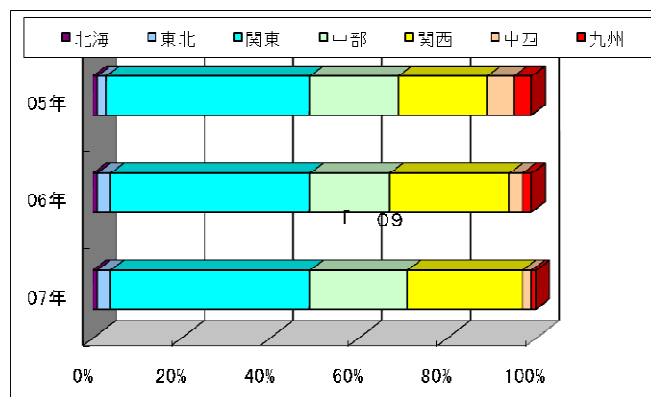
今後は運営委員会の再生によって、現在の企画者へのサポートを充実させつつ、新たにプロジェクトを開拓したい人向けのトレーニング・セミナーや冊子を開催することも視野に入れたい。

3-2) 分野・地域別の内訳



	環境	農業	開発	文化	教育	福祉
05年	37%	13%	2%	5%	30%	14%
06年	40%	14%	6%	9%	0%	31%
07年	37%	16%	3%	0%	3%	40%

今年も福祉が増え、微減の環境保護を抜いた。教育が僅かに復活する一方で、文化は消滅。



	北海道	東北	関東	中部	関西	中四	九州
05年	1%	2%	46%	20%	20%	6%	4%
06年	1%	3%	45%	18%	27%	3%	2%
07年	1%	3%	45%	22%	26%	2%	2%

地域別はあまり変化がないが、中部の増加がやや目立つ。北海道や九州が他の事業と比べて少ないのは、会員が少ないことが主な原因だと思われる。

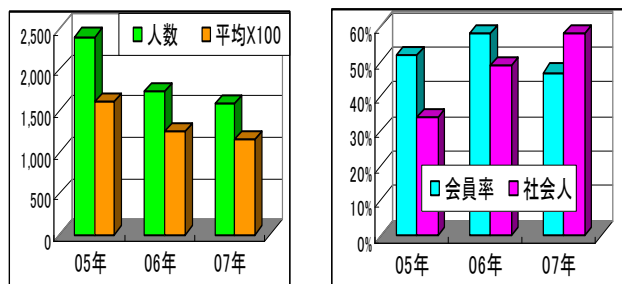
2007 年週末ワークキャンプ一覧表

	開催地	期間	主なワーク	共催	参加者
1	東京都東久留米市	01/13	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	小山児童学園	12
2	大阪府富田林市	01/13	里山保全活動、どんと焼きに参加	富田林の自然を守る会	13
3	大阪府島本町	01/13	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	遥学園	8
4	東京都大田区	01/13-01/14	野鳥公園の環境整備	東京港グリーンボランティア	12
5	神奈川県厚木市	01/20	里親の研修中に、子どもの世話	神奈川県央里親会	9
6	神奈川県厚木市	01/20	児童養護施設で羽子板づくり	鎌倉児童ホーム	11
7	東京都東久留米市	01/21	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	小山児童学園	11
8	東京都渋谷区	01/30-02/02	表参道の街でゴミ拾い	グリーンバード。若者自立塾栃木	10
9	東京都日の出町	02/03-02/04	知的障がい者施設の竹林整備	日の出太陽の家	10
10	神奈川県鎌倉市	02/10	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	鎌倉児童ホーム	15
11	大阪府島本町	02/10	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	遥学園	18
12	茨城県つくば市	02/17-02/18	農作業とミュージアムの修復	自然生クラブ	19
13	京都府和束町	02/17-02/18	有機茶農家の手伝い	わづか有機栽培茶業研究会	17
14	東京都東久留米市	02/18	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	小山児童学園	15
15	大阪府富田林市	02/24-02/25	間伐・歩道作り等の里山保全	富田林の自然を守る会	10
16	大阪府島本町	03/10	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	遥学園	10
17	茨城県石岡市	03/14-03/15	有機野菜農家の手伝い	七里和広氏	5
18	長野県小谷村	03/15-03/19	生活共同体で雪かきや薪運び	共働学舎・真木農場	6
19	神奈川県鎌倉市	03/17	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	鎌倉児童ホーム	11
20	東京都日の出町	03/17-03/18	知的障がい者と共同作業	日の出太陽の家	4
21	京都府和束町	03/17-03/18	有機茶農家の手伝い	わづか有機栽培茶業研究会	21
22	滋賀県高島市	03/17-03/18	間伐・歩道作り等の里山保全	麻生里山センター	6
23	東京都大田区	03/18	野鳥公園の竹林伐採	東京港グリーンボランティア	35
24	東京都東久留米市	03/18	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	小山児童学園	11
25	岐阜金華山	03/26-03/29	登山道の修復	金華山サポーターズ。小野ゼミ	16
26	滋賀県高島市	04/07-04/08	間伐・歩道作り等の里山保全	麻生里山センター	6
27	静岡県浜松市	04/07-04/08	海亀や渡り鳥の保護の補佐	サンクチュアリ・エヌビーオー	8
28	青森県六ヶ所村	04/07-04/08	農作業の手伝い	菊川氏	9
29	大阪府富田林市	04/07-04/08	間伐・歩道作り等の里山保全	富田林の自然を守る会	9
30	大阪府島本町	04/14	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	遥学園	10
31	大分県豊後大野市	04/14-04/15	有機野菜農家の手伝い	実行委員会	8
32	神奈川県鎌倉市	04/21	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	鎌倉児童ホーム	14
33	神奈川県鎌倉市	04/28	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	鎌倉児童ホーム	14
34	長野県清内路村	04/28-04/29	新たな古民家の改修作業	清内路村	11
35	愛知県田原市	04/28-04/29	フリースクールの畑の整備	池の原フリースクール	10
36	東京都渋谷区	04/30-05/02	自然育児のイベントで託児手伝い	自然育児友の会	6
37	山形県最上町	05/03-05/06	馬の世話や乗馬体験の手伝い	前森高原フロンティアファーム	5
38	東京都日の出町	05/03-05/04	知的障がい者施設の祭り補佐	日の出太陽の家	15
39	神奈川県鎌倉市	05/05	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	鎌倉児童ホーム	14
40	滋賀県高島市	05/05-05/06	間伐・歩道作り等の里山保全	麻生里山センター	14
41	神奈川県横浜市	05/12-05/13	竹林の手入れ	日本の竹ファンクラブ	8
42	茨城県つくば市	05/12-05/13	農作業	自然生クラブ	16
43	埼玉県ふじみ野市	05/13	子ども達の異文化理解活動を運営	フクトピア	6
44	東京都日の出町	05/13	知的障がい者施設の活動補佐	日の出太陽の家	6
45	大阪府島本町	05/19	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	遥学園	11
46	愛媛県伊形町	05/19-05/20	佐田岬半島でウォークラリー手伝い	喜久屋	7
47	京都府和束町	05/19-05/20	有機茶農家の手伝い	わづか有機栽培茶業研究会	21
48	東京都東久留米市	05/20	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	小山児童学園	12

	開催地	期間	主なワーク	共催	参加者
49	東京都渋谷区	05/22-05/25	アースデー関連活動の手伝い	若者自立塾栃木	15
50	神奈川県鎌倉市	05/26	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	鎌倉児童ホーム	14
51	大阪府富田林市	05/26-05/27	間伐・歩道作り等の里山保全	富田林の自然を守る会	6
52	愛知県田原市	05/26-05/27	フリースクールの運営補佐	池の原フリースクール	5
53	島根県出雲市	05/26-05/27	新茶祭りの準備・運営お手伝い	出雲市唐川地区	20
54	神奈川県鎌倉市	05/26-05/27	有機野菜農家の手伝い	JICA 神奈川。大平農園	15
55	三重県名張市	06/02-06/03	間伐・歩道作り等の里山保全	赤目の里山を育てる会	4
56	愛知県田原市	06/02-06/03	フリースクールの畑の整備	はっくるベリーじゃむ	6
57	大阪府島本町	06/09	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	遥学園	7
58	大阪府富田林市	06/09-06/10	間伐・歩道作り等の里山保全	富田林の自然を守る会	14
59	東京都渋谷区	06/09-06/10	子ども達の異文化理解活動を運営	東京都児童会館	14
60	神奈川県鎌倉市	06/16	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	鎌倉児童ホーム	19
61	愛知県田原市	06/16-06/17	フリースクールの運営補佐	池の原フリースクール	4
62	東京都東久留米市	06/17	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	小山児童学園	16
63	滋賀県高島市	06/23-06/24	間伐・歩道作り等の里山保全	麻生里山センター	7
64	静岡県浜松市	06/23-06/24	海亀や渡り鳥の保護の補佐	サンクチュアリ・エヌビーオー	11
65	神奈川県鎌倉市	06/23-06/24	有機野菜農家の手伝い	大平農園	16
66	長野県塩尻市	06/24-06/26	小学校で国際理解の授業	塩尻市教育委員会	2
67	神奈川県鎌倉市	07/07	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	鎌倉児童ホーム	16
68	滋賀県高島市	07/07-07/08	間伐・歩道作り等の里山保全	麻生里山センター	5
69	茨城県つくば市	07/07-07/08	農作業	自然生クラブ	8
70	愛知県田原市	07/07-07/08	有機農業推進団体と森林整備	はっくるベリーじゃむ	6
71	岐阜県高山市	07/07-07/08	とうもろこし畑の手入れ	高山市高根支所	3
72	長野県上田市	07/07-07/08	そばの花摘みと国際交流スポーツ	野辺を渡る風のように	4
73	東京都日の出町	07/07-07/08	知的障がい者施設の活動補佐	日の出太陽の家	26
74	福岡県大牟田市	07/07-07/08	竹林の手入れ	ボランティア	6
75	大阪府島本町	07/14	児童養護施設でクッキー作り	遥学園	9
76	三重県名張市	07/14-07/15	里山保全のための蜂の巣箱整備	赤目の里山を育てる会	5
77	東京都大田区	07/21-07/22	野鳥公園の環境整備	東京港グリーンボランティア	12
78	東京都東久留米市	07/28	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	小山児童学園	12
79	静岡県御殿場市	07/28-07/29	下草刈り	国立中央青少年交流の家	13
80	京都府和束町	07/28-07/29	有機茶農家で挿し木の手入れ	わづか有機栽培茶業研究会	13
81	栃木県市貝町	07/28-07/29	老人施設でブルーベリー収穫	モニョングロ村	21
82	愛知県田原市	07/28-07/29	フリースクールの運営補佐	池の原フリースクール	6
83	東京都奥多摩町	08/03-08/04	里山の保全活動	花咲村	21
84	岐阜県高山市	08/03-08/05	火祭りの準備・運営の手伝い	高山市高根支所	14
85	滋賀県高島市	08/04-08/05	間伐・歩道作り等の里山保全	麻生里山センター	5
86	東京都大田区	08/11-08/12	野鳥公園の環境整備	東京港グリーンボランティア	14
87	青森県六ヶ所村	08/11-08/12	農作業の手伝い	菊川氏	9
88	東京都大田区	08/13	野鳥公園の草刈り	東京港グリーンボランティア。VYA	25
89	大阪府島本町	08/15	児童養護施設の小学生と肝試し	遥学園	3
90	神奈川県鎌倉市	08/17-08/19	親子ワークキャンプの運営補佐	鎌倉児童ホーム	14
91	東京都日の出町	08/18-08/19	知的障がい者の外出補佐	日の出太陽の家	16
92	神奈川県鎌倉市	08/21-08/23	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	鎌倉児童ホーム	14
93	神奈川県鎌倉市	08/25-08/27	児童養護施設の夏祭り補佐	鎌倉児童ホーム	14
94	福島県鮫川村	08/25-08/26	じゃが芋収穫、畑の草刈り、薪割り	あぶくまネット	23
95	神奈川県相模原市	08/28-08/29	里親会のサマーキャンプ運営補佐	神奈川県央里親会	4
96	岐阜県高山市	08/31-09/01	高根コーン収穫祭の運営補佐	高山市高根支所	18
97	大阪府島本町	09/08	児童養護施設の小学生と室内遊び	遥学園	6
98	愛知県田原市	09/08-09/09	有機農業の手伝い	はっくるベリーじゃむ	4
99	大阪府富田林市	09/15-09/16	間伐・歩道作り等の里山保全	富田林の自然を守る会	19
100	静岡県浜松市	09/15-09/17	海亀や渡り鳥の保護の補佐	サンクチュアリ・エヌビーオー	16

	開催地	期間	主なワーク	共催	参加者
101	茨城県つくば市	09/15-09/16	農作業	自然生クラブ	9
102	新潟県南魚沼市	09/15-09/17	巻機山の山頂付近の保全	自主企画	12
103	東京都東久留米市	09/16	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	小山児童学園	12
104	東京都渋谷区	09/19-09/22	表参道の街でゴミ拾い	グリーンバード。若者自立塾栃木	10
105	東京都大田区	09/24	野鳥公園の環境整備	東京港グリーンボランティア	5
106	東京都大田区	09/29	野鳥公園の環境整備	東京港グリーンボランティア。日本サムスン	13
107	滋賀県高島市	09/29-09/30	間伐・歩道作り等の里山保全	麻生里山センター	3
108	愛知県田原市	10/06	有機農業の手伝い	はっくるベリーじゃむ	6
109	茨城県石岡市	10/07-10/08	有機野菜農家の手伝い	七里和広氏	5
110	大阪府島本町	10/13	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	遥学園	12
111	神奈川県鎌倉市	10/13-10/14	有機野菜農家の手伝い	大平農園	22
112	長野県塩尻市	10/13-10/14	自然保護区域で柵作り	塩尻地域若者ステーション	27
113	滋賀県高島市	10/20	間伐・歩道作り等の里山保全	麻生里山センター	4
114	東京都大田区	10/20	野鳥公園の環境整備	東京港グリーンボランティア	19
115	東京都東久留米市	10/21	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	小山児童学園	8
116	大阪府富田林市	10/27-10/28	間伐・歩道作り等の里山保全	富田林の自然を守る会	8
117	愛知県田原市	11/03-11/04	有機農業の手伝い	はっくるベリーじゃむ	8
118	北海道七飯町	11/03-11/04	湖浄化のための森林整備	マイルストーン 22	12
119	大阪府富田林市	11/03-11/04	間伐・歩道作り等の里山保全	富田林の自然を守る会。東京海上日動	17
120	大阪府島本町	11/10	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	遥学園	7
121	熊本県菊池市	11/10-11/11	森林の手入れ	NEXTEP。きらり水源村	18
122	岐阜県金華山	11/17	登山道の修復	金華山サポーターズ。東京海上日動	20
123	神奈川県鎌倉市	11/17	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	鎌倉児童ホーム	11
124	大阪府富田林市	11/17-11/18	間伐・歩道作り等の里山保全	富田林の自然を守る会	6
125	東京都東久留米市	11/18	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	小山児童学園	12
126	京都府和束町	11/23-11/24	有機茶農家の手伝い	わづか有機栽培茶業研究会	10
127	東京都日の出町	11/24	森林整備と利用者さんとの交流	日の出太陽の家	26
128	東京都渋谷区	12/01	子ども達の異文化理解活動を運営	東京都児童会館	9
129	滋賀県高島市	12/08	間伐・歩道作り等の里山保全	麻生里山センター	2
130	神奈川県鎌倉市	12/08	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	鎌倉児童ホーム	14
131	大阪府島本町	12/08	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	遥学園	12
132	茨城県つくば市	12/08-12/09	農作業	自然生クラブ	9
133	静岡県浜松市	12/08-12/09	海亀や渡り鳥の保護の補佐	サンクチュアリ・エヌビーオー	18
134	東京都東久留米市	12/15	児童養護施設の子ども達と遊ぶ	小山児童学園	23
135	愛知県田原市	12/15-12/16	フリースクールの運営補佐	池の原フリースクール	5
136	愛知県田原市	12/22-12/23	有機農業の手伝い	はっくるベリーじゃむ	14
137	大阪府富田林市	12/22-12/23	間伐・歩道作り等の里山保全	富田林の自然を守る会	5

3-3) 参加ボランティア



	人数	平均	会員	会員率	社会人
05年	2,400	16.2	1,248	52%	34%
06年	1,728	12.5	1,010	58%	49%
07年	1,587	11.6	748	47%	59%

参加者は総数も1事業あたりの数も、今年も減少。会員率も初の半数割れ（共催側の参加者を含めていた01年は除く）。非会員の総数はむしろ増えているが、会員の参加者が減った要因は、会報「NICEプレス」を06年夏から（毎月から）隔月発行にしたこと等の**広報不足**が大きい。

社会人率は逆に**初の5割突破**で、この事業に関しては「NICE＝学生の集まり」という図式はもはや通用しない。学生の参加が減ったこと以外に、学生の時に始めた人が社会人になっても（また会費は切れても）続けている層と、ホームページ等で新たにNICEの活動に参加する層が合わさった結果だろう。

3-4) 事業のレベルアップ作戦

02年から年1回開催している**リーダー合宿**は11月に関西で実施。それ以外に4月と12月の国際ワークキャンプ・リーダー合宿の機会を使って、週末リーダー会議も行い、ノウハウの交換、共通ルールの改訂、開催地同士の協力を話し合った。

3-5) 対象者限定の新種事業

① 親子対象の事業

05年に国際ボランティア界ではアジア初の試みとして2回開催し、06年にも2回、今年は8月に1回開催した。**8月18日～19日に神奈川県茅ヶ崎市・鎌倉市**で、有機農業や国際交流ゲーム等を楽しんだ。

元々は児童虐待対策チームが虐待予防の観点から「悩める親子」を集めた企画するために、まずは一般の親子を相手に、と開始したが、虐待に関係なく、社会での需要は大きい。イタリアやカナダでも、親子対象の国際ワークキャンプが04年から始まっている。

③ 若者自立支援の事業

厚生労働省が行う若者自立支援事業「**若者の人間力を高めるための国民運動**」の今年度の主幹事業として「**若チャレ！ワークキャンプ**」を地域若者サポートステーションと共催で、7月～12月に8回実施した。

開催地	開催期間	ワーク	地元の共催団体	人数
栃木県市貝町	07/28～07/29	老人施設でブルーベリー収穫	モニョンゴロ村	21
東京都日の出町	08/18～08/19	知的障がい者の外出補佐	日の出太陽の家	16
福島県鮫川村	08/25～08/26	芋の収穫、畑の草刈り、薪割り	あぶくまネット	23
大阪府富田林市	09/15～09/16	間伐・歩道作り等の里山保全	富田林の自然を守る会	19
長野県塩尻市	10/13～10/14	自然保護区域で柵作り	市自然保護ボランティア、下西条みどりの会	27
神奈川県鎌倉市	10/13～10/14	有機野菜農家の手伝い	大平農園	22
北海道七飯町	11/03～11/04	湖浄化のための森林整備	マイルストーン22	12
熊本県菊池市	11/10～11/11	森林の手入れ	NEXTEP。きらり水源村	18

本当は、今の日本はもっともっと若者の力を必要としていて、若者は、その役割を担う気持ちを、愛情を、エネルギーを持っている。社会は未来を担う若者のために、もっともっとたくさんのことを伝えられ、若者は世の中に対するもっと深い実感と経験を求めている。これらを上手につなぐことができたなら、地域も若者も必ず元気になる。「若チャレ！ワークキャンプ」の開催を通じて発信し続けたと思います。

里山保全、有機農業、福祉施設でのワークで一生懸命汗を流す姿。地域の人と若者が、参加者同士が、目指すものにむかって一つになった瞬間。お互いが自然に支えあう、補い合う、学びあうことができた場面。ワーク終了後の変化と充実感、これからへの思い。それらを目の当たりにする度に、地域が、若者が持っている力を実感することができました。

ワクワクする未来をつくる。実はそれはそんなに難しいことではなくて、大人が、若者が、社会が、世界が、今をワクワク過ごすことができれば、きっとつながるのだと思います。誰もが隔たりなく、そんな時間を共有できる機会をできる限り多く作る。「若チャレ！ワークキャンプ」をその大きなステップとして未来につなげていきたいと思っています。

（NICE 事務局長 塚本竜也）

くとうきょう若チャレワークキャンプ>

スケジュール

8月18日(土)

- 9:30 青梅駅で集合
- 11:00 施設へ移動
- 11:50 車椅子の練習
- 12:00 昼食
- 13:00 外出ボランティア
- 16:30 施設長による講話
- 17:00 夕食づくり・風呂
- 19:00 夕食
- 19:30 交流会

8月19日(日)

- 8:30 朝食
- 9:00 施設整備
- 11:30 ワークショップ・ふりかえり
- 12:00 昼食
- 13:00 解散

当日の活動風景



地域若者サポートステーションの声

私たちのサポステからも若者が3名参加しました。初対面の人たちと一緒に宿泊して2日間を過ごすのは、社会に出たくても、その一歩が踏み出せない若者にとっては、非常にハードルが高く、厳しいのが現実です。

しかし不安ながらも参加した3人は、いろいろな立場の人と話せたことが新鮮でいい刺激を得たと楽しそうに話してくれました。その中の2人は、それをきっかけに就職活動を始め、今、人生で初めて、アルバイトをしています！

(たちかわ地域若者サポートステーションスタッフ)

地域団体の声

私は皆さんに期待していたことがあります。やむなく施設を利用している人に比べて、自分の幸せを感じ、父母への感謝が出てくると嬉しい。この人たちが暮らしに苦勞している姿を見て、もう少し頑張ろうと思ってもらえると嬉しい。

障がい者に注がれる世間の目を見て、この人たちのために貢献しようと思ってくれれば嬉しい。ここでのワークキャンプで沢山のことを考え、それが元氣さやたくましさになら少しでも役立ったのなら嬉しく思います。

(社会福祉法人日の出太陽の家 滝沢浄さん)

参加者の声

当日のワークでは、知的障がいのある3人の人たちとプールに同行する係を担当しました。最初は接し方がわからず、戸惑いましたが、どんどん話しかけてくれたので自然にいい関係が作れました。3人の障がいは決して軽いものではなく、年齢もずいぶん上でしたが、話しているうちに自分に近い部分を感じました。余計な壁をつくらなければ、仲良くなれることを知りました。「微笑みのボランティアを」という施設長の言葉が心に響いたのも、ワークの体験があったからだと思います。知ることの大切さを学べた気がします。

ワークキャンプに初めて参加して思ったことは、人との出会いのすばらしさです。学生の僕がどんなに頑張っても、こんなにいろんな立場の人と話をすることは持てません。会話をすることで自分が見えてきた気がしたし、話をしている人のいい所が、僕に入ってきている、吸収できている、そんな気持ちになりました。

キャンプから帰って、豊かさの意味を考えるようになりました。就職とは別の視点で、社会を見つめられるようになったということなのかもしれません。

(新福荘一さん・談)

3-6) 事業（体験談）の一部を紹介

* 掲載されている写真は、紹介されている報告者及びその参加事業のものとは、異なることもございます。

① 自然の中で気づかされたもの (有機農業 in 茨城県つくば市)

報告者	瀬口祐樹さん
期間	9月15日(土)～16(日)
ワーク	障がい者との有機農園で稲刈り
宿泊施設	自然生クラブ(共催団体)の建物
参加者	9人+地元の方々

こりやマズいわと、熱中症への兆しを感じさせる9月とは思えない真夏の太陽。今回の稲刈り企画では、下は赤ちゃんや幼稚園生、上は稲刈りの達人？のおじいちゃんまで、外国人の方々も参戦し、世代・人種を超えた100人以上の人数が集まった。

みんなでひたすら稲を刈っていたよ。ただそんな中で腹ペコになり、昼飯に採れたての筑波産コシヒカリの新米で、自分達が作ったカレーを食べるのはマジで最高だった。100人が道路やらの地べたに座り、青空の下で、雄大な筑波山を眺めながら、みんなで食うのは、遠足のようで本当に楽しかったな。



この場所にゆったりと流れる独特の空気や時間は、普段の自分の社会人生活では絶対に得ることが出来ない大切な何かを気付かせてくれる。日常の業務に忙殺され、そんな時の流れの中、日々心がその弾力を失っていく。そして、心に張りがなくなってきたことにさえ、やがて気付かなくなってくる。

だけど、筑波山に来て、蒼空を流れてゆく雲をボーッと眺めたり、風に揺られながら、木々や葉が立てる音に耳を傾けたり、一面の稲穂の海を飛び交っている赤トンボを目で追ったりと、めちゃくちゃ心が癒される。その時、改めてハッと普段の自分の日常が、いかに時間に追われているものなのかに気付かされる。

久しぶりに本当の意味で、心の弾力を充電できた週末だった。行って本当に良かったと思う。是非、学生だけではなく、社会人にこそオススメしたい。

② 我田引水も悪くない！ (農業教育 in 愛知県田原市)

報告者	中山妙子さん
期間	9月15日(土)～16(日)
ワーク	子ども達の農業体験
宿泊施設	はっくるべりーじゃむ(共催団体)の建物
参加者	10人(地元の共催団体スタッフ含む。)

09:00 子ども達の昼食準備と畑の準備に別れ、開始。

10:00 子ども達がバスで到着。昼食の大釜にお米を入れ、火を付けます。子ども達は、興味津々で覗き込んでいます。

11:00 サツマイモ畑へ。つるをたどって芋を探します。自分で掘って芋を手にとり「あったー。」と叫ぶ子ども達。つるはやぎ小屋へ。人の手からむしゃむしゃ食べます。

12:00 味噌汁、煮物、まぜごはんの昼食です。

14:00 昼食後は、たんぼへ向かい稲刈り。最初はうまくできず遅かった子が、工夫してうまく刈れるようになった。

15:00 焚き火に自分で掘ったお芋をいれ、焼き芋作り。できるまでは、木登り、ターザンごっこ、ひつつきむし(草の一種)を投げあいっこなど、林で遊びタイム。

16:00 できた焼き芋を食べて、バスで帰って行きました。



< ボランティアの活躍 >

木登りを教える者、子ども達の残した稲穂をもくもくと片付ける者、野菜を教える者、コンバインの使い方をマスターし、教える者、子ども目線で話している者、おとなしい女の子と一緒に花を探る者。みんな子どもとの体験は初めてだったけど、それぞれできることをしていたと思う。

< 我田引水?? >

私が好きな言葉、はっくるべりーじゃむの事務局長、河合忠司さんの言葉、を引用します。

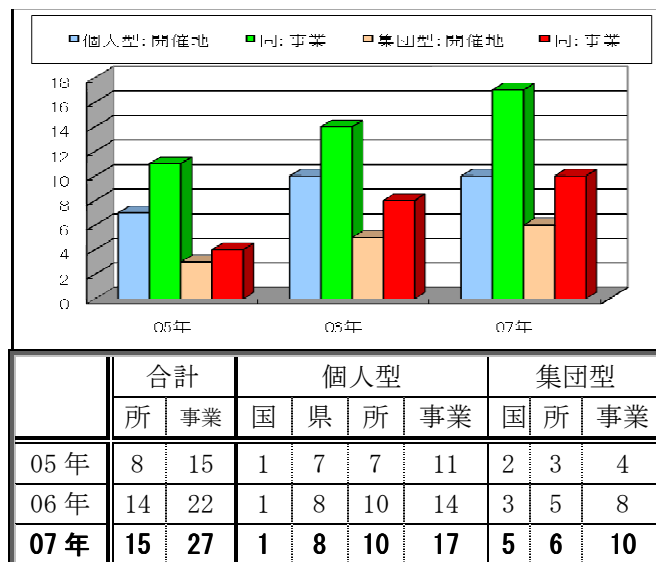
我田引水という語は、自分に都合のいいように物事を進めたり、解釈することを蔑む意味で使われる。自分の田んぼに水を引く行為は、すなわち他人の田んぼへの水を奪う行為だ。

棚田で気付く。上の田んぼを潤した水は、水路を通ったり地面にしみこむことで、下の田んぼに受け継がれる。水は、流れ下るうちに次第に緩められて稲にとって優しい。水となる自分の田んぼに水を引く行為が、自分以外の誰かのためになることもあると知った。自分の田んぼに水を引かなければ、自分の実りは得られない。我田引水も悪くない。

第4章 中長期ボランティアの主催・派遣

2ヶ月～1年間程、施設・地域に住みながら環境保護・福祉・農業等に取り組むボランティア事業。グループ（ワークキャンプ）と個人で行う場合がある。NICEは96年に派遣、00年に主催を開始。国際ワークキャンプNGOによる主催が近年増え続け、04年は22ヶ国で202回の開催。

4-1) 主催開催数



*同じ開催地でも別の時期にやれば、複数事業に。

（個人型は1人1事業で計算。）

*集団型＝ワークキャンプ型（若者自立塾も含む。）

事業数は今年も大きく伸びたが、複数事業を行う所が増えたことが大きく、開催地数はほぼ同数。

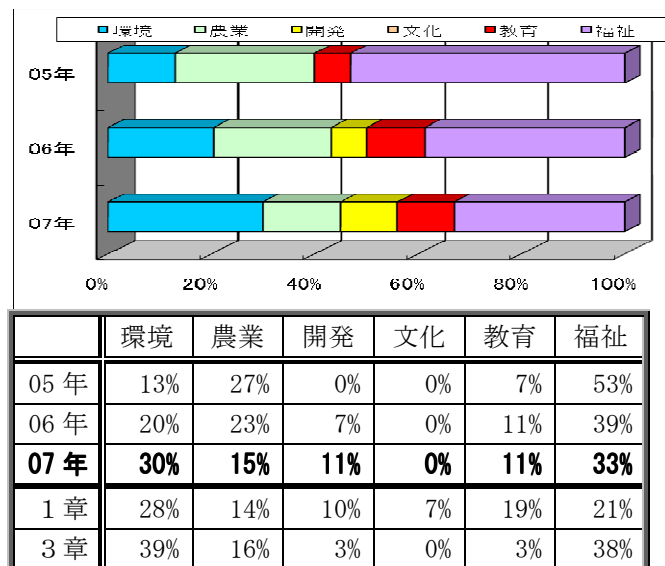
個人型は、新たに5ヶ所を開拓（青森県鯉ヶ沢村、三重県名張市、長野県小谷村、長野県飯縄町、愛媛県伊方町）したが、名張市と小谷村ではボランティアが確保できなかったため、成立しなかった。

ワークキャンプ型は、国内では若者自立塾（4回）に加えて、06年に続き、国土緑化推進機構の助成を得て北海道七飯町で開催。日本・韓国・タイ・ネパールから1名ずつという、アジア人ワークキャンプとなった。

海外では、初めてアフリカ（ケニア）で開催。また、タイの事業では、「日タイ交流120周年記念事業」として渡航費補助等の支援を頂き、画期的な青年リーダーの交換が実現した。政情不安もあってボランティアが集まりにくかったネパールでは、2004年以降の開催。

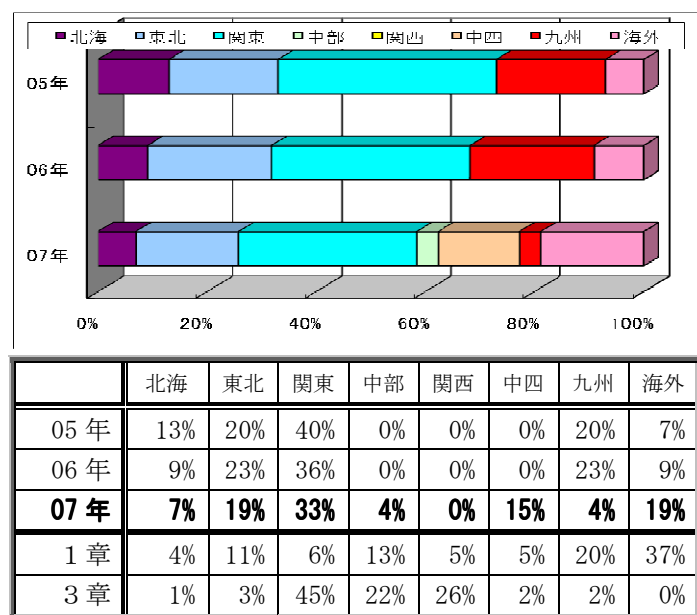
海外事業は全て開催期間が1ヶ月半足らずであり、短期事業との差別化が曖昧である。休み期間中の学生の参加を狙ったものだが、数ヶ月かけないとできない取り組みを実現させ、新たな参加者層を獲得するためにも、より長い期間のプログラムも開発していきたい。

4-2) 主催事業の分野・地域



環境・開発が増え、農業・福祉がやや減った。

事業間比較：中長期は開発や農業が比較的多く、福祉が少ない。週末は福祉が圧倒的で教育や開発が他よりも少ない。国際は最もバランスが取れ、教育が多め。



中部・中四の事業が誕生し、海外も倍増、九州激減。

事業間比較：中長期は北海道・東北が圧倒的に上回り、中部が少ない。週末は関東・関西が圧倒的に多く、北海道や九州が少ない。国際は九州と海外が多い。

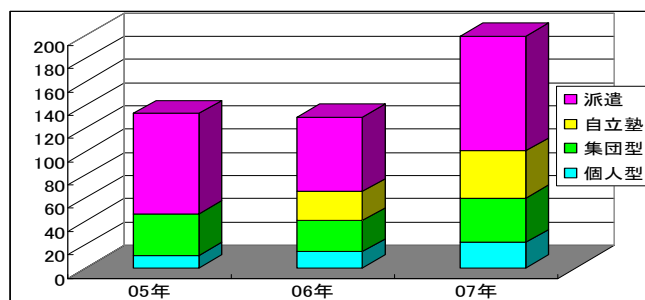
2007 年中長期ボランティア（主催事業）一覧表

	開催地	期間	主なワーク	共催	参加者
1	北海道新得町	通年	チーズ作りや有機農業	共働学舎・新得農場	フィンランド
2	群馬県川場村	7-9 月	子どもキャンプの運営	あるきんぐクラブ	韓
3	栃木県市貝町①	半年	グループホームの補佐	モニヨンゴロ村	韓
4	栃木県市貝町②	半年	グループホームの補佐	モニヨンゴロ村	伊
5	栃木県市貝町③	半年	グループホームの補佐	モニヨンゴロ村	独
6	栃木県市貝町④	半年	グループホームの補佐	モニヨンゴロ村	台
7	福島県会津若松	半年	フリースクールで授業	方丈舎	韓
8	愛媛県伊方町①	通年	ミカン畑の再生、村おこし	村おこし 喜久家	日
9	愛媛県伊方町②	通年	ミカン畑の再生、村おこし	村おこし 喜久家	韓
10	愛媛県伊方町③	通年	ミカン畑の再生、村おこし	村おこし 喜久家	米
11	愛媛県伊方町④	通年	ミカン畑の再生、村おこし	村おこし 喜久家	タイ
12	青森県鯉ヶ沢村	半年	白神山地の保全活動	白神自然学校	日
13	福島県鮫川村①	半年	自然体験キャンプ運営	あぶくま NS ネット	独
14	福島県鮫川村②	半年	自然体験キャンプ運営	あぶくま NS ネット	韓
15	福島県昭和村	3 ヶ月	耕作放棄地の再生	方丈舎	韓
16	長野県飯縄町	半年	建物の修復や地域活性	A P S D	日
17	熊本県菊地市	半年	地域活性化、環境保全	きらり水源村	日
1	タイ Paksong①	02/12-03/25	自然な家作り・環境教育	TCDF	日本 5、地元 1
2	タイ Paksong②	08/06-09/16	自然な家作り・環境教育	TCDF	日本 8、地元 1
3	ケニア Ebukhaya	08/06-09/18	教室作り・植林等	KVDA	日本 11、地元 1、海外 3
4	ネパール NIFC	08/06-09/16	公園の建築等	NIFC	日本 4、地元 1
5	インド Pondicherry	08/06-09/16	マングローブ植樹等	FSL	日本 6、地元 1
6	北海道七飯町(沼)	07/21-10/16	森林整備・湖保全	マイルストーン 22	日本 1、外国 3
7	栃木県市貝町①	3 ヶ月	森・畑の手入れ等	DAY. モニヨンゴロ村	(若者自立塾。計 41)
8	栃木県市貝町②	3 ヶ月	森・畑の手入れ等	DAY. モニヨンゴロ村	(若者自立塾。計 41)
9	栃木県市貝町③	3 ヶ月	森・畑の手入れ等	DAY. モニヨンゴロ村	(若者自立塾。計 41)
10	栃木県市貝町④	3 ヶ月	森・畑の手入れ等	DAY. モニヨンゴロ村	(若者自立塾。計 41)

＜ 募集したが、集まらなかった事業 ＞

1	東京都日の出町	半年	障がい者施設の補佐	日の出太陽の家	×
2	三重県名張市	半年	森林作業やイベント運営	赤目の里山を育てる会	×
3	長野県小谷村	3 ヶ月	共同体での生活、農業	共働学舎	×

4-3) 参加ボランティア



総合	国籍	参加	日本人		外国人	
			総数	国内	総数	国内
05年	7	133	123	37	10	10
06年	6	130	113	24	17	17
07年	10	204	183	39	21	21

	個人型			集団型	自立塾	派遣	
	計	日	外			国	人数
05年	11	3	8	24	12	15	86
06年	14	9	5	27	25	16	64
07年	22	16	6	38	41	19	103

全体では大幅に増え、史上最多の200人超えを達成。個人型は増えたが、3ヶ所で確保できず、新しい広報ルートの開拓はできず、既存の広報のみとなった。

集団（ワークキャンプ型）型の海外各事業の定員充足率は、タイ春83%、タイ夏133%、ケニア110%、ネパール67%、インド86%で、まずまずの結果。

若者自立塾は栃木県内での認知度が上がり、問い合わせもかなり増えた。設立時からの参加者延べ数は、78人で全国7位（30ヶ所中）。

派遣が増えた主因は、ウェブサイトの改訂によって情報を見やすくしたことや、早め・定期的な広報（説明会、ウェブ）、ネパールの政情不安緩和等。

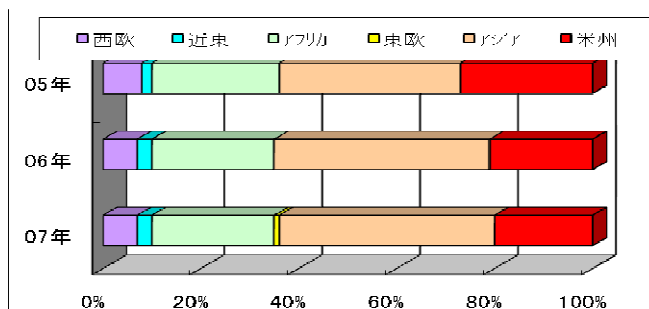
	女性	学生	年齢
05年	57%	62%	22.7
06年	70%	65%	22.2
07年	60%	61%	24.2
1章A	68%	86%	21.7
1章B	63%	82%	22.6
2章	75%	87%	21.6
3章	-	42%	-

* 1章：Aは日本人・Bは外国人に分けて集計。

女性・学生が減り、平均年齢は2歳もアップ。

事業間比較：女性率では中長期が少なく、国際（派遣）が多い。学生率は週末の低さが際立ち、国際は主催（日本人）も派遣も高い。

4-4) 参加した地域



	西欧	近東	アフリカ	東欧	アジア	米州
05年	8%	2%	26%	0%	37%	27%
06年	7%	3%	25%	0%	44%	21%
07年	7%	3%	25%	1%	44%	20%
2章	34%	3%	13%	4%	40%	7%
1章	32%	3%	4%	6%	48%	7%
受入	37%	0%	0%	0%	58%	5%

* 受入は主催事業で日本人と現地人を除いたもの。

地域別では、昨年とほとんど変化がない。同じ派遣でも国際ワークキャンプ（2章）に比べ、アジアは共に4割だが、西欧が極度に少なく、アフリカ・米州が多い。

主催事業への受入では、アジアと西欧で95%を占める。これも、国際ワークキャンプ（1章）と比べると、派遣程の差はないが、地域のバラエティに乏しい。

<参加した国・ベスト10>

05年	06年	07年
ケニア	インド	アメリカ 16
アメリカ	ケニア	インド 14
インド	アメリカ	ケニア 13
ネパール	ウガンダ	タイ 11
ウガンダ	インドネシア	ネパール 11
インドネシア	タイ	ウガンダ 10
フランス	フランス	インドネシア 7
バングラ	エクアドル	フランス 3
エクアドル	メキシコ	トルコ 3
コスタリカ	バングラデシュ	エクアドル 3

アメリカが初の首位獲得。上位はかなり伯仲状態。

4-5) 事業のレベルアップ作戦

① 事前（事後）研修（表は参加率）

	平均	個人	集団	派遣
05 年	67%	54%	66%	70%
06 年	85%	52%	95%	99%
07 年	71%	43%	85%	86%

＊個人＝個人型の主催事業への参加者の参加率。
集団＝同・集団（ワークキャンプ）型

14 回開催し、全体で 71%が参加（時期が合わない人へのオフィスでの簡易オリエンテーションを含む）。

経験者からの助言や、活動目標の設定、交流会企画等で、「充実していた」と好評。また、OB会も

11 月に開催し 22 名が参加。

日本で活動する外国人は、時期等が合わなかったり、場所が遠いこともあって、参加率が低い。

② 開催地中のケア

昨年発行できなかった、参加中のボランティアに送る「LAMP 通信」は 9 回発行（05 年は 7 回）。

また「中間レポート」を 47%のボランティアから活動中に提出（昨年は 4 %）してもらい、状況を把握し、助言や問題の改善に役立てた。

ケニア・ネパールでは、「現地調整員」を派遣して、参加者のサポートに活躍してもらった。

特集：長期社会活動推進協議会の設立

（文責：協議会の設立を発案・主導している、
NICE 事務局長 塚本竜也）

日本にはまだ少ない、日本の長期ボランティア（社会）活動の発展にむけ、類似活動を行う（社）日本青年奉仕協会、NPO 法人 NICE、NPO 法人 ICYE、NPO 法人地球緑化センターの 4 団体で協議会をスタートさせた。設立の趣旨は、次の通りである。

設立の趣旨

日本における長期ボランティア活動は、米国や欧州各国と比較すると、その規模、社会的役割、認知度など著しく小さく、またそれを支える仕組みも脆弱である。社会が抱える課題を改善する一つの具体的な方法としての長期ボランティア活動を、高めていきたい。

一方で、長期間ボランティア活動に取り組むことによる参加者の成長という点が注目され、追い風も吹き始めている。団体が連携することで、長期ボランティア活動の社会的な役割や価値を高め、情報やノウハウの共有を円滑にし、活動の発展につなげたい。

＊ 当初は、長期ボランティア活動推進協議会と仮称を付けていたが、団体によっては、活動をボランティア活動とは位置づけていないところもあるため、「長期社会活動」を集まりのくくりとした。

2007 年は 5 回の会議を行なった。日時並びに議題は次の通りである。

第 1 回会議 ホスト NICE

日時：5 月 29 日 15:30-18:00

場所：NICE オフィス近くのカフェ

議題：各団体の長期ボランティア活動の内容と現状、課題を報告、共有。

第 2 回会議 ホスト JYVA

日時：7 月 4 日 17:30-19:30

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

議題：・各団体のプログラム、共通点と相違点比較表を作成し、互いの活動への理解を深めた
・社会における長期ボランティア活動の意義や位置づけ
・今後の動向分析と目指す点の検討

第 3 回会議 ホスト ICYE

日時：8 月 27 日 18:00-21:00

場所：ICYE オフィス

議題：・参加者を増やすための、現状分析。
社会環境や参加者の動機の変遷など
・参加者を増やすための、有効な手段

第 4 回会議 ホスト 地球緑化センター

日時：10 月 25 日 18:00-20:00

場所：地球緑化センター近くのカフェ

課題：長期社会活動の評価と認定について。主に参加者への影響や活動を通じての成長への期待

第 5 回会議 ホスト NICE

日時：12 月 27 日（木）18:00-20:00

場所：NICE オフィス近くのカフェ

議題：前回に続き。公共性（のある行動）を考えると原点とした場合に、どのようなスキルや能力が必要であり、また活動を通じて育めるか。

回を重ねるにつれ、社会や活動にかけの思いや、目指す姿は非常に近いものがあり、力と経験をあわせることでその思いや目指す姿を形にできると感じた。一方で現状認識や課題でも共通していることが多く、具体的な協力も築いていけると確信した。

NICE としても引き続き団体のカラーや持ち味を生かしつつ、協働できるところで力を合わせ、全体の発展に寄与していきたい。

4-6) 主催事業の一部を紹介

＜その１：大沼中期国際ワークキャンプ＞

日時・場所	7/21-10/16（約３ヶ月） 北海道七飯町「大沼国定公園」
目的	国際色豊かなボランティアによる湖の浄化作業、地域住民の意識・行動の変革を狙う。
参加者	日・韓・タイ・ネパール各１＋住民多数 （9/2-16は短期ワークキャンプ７名が合流）
共催	大沼マイルストーン 22
助成	国土緑化推進機構
内容	①湖岸での石積、水質浄化作業等 ②森で針葉樹の除伐

＜活動の風景と成果の例＞



森林ワーク（枝打ち）の様子



森林ワーク（下草刈り）の様子

このプログラムを深く、広く続けてゆくことにより、若者は夢を持って将来に進み、地域の人たちもまた、彼らと共に世界を見て希望膨らみます。ちょっとためらっている人たちの肩を、ぽーんと押すくらいの原動力がある。ワークキャンプというステージで、人間らしい感性を取り戻し、自分のライフワークをすることができるような社会。そんなことが、実現するような気がしてならない。

（大沼マイルストーン 22 代表 池田さん）

ワークキャンプの将来性は大きいと考えます。その理由は、

1. 大沼には解決すべき明確な環境問題が存在する。
2. 上記の問題は世界共通の非持続的食料生産に帰着する。
3. このような大問題の解決は地域の力のみでは不十分。
4. 大沼にはワークキャンプを実施する組織と人脈が存在する。
5. 毎年のようにプログラムに新たな要素が追加されている。

（北海道教育大学教授 田中邦明さん：一部抜粋しました）

＜プロジェクトの日程（一部）＞

8月3日	ゴミ拾い、大沼湖湖岸石積み
8月4日	森林ワーク
8月5日～6日	フリー
8月7日	湖作業（いかだ製作）
8月8日～9日	森林ワーク
8月10日	ゴミ拾い、大沼湖湖岸石積み
8月11日～12日	フリー
8月13日	湖作業（いかだ製作）
8月14日	森林ワーク

＜その２：ケニア中期国際ワークキャンプ＞

日時・場所	8/6-9/18（44日間） 西部、ビクトリア湖近郊の村・Ebukhaya
目的	次世代を担う子どもへの教育環境の整備
参加者	21名（日本12・ケニア8・英国1）。 住民等、約1000名が部分参加。
共催	KVDA（Kenyan Voluntary Development Association）
内容	教室の建設、植林、日本語教室等

＜活動の風景と成果の例＞



* 建築作業では地元の大工さんと共に、基礎作りから始め、小学校の教室2棟をあと一歩というところまで作り上げた。中学校の教室は2棟を見事に改築した。

* 植林は小中学生と一緒に、校内に434本の木を植えた。これはUNEP(国連環境計画)主催のBillion Trees Campaignの一環でもあり、UNEPのHP上に成果が掲載された。

* 週1回、先生に授業を1時間もらい、日本語スワヒリ語レッスンを行った。学生はいつも日本語で挨拶してくれた。

行ってよかった、やってよかったと思えるワークキャンプだった。知り合った人、やってきたこと、成長した自分、全てが自分の財産だ。それらが自分にとって良かっただけでなく、実際の成果として教室が建ち、木が植えられ、現地の人の心にも残ったということはすばらしいことだと思う。

この経験を、単にいい思い出だったと終わらせるのではなく、これから先の人生に生かしていきたい。そして社会に対しても、この経験で得たことを還元していきたいと強く思う。世界は自分だけのものではないのだから。

（プロジェクト・リーダー 大沼秀樹）

＜プロジェクトの日程（一部）＞

8月20日	建築作業、ホームビジット
8月21日	建築作業、日本語レッスン
8月22日	建築作業、ホームビジット
8月23日～24日	フリーデー
8月25日	建築作業、ホームビジット
8月26日	ディケアセンター訪問

4-7) 派遣事業（体験談）の一部紹介

* 掲載されている写真は、紹介されている報告者及びその参加事業のものとは、異なることもございます。

① 素晴らしい自然の中で (国立公園の整備 in 米国)

報告者	白石達史さん
期間	2/3～8/4
ワーク	国立公園の歩道補修、森林の間伐、植林。柵の設置などによる外来種の除去、生態系の保護。
宿泊施設	Flagstaff に点在するアパート
参加者	最大で 130 名程が参加。季節によって異なる。



アメリカの雄大な国立公園内で自然相手に活動ができるという貴重な経験になった。確かに体力は必要だが、どの国からも女の子は参加しているし、できないことまで強制することはないので、自分のペースで作業を進めることができる。

それに、何よりも行く先々での自然には毎回圧倒された。果てしなく続くキャニオンや、地平線まで広がる大平原、嵐を遠くに見ながらのハイキング等も多く、日本では決して味わえない自然を楽しむことができた。

電気もガスも水道もなく、人の全く入らない山奥まで新しいトレイルを作りに行った時は、テントや寝袋や水を含めて 30 キロ近くのバックパックを担ぎ、険しい山道を 16km 歩いた。日が落ちる前にキャンプサイトまでたどり着かなければならないため、筋肉が痙攣し、足がつった状態でも休憩なしで歩かなければならない。このときは全員がアスピリンを飲み、痛みを紛らわしながら声を掛け合った。無事に日没前にキャンプサイトに到着し、その後みんなで行ったバーベキューは格別なものになった。

ACE はメンバーが多いため、中には人間関係がうまくいかない人がいたり、文化の違いから誤解があったりすることもある。しかし、ほとんどは自然を楽しみにアメリカへ来た人で、環境に対する意識も高い。そして、誕生日にはこっそりとパーティーの準備をしていたり、仲間が去るときには涙を流したり、たまにはバカなことをやったり、プロジェクト以外でも多くの人からエネルギーを感じる。この場所に半年間滞在し、素晴らしい自然と人に出会えたことは一生の宝物になると思うし、この活動によって人間は自然の中で暮らしていることを改めて実感することができるはずである。

② 4 ヶ月間の最後の日に・・・ (孤児院で英語教育 in インドネシア)

報告者	塩見奈津子さん
期間	3/12～6/24
ワーク	孤児院で英語の授業、私立大学で日本語の授業
宿泊施設	孤児院内の個室
参加者	2 ヶ国 2 名。様々な形で参加した住民約 300 名。

中長期ボランティアといっても期間は決められてるわけで、私の場合 4 ヶ月だったが、その中で何ができるか常に自分の中で試行錯誤しながら、ときには葛藤しながら生活していた。結局自分に何ができたのか、振り返ったときに明確な答えはない。たった 4 ヶ月、私が孤児院の子ども達に英語を教えたぐらいで、子ども達の学力が急激に伸びたとは到底考えられないし、何か確かなものが残せたとも思えない。

ただ、4 ヶ月一緒に生活して、心の底から笑い合ったり、時には本気で腹を立てたり、毎日自分の名前をたくさんの子供達から呼んでもらったり、子供達の中に自分の存在があったことが何より嬉しかった。

そして最後の日に泣いて行かないでと言ってくれる子が何人かいて、私は彼らに何か残せたのかもかもしれないと感じることができ、自分のしてきたことに誇りを持てた。

今こうして日本に帰ってきて、振り返るとあまりにも生活にギャップがありすぎて、インドネシアで過ごした日々が何か不思議な夢のような時間のように感じる。しかし、子ども達や IIWC のボランティア、スタッフと、また必ず戻ると約束した以上、彼らに負けないように 1 日 1 日頑張らなければならないという気持ちが湧いてくる。



③ 着いたら言われたことにびっくり！ (学校で日本語教育 in タイ)

報告者	吉澤正代さん
期間	11/2～2008年2/2
ワーク	大学と、その近くの中高校で日本語の授業
宿泊施設	大学生と一緒に共同生活
参加者	5ヶ国13名。様々な形で参加した住民約20名

緊張の中、タイに着いた私を待っていたのは、タイ語でもなく、英語でもなく、日本語でした。

「私は大学で日本語を勉強しています。あなたは私に日本語を教えます。私は日本語を勉強してあげます。」

可愛らしいタイの女の子が言いました。その子から日本語がでてきたことにまず驚きましたが、言われた内容をよく考えてさらにびっくりしました。なぜなら私は英語を教える…。自分にできるのか…。一瞬考えましたが、自分は日本人だし、教えられるだろうと思い、「OK!」と軽く答えたのです。が、それからは悪戦苦闘の毎日になりました。

中高校では生徒が日本語に慣れ、好きになってもらうことが重要だと感じました。1人で教壇に立つことが多く、歌や文化を教えたり、ゲームをしました。が、生徒も日本語があまり理解できない、私もタイ語が話せない状況で、大変でした。

大学では、タイ人の先生のサポートをしました。大学生に重要なのは、仕事ができるレベルの日本語を身につけることなので、私は主に発音・表現の指導や会話の相手をしました。その中で感じたのは、うまく教えられないもどかしさでした。例えば、生徒が「おいしいじゃない」のような間違った日本語を使っていた時、正してあげることではできても、どうして「おいしくない」になるのか、説明ができないのです。

そんな悔しい、申し訳ないという思いを楽しみに変えてくれたのは、生徒達でした。日本のマンガ、文化に興味を持って、日本が好きだと言ってくれた生徒。片言でも、辞書を片手に一生懸命話しかけてくれた生徒。「ありがとう」の言葉と笑顔が、私にタイに来た意味をくれたように思えました。



彼らは沢山のことを教えてくれました。日本語を教えることは日本を教えることと同じだということ。自分が一生懸命教えれば、必ず返ってくるものがあること。そして日本語を教えることはとても素晴らしい、楽しい仕事だということ。私は日本語教師になる決心をしました。日本に帰って、色々調べ、日本語教師養成講座を受講することに決めました。

いつかタイに帰って、みんなに今度はもっときちんと、自信をもって日本語を教えてあげたい。それが今の私の夢です。

④ エクアドルの病院で・・・ (子ども病院でのお手伝い in エクアドル)

報告者	増田くに子さん
期間	6/18～8/15
ワーク	おむつの配布、病気や入院生活している子どもの精神的ケア
宿泊施設	学生寮
参加者	3ヶ国11名。

エクアドル・キトにある BacaOrtiz 子ども病院にて、2ヶ月間ボランティアをした。エクアドルの医療機関には公立と私立のものがあり、労働者である多くの国民は公立病院にて医療を受ける。BacaOrtiz 子供病院もエクアドル政府の厚生省管轄の子供病院として、貧困層の人々を対象にしている。

ワークでは寄附されたおむつの配布をした後、入院患者の子どもたちとゲームや本の読み聞かせなどをして過ごした。子どもたちは病気や入院生活による苦痛の中で、それを少しでも紛らわせられるような遊びや会話を必要としており、体の治療だけが医療に求められることではないと言うことを実感した。



ボランティアオフィスには幼児向けのパズルや絵本、クレヨンと落書き帳などがおかれていたが、年長の児童向けのゲームがなかった。そこで、手作りのオセロと双六を作った。オセロのルールは多少複雑だったので正確に理解した子どもは数人しかいなかったが、双六は多くの子どもたちに喜ばれた。

おみやげで持っていったディズニーのステッカーにも大変興味を示していたので、折り紙で手裏剣を作りステッカーを貼って配った。

ある時絵本の読み聞かせをして回っていると、患者の親にその絵本を譲ってくれないかと言われた。その本はオフィスのものだったので断ったが、絵本を喜ぶ子どもが多かったのでアンパンマンの絵本を書いてそのコピーを配って回った。塗り絵をしたがる子どもも大変多かった。挿し絵は塗り絵用に描いた。多くの子どもは色鉛筆も持っていなかった。ので、作った絵本と共に配ると大変喜ばれた。

ワークを終え今後は、医療資源配分の格差を是正するためにはどうすればいいか、各国の医療制度や医療教育制度などについて勉強していきたい。

第5章 ネットワーク作りのリード

NICE の事業の大多数は、他団体と共催・提携することで成り立ち、それらも全てネットワークと言える。が、ここでは第1～4章と第6章の各事業を除く、NICEの目的に沿った他団体との協力活動を指す。

海外では **98ヶ国・150** の国際ボランティア NGO と提携し、紹介プロジェクトの約 3000 は **世界1・2位** を争う。また国内外において、非常に **多様な分野・地域・種類** の団体やボランティアとつながっていることも、大きな武器・財産と言えよう。

特に国際ボランティアの国際ネットワークでは、**地球 (CCIVS) 及びアジア (NVDA) レベルでの代表として、とても活発に活動し、重要な役割を担っている。**

昨年は地球ネットワークの創設とその会議の企画を成し遂げたが、今年は特に「**AEVTP 事業**」や「**CCIVS 総会**」（共に後述）を主導したことの貢献が大きい。

国内でも、**開催地サミット (P16)** や**地球ボランティア・フェスタ**の開催、**長期社会活動推進協議会 (P37)**、**ワークキャンプ・フォーラム**や**2008 年 G8 サミット NGO フォーラム**（共に P47）等で、精力的に活動した。

5-1) 国際会議と国際特別事業

19 の会議に、**12 人 (のべ 28 人)** が参加 (下表参照)。うち **15 が国際ボランティア関連** (CCIVS・NVDA 各 5、ALLIANCE 4、AVSO 1) で占められる。

代表を務める CCIVS の理事会・総会 (計 4)、同じく代表を務める NVDA の年度会、**ASEF＝アジア欧州財団**及び NVDA と共催した AEVTP 関連 (計 4) と、全体の **約半数 (9)** の会議・事業を NICE が **主催・共催** した。

ただ、環境・福祉・開発・教育等の分野様々な団体とつながり、多くの成果を生んでいる割には、**各分野の (国際ボランティア NGO に限らない) 国際ネットワークやその会議では、十分に力を発揮できていない。**

その第一歩として、各分野での社会改善に国際ボランティア活動がもたらす成果を測り、高めるための「**AEVTP 事業**」を行ったが、まだこれからである。

一方で**青少年育成面**に関しては、その力が国内外の社会で広く認知されつつあり、様々な会議にトレーナー (運営指導者) や参加者として招待された。

＜ 表 A : 2007 年に N I C E が企画・参加した国際会議 ＞

会議名	期間	場所	NICE からは	国/団体/人数	主な内容
CCIVS 理事会	03/01-03/05	フランス・パリ	開澤真一郎	10/ 13/ 16	総会企画・ユネスコと対談
AEVTP 準備会議	03/02, 04	フランス・パリ	開澤	5/ 5/ 5	事業計画・役割分担
ALLIANCE 技術会議	03/05-03/11	トルコ・アンタリア	開澤・上田英司	35/ 61/ 116	事業広報・協力推進
NVDA 年度会	03/11-03/12	トルコ・アンタリア	開澤・上田	9/ 11/ 16	活動計画・予算作成
ASEF・TFT	05/26-05/31	フィリピン・マニラ	空屋龍樹	?/ ?/ 30	異文化理解の技能向上
日独 NGO 合同会議	06/04	ドイツ・ロストック	開澤	2/ 13/ 21	両国ネットワークの協力推進
G8NGO 代替サミット	06/05-06/07	ドイツ・ロストック	開澤	?/ ?/ ?	NGO 政策提言の発信
CCIVS 特別会議	06/10-06/13	フランス・パリ	開澤	3/ 3/ 5	専従改善・予算修正
AVSO セミナー	06/13	ベルギー・ブリュッセル	開澤	20?/40?/ 50	事業の成果測定とは
ALLIANCE 学習会議	06/24-07/01	フランス・ストラスブルグ	吉本紀子	?/ ?/ 41	異文化理解の経験交換
WYP アジア・欧州会議	06/30-07/04	マレーシア・マラッカ	馬本友幸	27/ ?/ 60	異文化理解と協力推進
AEVTP オリエンテーション	07/10-07/13	フランス・パリ	開澤	7/ 8/ 10	分野別成果の測定訓練
AEVTP スペシャル事業	07/15-08/31	欧アジア 7 ヶ国	中山和子	11/ 12/ 29	分野別成果の測定
AEVTP 事業	09/11-10/02	フランス+ 1 ヶ国	豊永はるか	12/ 15/ 19	専従職員がノウハウ交換
AEVTP 総括会議	10/28-11/01	日本・東京	開澤、塚本竜也、 沖野道子	8/ 8/ 10	分野別成果のまとめ
ALLIANCE 総会	11/04-11/11	イタリア・Roma	開澤	22/ 34/ 62	活動 1 年計画の作成
CCIVS 理事会	11/19, 23, 25	ウクライナ・Lviv	開澤、11/19 上田	9/ 9/ 12	総会の直前準備
CCIVS 総会	11/19-11/26	ウクライナ・Lviv	開澤、上田	24/ 28/ 41	活動 3 年計画の作成
ASEF 訓練者セミナー	12/01-12/07	エストニア・Tallin	尾崎嘉洋、開澤、 河津舞、永木顕大	23/ 27/ 30	若者訓練のノウハウ交換

* 灰網は他の会議を利用して、その開催中に行われたもの。

5-2) CCIVS

国際ボランティア活動調整委員会 (Coordinating Committee for International Voluntary Service)。

国連・ユネスコが 1948 年に、世界中の国際ボランティア活動を推進するために設立したネットワーク NGO。パリのユネスコ本部に事務局を持ち、**約 100 の国際ボランティア NGO** (国際団体の支部を含めると約 250 団体・94 ヶ国) **が加盟**。

NICE は日本の団体としては唯一の加盟 NGO で 92 年に加盟、95 年から理事を 4 期連続で務める。開澤は 98 年から副代表、04 年～07 年に代表に就任。

<CCIVS の 2007 年>

1) 主なプロジェクト

- ① 「**国際ボランティア活動とノンフォーマル教育を通じた、読み書き教育セミナー**」をガーナで 4/25～5/7 に主催。西アフリカを中心に 7 ヶ国・38 名が参加し、経験を交換した。ユネスコが協賛。同時に西アフリカのネットワークも再興したが、トップダウンで行ったため、その後ほとんど機能せず。
- ② 「**アジア・欧州の異文化学習指導者訓練セミナー**」をフィリピンで 5/25～5/31 に、ASEF・ICYE と共催。
- ③ 「**美女と野獣キャンペーン**」。ユネスコ等が推進する ESD (持続可能な開発のための教育) に関して、国際ボランティア NGO が行う経験の共有が目的。世界各地で廃品を利用したアートを作り、その写真や実物を集めてパリのユネスコ本部で展示をする計画だったが、事務局側の準備の遅れや PR 不足もあり、参加した団体はほぼ皆無、見事に失敗に終わった。
- ④ 「**AEYVE 2007**」: 9/11～10/2 にパリを中心にアジア・欧州各地で実施。詳細は後述。
- ⑤ 「**紛争・対立と意思疎通セミナー**」をイタリアで 9/21～27 に欧州評議会と協力して開催。主に国際ボランティア活動における対立の解決法に焦点。
- ⑥ 「**国際連帯基金**」。加盟団体 (自由参加) から金を集め、「南」(物価の安い国) のボランティアの渡航費を支援する。98 年に開始し、今年は 21 団体が参加。ケニア→英国、ベトナム→米国、ナイジェリア→レソト、ウガンダ→レソトの 4 事業を支援。
- ⑦ 「**第 30 回総会**」。3 年に 1 回開催する CCIVS 最大のイベント。詳細は後述するが、単なる組織運営のための場ではなく、加盟団体が悩みやコツを交換したり、当たらない提携や事業を作る場としても貴重。

2) 主な外交

- ① 事務局長や理事が、パリで「**NGO—ユネスコ連絡委員会**」に 8 回参加。具体的な成果は乏しかった。
- ② 5/10 と 10/15 にブリュッセルで、事務局長が「**欧州連絡会議**」に参加。SCI、YAP、ALLIANCE、AVSO 等、欧州に拠点を置く国際 NGO や協力網と情報を共有。
- ③ 6/13 にブリュッセルで欧州議会と AVSO が共催した「**国際ボランティア活動の成果測定**」会議に、代表 (開澤) と事務局長 (Ms. Simona) が参加。
- ④ 10/12-13 にユネスコ総会の直前イベントとして行われた「**NGO フェアと青少年フォーラム**」を主導。

3) 組織運営の概要

- ① **会員**: 10/16 現在、108 団体が加盟 (正会員は 70)。うち欧州 37、アフリカ 33、アジア 18、中東 6、北中南米 8、国際 (複数国に支部) 6。
- ② **理事会**: 11 月の総会まで、11 名の理事が 3 年の任期を務めた。理事会は 3/1-3/5 にパリ、11/19・23 にウクライナで開催。総会で理事選挙が行われ、ケニア KVDA 35 票、フランス CONC 及びウクライナ ALT 34 票、国際 NGO・YAP 31 票、日本 NICE 29 票、エクアドル FEVI 26 票、韓国 IWO 26 票、ウガンダ UPA 25 までの 8 団体が当選。5 団体が落選した。
- ③ **事務局**: 専従職員は今年も 2 名。その他、欧州ボランティア・サービスによる派遣スタッフ 1 名。

<NICE の果たした役割>

2004 年 11 月に代表に就任して以来、精力的に組織をリードし、今年は 3 年間の集大成として

- ① **総会** (1 ⑦) の企画・準備・運営に尽力。全体をまとめながら、様々な改革案を提案・実現させた。また、**理事会**も引き続き、企画・準備・運営した。
- ② 事務局員ができなかったため、全会員が加入する**メーリングリスト**を創設・主導。会員達と社会ビジョン、活動の課題、組織の在り方を直接話し合った。
- ③ **AEYVE** を 01 年以来、実行委員として主導。特に画期的な作品となる「**団体活動調査書**」を作成した。**国際連帯基金**も元々 NICE の発案で導入されたものだが、今年も資金を拠出して側面から支援した。また 04 年の総会で提案し可決された、**水資源保護、子ども支援等の地球共通アクション**を活発に主導。
- ④ ドイツの **G8 サミット**の国際メディアセンターで CCIVS からの提言を大々的に発信。シンガポールの ASEF と APEC の訪問、台湾での特別セミナー等、様々な場で **CCIVS** を PR。また**書類**も幾つか改善した。

< 第30回 CCIVS総会 >

① 背景とねらい:

国際ボランティア NGO 唯一の地球ネットワーク・CCIVS が3年毎に開催。開催国は92年以降、ロシア、ドイツ、モロッコ、フランス、ケニアの順で受入。

- A. CCIVS の組織改善・強化、活動計画や予算を決定。
- B. ノウハウを交換し、**加盟団体**の事業・運営を向上。
- C. 各種**社会問題**を討論、地球共同アクションを創造。

② 開催期間と場所:

11月19日～26日(19日は到着・26日は出発のみ)。
ウクライナ西端のLviv(世界遺産登録地)のホテル。

③ 参加者:

24ヶ国(豪州以外の全大陸)・28団体の41人。
そのほとんどが各団体の代表、事務局長クラス。

④ 大まかな内容:

- 20日 CCIVS の問題(理事会改革、外交、財政等)
- 21日 加盟団体の問題(ボランティアの事前訓練等)
- 22日 地球社会の問題(環境、福祉、教育、文化等)
- 23日 フリー(遠足) *理事達は理事会
- 24日 3年間の活動と決算の報告。活動計画の原案。
- 25日 3年間の活動計画と予算の決定。理事選挙

⑤ 運営と予算:

主催: CCIVS(受入協力: 加盟団体のALT)
渡航費: 自己負担(CCIVS 理事10名は25-75%補助)
滞在費: 自己負担(1人250ユーロ=約40,000円)

⑥ 主な成果(決定事項等)と課題:

- ◎ 代表の開澤の発案により、**分野別チームの創設**を決定(環境・福祉・教育・文化・平和)。開澤は自らこれらを統括する副代表(新設)に就任。
- ◎ これも開澤の発案で、**副代表4名の役割を改変**。大陸別から機能別(上記統括に加え、渉外、加盟団体のレベルアップ、加盟団体の活動活性化)に。
- ◎ **公用語**を英仏併用から英語のみに。**理事会を小さく**して、旅費を全額補助するにも多数が支持。
- ◎ **3年間の行動計画**(以下に例)や、予算も決議。
 - + 国際ボランティア活動の成果を測定・集計。
 - + 国際ボランティアの健康・安全確保本作り。
 - + 中長期ボランティア地球会議の開催。
 - + 特別G8ワークキャンプと世界七タアクション
 - + アクリルたわし推進。世界遺産保護キャンペーン
- ◎ 全体の雰囲気はよく、様々な**交流・協力**が発展。
- ◎ 旅費の補助もできず、**参加団体が少なかった**。
- ◎ 会議で盛り上がっても、帰国後**日常に戻ると**...

CCIVS 総会より



AEYVE より



< 第6回 AEYVE >

① 背景とねらい:

アジア欧州青少年ボランティア交換事業。01年開始。
当初は、各団体のアクティブ会員達が互いの大陸のワークキャンプに参加しあう形にしたが、この事業がなくても、日韓→欧州や西欧→アジア全般には大勢のボランティアが行き来していて、あまり意義がなかった。また参加者個人には沢山の成果があっても、参加団体に成果が薄いと、労力をかけて受入・派遣しづらい。

そこで06年から団体のニーズに即した事業を目指して、秋に短期間で職員がノウハウ交換する形に変更。

NICE は最初から中核として、作業部会に02, 04-05年は理事の吉本紀子、01, 06-07年は代表の開澤が参加。参加者は01年吉本道子★、02年岡森千佳★、04年小林直子★、05年長田顕泰、06年藤沢実果☆、07年豊永はるか☆(★は理事、☆は専従職員)。

② 開催期間と場所:

9月11日～10月2日。研修は6ヶ国(伊・仏・蘭・英・日・ベトナム)で受入。

③ 参加団体(派遣・受入両方含む):

欧州4ヶ国5団体、アジア8ヶ国10団体(上記6ヶ国+中・インドネ・韓・タイ・印・マレーシア)。アジア側はほとんどが専従職員、欧州側は理事等。

④ 内容:(特に資金作り、派遣・受入業務、事業の開拓・評価等のノウハウに焦点)

- 9/11- 9/15: パリの青少年センターで準備セミナー
- 9/16- 9/28: 各国の団体に分かれて研修
- 9/29-10/ 2: パリの青少年センターで総括セミナー

⑤ 運営と予算:

主催: CCIVS(助成・共催: ASEF=アジア・欧州財団)
渡航費:「北」300ユーロ、「南」600ユーロの補助。
滞在費:「北」400ユーロ、「南」250ユーロの補助。

⑥ 成果と課題:

- ◎ 職員・理事中心の顔ぶれで議論も中身濃かった。
- ◎ 11団体が答えた**調査書は画期的な情報資源**に。
- ◎ 欧州からの派遣者は**2名だけ**なのが、残念。
- ◎ 作業部会の準備の**遅れ**、一部受入団体の**無責任さ**。

5-3) NVDA

アジア・ボランティア発展ネットワーク (Network for Voluntary Development in Asia)。

NICE と CCIVS がアジア・太平洋地域で国際ボランティア活動を推進するため、**1997 年**に中国で 12 団体で結成したネットワーク NGO。26 ヶ国の 19 団体が加盟。

①新しい国でのワークキャンプ開拓、②互いの事業・団体の改善、③環境や福祉の共通アクションを行う。

NICE は創設以来、5 期連続で代表を務め、リード。

<NVDA の 2007 年>

1) 主なプロジェクト

- ① **NVDA 特別ワークキャンプ**：インドネシアで 2/5～17 に開催。4 ヶ国 5 団体から 12 名が参加し、地震で倒壊した幼稚園の補修や、小学校で「ノートブック・アクション」(後述)を行った(左下の写真)。



- ② **国際ワークキャンプ未開催国での開拓**：

NICE が台湾で初開催(詳細は P18 参照)。また開拓活動を支援するための基金が、NVDA 内に創設された。

- ③ **団体と事業の質の向上**：活動の成果を測定する AEVTP 事業(次頁)に加えて、以下の活動も展開。

- + 12/01-07 にエストニアで姉妹ネットワークの ALLIANCE と ASEF が主催した「活発な市民活動のための訓練者セミナー」を共催(右上の写真)。
- + 加盟団体の決算公開を推進し、AEYVE(前頁)の調査書を通じてのものも含み、7 団体が公開。
- + 加盟団体間で職員交換も活発に実施。

- ④ **ボランティアの派遣**：06 年から国際ボランティア NGO のない国から、世界中のワークキャンプへのボランティア派遣を実施。派遣数は 06 年の 12 人から 19 人に増加(シンガポール 7、香港 3、台湾 2 等)。

- ⑤ **アジア共通アクション**：他のネットワークにはない多様で豊富な活動を活発に展開(幾つかは後述)。ただし、8 種の活動がある中で、1 団体平均で 2 種しか行わず、1 活動には平均 4 団体しか参加せず。団体間で、活発さに大きなばらつきがあるのが課題。(職員が興味・余裕ない、団体が日常的な社会活動を行わず会員がいない等、様々な事情がある。)

2) 主な外交

- ① 3/5～11 にトルコで、代表を含む 10 の加盟団体が ALLIANCE 主催の「**技術会議**」に参加。双方の理事同士で会談を持ち、様々な連携の案が話し合われた。出席できない加盟団体の活動は、事務局長が紹介。
- ② 6/25～29 に韓国で、専従職員が KNCU 主催の「**ユネスコ・アジア青少年フォーラム**」に招待参加。22 ヶ国・47 人の参加者に活動を紹介し、連携を打診。
- ③ 7/9 にシンガポールの **ASEF** と **APEC**(アジア太平洋経済協力会議)を代表と専従職員が訪問。

3) 組織運営の概要

- ① **会員**：今年 1 年間で 3 団体(タイ DALAA、インドネシア DJ、台湾 VYA)が加盟し、最多の 26 ヶ国・19 団体に(正会員は 12 ヶ国・16 団体)。団体のアクティビ度は差が大きく、独自の指標で集計した結果、1 位はインドネシアの IIWC と日本の NICE が同率の 95%、3 位はベトナムの SJV と韓国の IWO が同率で 47%、5 位はモンゴルの MCE で 35%。一方で 2 団体が一桁。

- ② **理事会**：日・韓・印・モンゴル・インドネシアの 5 名の理事が活動中(任期 2 年で 08 年 1 月まで)。理事会は資金不足で単独では開けず(これが NVDA の弱みの一つ。アジアは広いため、2 日間の会議のために 30 万円以上かかるとなると、集まらない)。

そのため、普段はメールで議論・決議し、トルコの ALLIANCE 技術会議に 5 団体全てがたまたま参加していたため、3/10 に理事会を実施した。



左から専従職員の Ismi、事務局長の Puji、副代表の Baatar (モンゴル)

- ③ **事務局**：事務局長 Ms. Puji (インドネシア)の指導で、専従職員 Ms. Ismi が今年も業務をこなした。人件費が月約 1 万円で済むのが、NVDA の強み!

<NICE の果たした役割>

97 年に代表に就任して以来、精力的にリード。今年は 10 年間の集大成に(来年の辞任を昨年に宣言)、

- ① 代表として、上記の**外交活動や理事会**の統率。また**専従職員**を訓練・指導・サポート。Web のサーバースペースの無償提供や情報更新でも貢献。
- ② **AEVTP**(次頁)を発案・実現し、メイン企画者に。また来年の**総会&特別事業**の財源を探し、確保。
- ③ 8 種の**アジア共通アクション**のうち 7 つを実行。そのほとんどを**発案・主導**。

< 第1回 AEVTP >

① 背景とねらい：

正式名称（和訳）は「アジア欧州青少年ボランティア・チーム作りと連携」事業だが、要は「**国際ボランティア活動（IVS）の成果を調査・測定する事業**」。

IVSは各分野の状況改善に大きな力を生んできたが、その成果を測り、集め、まとめ、紹介することが（少なくとも国際的には）ほとんど行われてない。本事業でそうした手法を開発し、成果を集めてみることで、

- A. 社会での認知を高め、**共催・協力・参加を増やす**。
- B. 既存の事業からの**成果の更なる向上**につなげる。
- C. **共通アクションや政策提言**にも展開させる。

② 開催期間と場所：

7月10日～11月1日。7ヶ国（③参照）で受入。

③ 参加団体（派遣・受入両方含む）：

欧州の**6ヶ国6団体**と、アジアの**5ヶ国6団体**。
成果を調査する特別ボランティアと受入国は、
教育：日本・ベトナム人がインドネシアとベトナムへ
児童：イタリア・ベトナム人が、ベトナムと日本へ
環境：インド人が、イタリアとギリシャへ
難民：タイ・ベトナム人が、ベルギーとフランスへ



④ 内容：

7/10-13：パリでオリエンテーション

7/15- 8/31：各国で特別プログラム（2ヶ国の国際ワークショップに参加しながら成果を測定）

10/28-11/ 1：東京で総括セミナー

⑤ 運営と予算：

主催：NICE と NVDA（助成：ASEF＝アジア・欧州財団）
渡航費・滞在費共に、大部分を主催者側で負担。

⑥ 成果と課題：

- ◎ **世界初**の画期的な試み、偉大な第一歩を記した。
- ◎ 参加事業では成果をより意識して**好影響**も。
- ◎ 国際的に統一規格の**測定手法**をの原案を開発した。
- ◎ 大事業なのでまだまだ実験段階、**時間がかかる**。

< アジア・共通アクション >

① 環境・アクリルたわしの推進：

洗剤が不要なので、水汚染を緩和できる。2003年の国際淡水年を契機にNICEが発案・開始、今まで**日本各地**に加えて、**インドネシア、イタリア、フランス**でも国際ボランティアや地域住民達に広げた。今年は日本、マレーシア、インドネシアの3ヶ国で数百名が参加。



② 環境・グリーンング・アジア（森林保護・再生）

◎ **森林保護ワークキャンプ**：10ヶ国で50回実施
（日16、ネパール13、印7、ベトナム・韓国各4、比2、バングラデシュ・インドネシア・モンゴル・豪各1）。

◎ **緑の里親**：インドネシア・スマランの小学校でIIWCが、向日葵300個とマンゴ100個を子ども達と植樹。

◎ **アジア緑化基金**：NICEが創設、2002年からモンゴルやフィジーの植林を支援。今年もモンゴルに5万円強支援し、苗木約200本の購入等に役立てた。

③ 福祉（教育）・ノートブックアクション

被災地や物不足の村等に日本から**ノート**を贈りつつ、絵やメッセージを交換し、**対等の友情**を築く活動。

今年は長野の塩尻・千葉の船橋・長崎の雲仙の小学校から集めた160冊のノートを、9/7-15にリーダーの井手貴恵が**ネパール**の小学校や孤児院で配布。帰国後、塩尻と船橋の小学校を再訪して現地の報告をした。



④ 福祉・エコキャンドルアクション



エコキャンドルを**廃油**で作って販売し、売上を不利な子ども達の教育や生活等に活用する活動。今年は**岐阜の高山の火祭り**で17,250円を売り上げ、また2月のモンゴルでのワークキャンプでも50個作り、2,600円を売り上げ。共に**姉妹養護施設ワークキャンプ**を支援。

⑤ 他・姉妹NGO（学校・施設同士等をつなげる）

日本とバングラデシュの小学校、日本・モンゴル・インドネシアの児童養護施設、日英の森林保護NGO同士をつなげる特別事業を実施した。詳細はP16-17参照。

5-4) 国内他団体とのネットワーク

① 政府・国際機関（代表的な例）

ここ数年、国（省庁）との提携が**増えている**。NICE は地方自治体とは事業を通じて様々な協力をしているが、国とは潜在的な可能性から考えると、**まだ少ない**。通常の事業では国の関与を必要とすることがほとんどなく、自由で安定した活動・運営を確保するためにも、ある程度の距離を保つことが必要な場面もある。それでもつながるべき部分では積極的に連携していきたい。

★ **厚生労働省**：06 年に開始した栃木県市貝町で若者自立塾を継続（P34-35 参照）。また「若者の人間力を高めるための国民運動」をの主観事業として若チャレ！ワークキャンプを 8 回開催（P31 参照）。国民会議主催のイベントも 9 月にまとめた。

★ **農林水産省**：「若年者における就農意識調査研究および意欲喚起への具体的方策」の一環で、福島県で農業ワークキャンプを専従職員の塚本・尾崎が開催。

★ **内閣府**：専従職員の上田が 11 月に青少年リーダー育成事業に参加、イギリスへ。また、内閣府主催の NPO 運営研究フォーラムの実行委員会を務める。塚本は、ユースアドバイザー調査研究事業で執筆。

② 企業・財団

まだ少ない。ここでも助成金や企業の寄付に頼らない事業・組織構造にしてきたので特に**問題はないが**、活動を発展させるには、今より拡大する必要もある。

今年財団等から頂いた主な助成金は、以下の通り。総額 **575 万円**（この他にも、各事業で少額助成あり。経理上、2008 年扱いになる部分も含む）。

- * **国土緑化推進機構**（中期ワークキャンプ・大沼及び、日英ワークキャンプ・東京港。2 つ合わせて 110 万円）
- * **日本財団**（姉妹養護施設ワークキャンプ。50 万円）
- * **富士ゼロックス端数倶楽部**（同上。5 万円）
- * **三菱銀行国際財団**（来年の NVDA 特別事業。172 万円）
- * **国際交流基金**（日・タイボランティア交流。10 万円）
- * **ASEF＝アジア欧州財団**（AEVTP 事業。228 万円）

グループワークキャンプ（P48）では UPS 日本、日本サムスン、東京海上日動、大学生協トラベルと共催。

また**海外旅行傷害保険**でエース、**格安航空券**ではミヤ・インターナショナル（他数社）と提携し、海外に行くボランティアへのサービスを充実させている。

マレーシアでも**ゲストハウス**と提携して、ボランティア割引で宿泊を提供してもらっている。**航空会社**との提携も幾つかと話し合いを始めた（まだこれから）。

③ 他の NGO・一般市民

以下はあくまで一例であり、非常に多くの NGO・NPO や一般市民と協力をしている（特に各事業を通じて）。

この他、大勢の一般市民を巻き込む 16 のイベントの主催や出展を行った（8 章を参照）。



★ NICE が加盟している民間ネットワーク

- A. 長期社会活動推進協議会（P37 参照）
- B. ワークキャンプ・フォーラム（次頁参照）
- C. 2008 年 G8 サミット NGO フォーラム（次頁参照）
- D. 日本 NPO センター
- E. 関西国際交流団体協議会

★ 専従職員が運営に参画する団体・ネットワーク

- A. 熊本の NPO 法人・植物資源の力（開澤が理事）
- B. 日本環境保全ボランティアネット（塚本が助言者）
- C. とちぎ市民活動フォーラム（塚本が実行委員）
- D. 環境 NPO 協力網「おおなみ」（上田が運営委員）
- E. 東京ボランティアフォーラム（上田が運営委員）
- F. 調布市市民活動支援センター（上田が運営委員）
- G. フジロック祭（末吉が NGO ビレッジ運営幹事）

★ 会報交換：以下の 19 団体と定期的に交換。

（環境）A SEED JAPAN、緑の地球ネットワーク、樹木・環境ネットワーク協会、エコ・リーグ、森づくりフォーラム、樹恩ネットワーク、丹沢自然保護協会、東京港グリーンボランティア、西多摩自然フォーラム、日本ナショナルトラスト（中間支援）横浜市市民活動支援センター、宇都宮市民活動サポートセンター、日本青年奉仕協会（国際協力）地球市民の会、アフリカ日本協議会、IVUSA（他）国際自然大学、日本エコツーリズム協会、共働学舎

★ インターンの派遣：大学プログラム（P51）を通じて

- A. DEAR＝開発教育協会（東京都文京区）
- B. 大蔵保育園（東京都町田市）
- C. 樹恩ネットワーク（東京都杉並区）

この他、12/1～21 に「ボランティアウィーク 2007」（4 団体と共催）や多数の講演、メディアでの取材等を通じて、国際ボランティア活動をより広く一般市民の方々に推進し、参加・協力を得た。

< ワークキャンプ・フォーラム >

全国ワークキャンプフォーラム実行委員会は、2005年、**国立中央青少年交流の家**主催の「青年NP0会議」での提案に応じた**全国のワークキャンプ団体で組織**。

ワークキャンプの**普及や事業のレベルアップ**を目指し、様々な事業を開催。現在は10団体が加盟。NICEの国際短期事業部長・上田が中核の1人として活躍。

1) 主な活動と、NICEの関わり

① フォーラム (1月。静岡県御殿場市) :

全国でワークキャンプを実践したり、これからやってみてみたい人達が集まり、意見交換や事例発表を行った。100名以上の参加し、これを契機にワークキャンプを開催した団体も少なくない (NICEはその後、愛知と静岡の3団体と新たに国際ワークキャンプを共催)。

NICEは代表の開澤が基調講演をし、事務局長の塚本が自立支援、上田が国際交流の分科会で事例発表。

② リーダートレーニング合宿 (6月。同) :

各団体がノウハウを持ち寄って開催。セミナー形式ではなく、「現場力」を鍛えるというキーワードから、OJT形式で実施。全国から70名以上の青年が参加。

NICEは上田がトレーナーをし、会員が10人程参加。



③ 振り返り合宿 (10月。同) :

国内外のワークキャンプ参加者へのフォローアップミーティングを開催。今後自分の地域で活動をするようにエンパワーすることを目指し、50名以上が参加。

NICEは上田がトレーナーをし、会員が5人程参加。

④ 写真展 (08年1~2月。神奈川県横浜市) :

横浜・みなとみらい駅で1週間開催する予定。一般的な広報では届かない人達に、写真というキーワードから関心をもってもらうのが目的。最終日は、映画監督の本橋成一さんと代表の開澤のトークライブも開催。

2) 今後の展望

フォーラムは、日本全国を巻き込んだ取組みを目指しているが、限られた地域の参加が多いので、今後はより全国的な広がりを作っていきたい。そのためにも、より多くの団体に参加を呼びかけていきたい。

< 2008年G8サミットNGOフォーラム >

2008年に北海道・洞爺湖で行われる**G8サミットに向けて結成されたNGOのネットワーク**。07年1月に運営団体34 (NICE含む) とサポート団体11で結成。

基本的に**環境、開発、人権・平和**の3ユニットに分かれて活動するが、異分野のNGOが結集するのは画期的。政策提言と市民へのキャンペーンが活動の柱。

詳細→<http://www.g8ngoforum.org/>

1) 主な活動と、NICEの関わり

活動の性質上、3ユニット全てに登録したが、特に人権・平和ユニットで活発に活動した。

① 1/31の結成総会、2/10の設立記念シンポジウム、6/28の政治家とのパーティー、6/30のドイツサミット報告会、各ユニットの**会合等に積極的に参加**。

② 最初の提言作りでは、**国際ボランティア活動の推進や国内問題=児童虐待**を盛り込むことをに成功 (国際問題に関わる団体が多く、重視されない中)。また政府に**注文するだけでなく、市民への呼びかけやNGO自身の行動も合わせた形**にすることも提案。

③ 6/6-8に**ドイツ・ハイリンゲンダム**で行われたG8サミットへの視察団に、ユニットから開澤が参加 (2名のうちの1名)。NICEの提携団体・NIGの事務所に泊まらせて頂きながら、「日独握手会議」や「代替サミット」に参加したり、「国際メディアセンター」(フォーラムから4名だけ許可) で**情報収集や提言発信**。



(デモと警官隊)



(メディアセンター)

④ ただし、秋以降は**関わりが減った**。主な理由は、
★ CCIVSやNVDAの総会準備、NICEの事業・運営等が忙しく、会議出席等への時間が取れなくなった。
★ 提言は分野ごとに作り、期待・提案した異分野間の激論・共通ビジョン作りがほとんどなかった。
★ 運営面での議論が多く、時間もかかるため、独自の活動 (世界七タアクション) にシフトした。

2) 今後の展望

活動に関わる難しさに触れたが、それでもこのネットワークが持つ社会的な意義と可能性は大きく、NICEとしても独自活動との連携等を中心に、サミット開催となる08年も、効果的に関わっていきたい。

第6章 その他の様々な事業

NICE は、主幹事業（第1～4章）の事業を組みあわせて応用したり、国際ネットワークを活かして、**多様な新種の事業・活動**を生み出してきた。特にある分野に特化して行うタイプのものが多く、また（専従職員でなく）会員が主導しているものも少なくない。

ただし、何でもかんでも行うわけではなく、次の **3条件**を満たした場合に、行うことにしている。

A) 社会に対して十分、意義がある。

（NICE が目指す世の中作りの力になる。）

B) 採算がとれて、財政的にOK。

（特に専従を持ち、財政規模が大きい場合）

C) 従来事業との相乗効果がある。

（ワークキャンプとつながり、互いに発展。）

< 2007 年に行った事業・活動 >

多分野 グループ・ワークキャンプ

教育① 都立高校での奉仕の授業運営

教育② 国士舘大学での授業運営

教育③ 杉並国際高校での授業運営

教育④ SSP＝姉妹学級事業

教育⑤ 講師の派遣

環境① 緑の里親プロジェクト

環境② アクリルたわしの推進

開発 ノートブックアクション

農業 農林家住む込み隊

福祉① 難民支援アクション

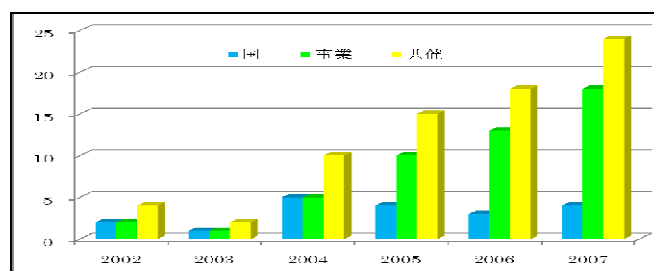
福祉② 児童虐待対策アクション

文化 情報誌の発行

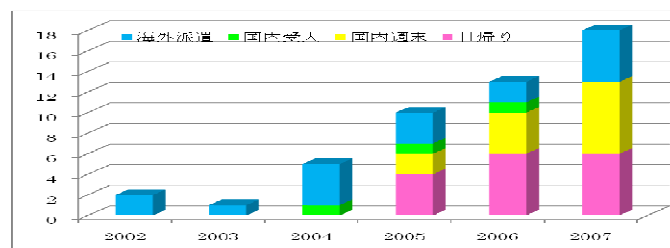
6-1) グループ・ワークキャンプ

学校・サークル・役所・企業等、**特定の団体を対象に企画するワークキャンプ**。社員研修・修学旅行等、従来の行事にボランティア活動を加える形が多く、社会での**需要も大きい**。02年から開始し、6年間で11ヶ国で49回開催（69団体と共催）、1230人が参加。

① 開催数 ～史上最多の18回～



	開催国	事業数	共催団体数		
			計	派遣側	受入側
02年	2	2	4	2	2
03年	1	1	2	1	1
04年	5	5	10	5	5
05年	4	10	15	8	7
06年	3	13	18	10	8
07年	4	18	24	14	10



	日帰り	国内宿泊	国内受入	海外派遣
02年	0	0	0	2
03年	0	0	0	1
04年	0	0	1	4
05年	4	2	1	3
06年	6	4	1	2
07年	6	7	0	5

日帰り＝国内で日本人が参加（日帰り）

国内宿泊＝国内で日本人が参加（宿泊）

国内受入＝国内に外国人グループを受入

海外派遣＝海外に日本人グループを派遣

史上最多だった06年を5回も上回った。
タイプ別では国内宿泊型が特に増えている。

＜ 07 年のグループ・ワークキャンプ開催表 ＞

	開催地	期間	主なワーク	共催(派遣／受入)団体	参加
01	東京都渋谷区	01/30-02/02	表参道の街でゴミ拾い	若者自立塾・栃木／グリーンバード	10
02	インドネシア Semarang	03/06-03/12	被災地で図書館建設、児童交流	ラブどれん／IIWC	6
03	長野県小谷村	03/15-03/19	雪かき、薪運び	Euphoria／共働学舎・真木農場	6
04	東京都大田区	03/17	竹の間伐	UPS／東京港グリーンボランティア	20
05	岐阜県岐阜市	03/26-03/29	登山道の修復	愛知大学／小野ゼミ金華山サポーターズ	16
06	東京都渋谷区	05/22-05/25	アースデー関連活動の手伝い	若者自立塾・栃木／EDMA	15
07	神奈川県鎌倉市	05/26-05/27	有機農家のお手伝い	JICA 神奈川／太平有機農園	15
08	東京都大田区	08/13	草刈り	VYA／東京港グリーンボランティア	25
09	インドネシア Semarang	08/13-08/27	医学生が、路上児童の健康診断	Euphoria／IIWC	11
10	インドネシア Semarang	08/22-08/24	健康診断、修復活動	金沢大学 KURE／IIWC	14
11	フランス Prureaux	08/26-09/07	城を修復し、国際集会所に整備	大学生協トラベル／SJ	15
12	フィリピン Cebu	08/30-09/09	マングローブの植林、水源地保護	名古屋外国語大学／WIP	17
13	インドネシア Semarang	08/31-09/09	養護施設で、交流や活動の企画	愛知県立大 Ruff／IIWC	14
14	東京都渋谷区	09/19-09/22	表参道の街でゴミ拾い	若者自立塾・栃木／グリーンバード	10
15	東京都大田区	09/29	草刈り	日本サムスン／東京港グリーンボランティア	13
16	東京都大田区	10/20	竹の伐採	東京海上日動／東京港グリーンボランティア	21
17	大阪府富田林市	11/04	人工林の間伐	東京海上日動／富田林の自然を守る会	19
18	岐阜県岐阜市	11/17	登山道の修復	東京海上日動／金華山サポーターズ	19

② プロジェクトの風景

＜ 3/17 東京都大田区での活動より ＞



みんなで力を合わせて働いたら…



こんなに沢山の竹が切れたので、



林もすっかり明るくなりました！

＜ 8/26～9/7 フランスでの活動より ＞



こんなに綺麗なお城に泊まれたら、



気持ちよく、一生懸命働く気になります。



なので、お腹もぺっこぺこ。ご飯まだあ？

③ 事業の一部を紹介

< その１：企業の社員達が里山の整備 >

日時・場所	10/20 東京都大田区 11/04 大阪府富田林市 11/17 岐阜県岐阜市
目的	社員のボランティア活動を通じ地域に貢献
参加者	東京：21 人、大阪：19 人、岐阜：19 人
共催	東京海上日動火災保険株式会社 及び 東京：東京港グリーンボランティア 大阪：富田林の自然を守る会 岐阜：金華山サポーターズ
内容	東京：東京港野鳥公園で、竹林の整備 大阪：里山で、人工林の間伐 岐阜：里山で、登山道の整備

< 活動の風景と成果の例 >



みんなで協力して柵を作っています



完成。これで登山道が守られます

< 受入先より >

30 人もの方々が、里山保全ボランティアに参加して下さいました。皆さん、山の作業は始めてで、しんどかったと思いますが、多くの方々に里山の魅力と保全の意義を知って頂けたことを喜んでいます。継続して参加頂ければ、さらにうれしく思います。

(富田林の自然を守る会：田渕武夫さん)

< 参加した社員の声 >

- ・ 自分も楽しめて、役にも立っているという点がすごいと思った。
- ・ 意味ある汗をかくことができた (東京)
- ・ 環境のために働けて、気持ちよかった (大阪)
- ・ よく登っている山を整備できてよかった (岐阜)

< プロジェクトの日程 (例) >

9 : 30	集合
10 : 30~11 : 00	着替え、ワークの説明
11 : 00~12 : 00	ワーク開始
12 : 00~13 : 00	昼食
13 : 00~15 : 00	ワーク再開
15 : 00~15 : 30	片付け・着替え
15 : 30~16 : 30	交流会・各団体紹介
16 : 30	終了・解散

< その２：大学生達が植林 >

日時・場所	8/30-9/9 (11 日間) フィリピンセブ島 Sudlon、オランゴ島
目的	国際感覚の豊かな人材の育成
参加者	19 名 (日本 19・フィリピン 6)。
共催	名古屋外国語大学 WIP (Workcamp International Philippines)
内容	山間部での植林、マングローブの植林

< 活動の風景と成果の例 >



- * マングローブの植林では、種集めから始めた。植林は 1 日で終わったが、種を集めるのがなかなか大変！マングローブの根っこが広がる沼地で足を取られ、時には転げながら連日、種を集めた。



- * キッズセンターにて「日本語教室」「おりがみ教室」「日本の遊び教室」を企画・運営した。子ども達は、教室終了後も私達の宿泊施設にやってきて、日本・フィリピンの遊びを一緒に楽しんだ。

今回のプロジェクトを準備してくれたスタッフ達に、改めて「ありがとう」と言いたい。私にとってフィリピンで過ごした時間は、本当に充実しており、貴重な体験をする事ができた。私は彼らと過ごした時間を決して忘れることはないだろう。(参加者の 1 人)

< プロジェクトの日程 (一部) >

8 月 31 日	マングローブに関する学習。種集め
9 月 1 日~2 日	マングローブの種集め、植林 キッズプログラムの企画・運営
9 月 3 日	フリーデー
9 月 4 日~5 日	山間部でのフェンス作りと植林
9 月 6 日	植林、学校訪問

6-2) 都立高校での奉仕の授業運営

社会参画意識を高めるために、東京都が2007年から必修授業として始めた「奉仕」を、「教育支援コーディネーター」として企画・運営。

<2007年の活動概要>

10校で19回の授業を運営し、延べ2,475人の生徒達に国際ボランティアの体験談を話したり、国際協力のためのグッズ作りをしてもらった。

訪問日	高校名	内容	生徒
06/20	青井	体験談とワークショップ	150
06/25	南葛飾	体験談	240
07/02	南葛飾	体験談	240
07/10	蔵前工業	体験談と活動紹介	10
07/11	八潮	体験談と老人体験	240
07/19	大島	体験談とワークショップ	180
07/19	大島海洋国際	体験談とワークショップ	75
09/12	市ヶ谷商業	体験談とワークショップ	60
09/26	市ヶ谷商業	オランダ話と活動決定	60
10/10	市ヶ谷商業	海外支援品作成	60
10/15	足立東	体験談	100
11/07	青井	新米お母さんの話	150
11/07	市ヶ谷商業	海外支援品作成	60
11/21	市ヶ谷商業	開発教育ワークショップ	60
11/13	国際	体験談	240
12/04	国際	体験談	240
12/12	市ヶ谷商業	海外支援品作成	60
12/14	府中	体験談とワークショップ	240
12/17	蔵前工業	ケニア活動報告	10

<活動例1> (市ヶ谷商業の場合)



海外でのボランティア体験談を聞いた後は、



アクリルたわしを一生懸命作りました！

* 生徒の感想を抜粋 *

★面白かったこと・びっくりしたこと

- ・日本の中古車が海外で活躍していること
- ・風呂の水が冷たいと絶対嫌だと思いました。
- ・トイレを手で拭いていること
- ・普段使われているものがなくても、生きていけることがわかった。

★印象に残っていること、気付いたこと

- ・人は1人では生きていけない・人と人の支えあい
- ・日本では当たり前のことが海外では！
- ・親がいなかったり自ら働かなきゃいけないのに、みんな笑っているストリートチュードレン達

<活動例2> (大島高校の場合)



今日のテーマは「働く」。生徒達も楽しそう！



話の後は、グループ・ワーク☆

* 生徒の感想を抜粋 *

★面白かったこと・びっくりしたこと

- ・外国の話が聞けたこと。50人の妻にはびっくり！
- ・ゲームを通じ、色々な人が働いていることを実感。

★印象に残っていること、気付いたこと

- ・「失敗しまくろう」「大胆に！まず挑戦」
- ・今まで見えなかった物が見えた様な気がします。
- ・牛と一緒に入浴していたという話

<課題点>

* 時間や安全上の制約から、本来やろうと思っていた校外でのボランティア活動がなかなかできず、教室でのプログラムが中心になってしまった。

* 大勢の生徒にきめ細かく対応するには、相応のボランティア数が必要だが、平日なので確保が容易ではない。またボランティアの入れ替わりが激しく、経験の蓄積によるレベルアップを図りにくい。

6-3) 国士舘大学での授業運営

大学と提携して、①ボランティア活動参加、②定期的な授業の企画・運営、③NGO事務局のインターン等、新種の授業を包括的に運営する事業。

02年から国士舘大学・21世紀アジア学部で開澤が受け持つ。6年間で804人が受講、340人が現場参加。

① 国際ボランティア

国際ワークキャンプに参加する授業。春期の場合、4月下旬：体験談。「国際ワークキャンプ」とは？

5月上旬：参加できるプログラムの紹介。質疑応答

5月下旬：参加希望プログラムを決定、申込書提出

6月下旬：参加前のオリエンテーション

6～7月：プレ・ワークキャンプに参加

8～9月：国際ワークキャンプに参加

10月下旬：授業で報告。レポートの提出

＊ 受入側からの評価も聞いた上で、採点。

＊ 秋期は10月下旬に開始、4月下旬に報告。

2007年は夏に**史上最多の13人**が参加(マレーシア、インド、国内11)。単位目当てで意欲不十分のまま参加し、現地や事業に迷惑をかける例もたまに見られるが、事前にプレワークキャンプへの参加等でできる限り準備も行い、概ね平均以上の活躍。

秋期(春休みに参加)は、参加はいなかった。

② ボランティアと社会

各分野の目指す**社会像とボランティア活動を考え**、体験者の話を聞き、最後に**自分達で企画する授業**。

<2007年のスピーカーの例>

- ＊ きらり水源村事務局長 小林和彦氏
- ＊ ベトナムVPV会員 Ms. Candy
- ＊ NICE国際派遣事業部主任 豊永はるか

<2007年に生徒達が企画した活動の例>

- ＊ 障がい児施設でクリスマスケーキ作りと交流
- ＊ 痴漢防止のための駅見回りや街でのパトロール
- ＊ 横浜市の「こどもの国」での椿の森の手入れ

③ NPOマネジメント

NGO・NPOのオフィスを、インターンとして手伝う(マネジメントが学べる場合は、保育園や高校もOK)。1日4時間以上×18日間が基本。

2007年は大蔵保育園(東京都町田市)で4名、NICE(新宿区)で3名、東京高校(大田区)で1名が活動。この他、DEAR=開発教育協会(文京区)及び樹恩ネットワーク(杉並区)でも活動したが、途中で挫折。

6-4) 杉並国際高校での授業運営

杉並総合高校で、国際ボランティアの授業を実施。ゲストによるボランティア体験談、夏休みのボランティア体験、生徒によるボランティアの企画等を行う。

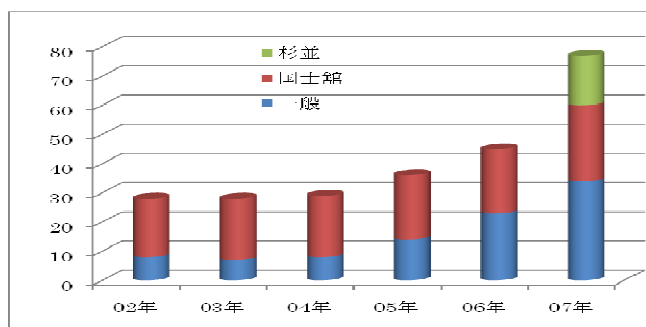
2007年は広報部長の末吉が**17回**担当。体験談にはNICE会員**11名**が協力。**12人の生徒**が受講し、1人はウガンダでの国際ワークキャンプに参加した。

6-5) SSP=姉妹学級事業

P16を参照。

6-6) 講師の派遣

講演会や研修で、国際協力・ボランティア・青少年教育・NGO旗揚げ・環境・福祉等のフレッシュな話をする活動。NICEの広報がメインでなく、要請されたテーマに基づいて話すもの。



	講演回数			講演者		
	一般	国士舘	杉並	一般	国士舘	杉並
05年	14	22	—	4	18	—
06年	23	22	—	7	15	—
07年	34	26	17	10	3	11

＊ 一般=国士舘大学・杉並国際高校を除いた分(都立高校「奉仕」の分も含めず。)

＊ 講演者は一般と国士舘で重複した場合、一般に。

2007年は6-4の杉並国際高校での授業が始まったこともあるが、授業以外の講演も増え、**計77回に急増**(05年は36回、07年は45回)。奉仕も入れれば、96回！ただし、講演者はあまり増えていない。つまり、**同じ話し手が多数講演**していることになる。

国士舘大学で講演者が激減したのは、一般の講演者と重複して数えられなかった人が数名いるのと、学内の受講経験者に話をしてもらうパターンができたため。

＜ 表 E：講師の派遣・07 年の講演リスト ＞

	講演先	開催日	主な内容	聴衆	講師
1	青少年体験活動全国フォーラム	01/19	ワークキャンプの教育的効果	300	塚本竜也
2	若者チャレンジ応援フェスタ	01/21	ワークキャンプ型の若者支援	720	尾崎嘉洋
3	全国ワークキャンプフォーラム	01/27	ワークキャンプの歴史	102	開澤真一郎
4	全国ワークキャンプフォーラム	01/27	若者の自立支援とワークキャンプ	30	塚本
5	東京ボランティアセンター	02/04	エコ・クッキングについて	10	上田英司
6	栃木県若者自立支援ネットワーク	02/09	若者自立塾・栃木の取り組み	120	塚本
7	NPO インターンシッププログラム報告会	02/17	インターンシップの成果	50	末吉和弘
8	徳島県立富岡東高等学校看護科	02/20	国際社会での看護師の役割	100	多田江津子
9	国際交流・協力への道	02/21	海外ボランティアをすること	100	藤沢実果
10	秋田ボランティアセンター	02/21	海外ボランティアの意義	30	末吉
11	全国青少年国際交流研究会	02/22	ネットワーク作り	40	開澤
12	国際里山・田園保全 WH 実行委員会	02/24	環境保全ボランティアの今後	100	塚本
13	秋田ボランティアセンター	03/11	国際ワークキャンプの紹介	20	塚本
14	(財) 国際交流基金	03/15	若者の力を引き出すワークキャンプ	20	塚本
15	神奈川大学	05/09	海外プロジェクト企画・運営	50	尾崎
16	狛江社会福祉協議会	05/23	国際理解ワークショップ	30	上田・沖野道子
17	ヤングジョブスクエアよこはま	05/24	職業人フォーラムで、NPO での仕事	10	尾崎
18	ヤングジョブスクエアよこはま	06/14	職業人フォーラムで、NPO での仕事	10	尾崎
19	台湾・台北市の Youth Hub	06/15	世界中の国際ボランティアとその魅力	120	開澤
20	G8 サミット NGO フォーラム	06/30	ドイツサミット現地報告	180	開澤
21	国学院大学公開フォーラム	07/07	現場と世界につながる環境総合教育	105	末吉
22	全国ワークキャンプフォーラム	07/07-08	リーダートレーニング	70	上田
23	ヤングジョブスクエアよこはま	08/08	職業人フォーラムで、NPO での仕事	10	尾崎
24	立川若者サポートステーション	08/10	職業人フォーラムで、NPO での仕事	10	尾崎
25	全国ワークキャンプフォーラム	10/07-08	ボランティアと事後活動	50	上田
26	外国語コミュニケーションセミナー	10/27	海外ボランティアと英語学習のあり方	70	吉井久乃
27	日本ボランティア学習協会	10/27	NPO による多彩なコーディネート	20	塚本
28	ソフトバンク	10/30	NPO と社員ボランティア	40	上田
29	麻生高校	11/01	職業人フォーラムで、NPO での仕事	150	尾崎
30	法政大学	11/15	ボランティアとコミュニティデザイン	250	尾崎
31	和泉高校	11/22	職業人フォーラムで、NPO での仕事	30	尾崎
32	西東京市環境保全課	11/28	環境リーダー養成講座	20	塚本
33	須坂市社会福祉協議会	12/08	世界のボランティアの話	20	藤沢・佐藤智樹
34	調布第五中学校	12/14	国際理解ワークショップ	240	上田・沖野

＋講演数上位（奉仕・国士館・杉並含む）：①開澤 30 回、②末吉 20 回、③穴竈 19 回、④尾崎 9 回、⑤塚本 8 回。

6-7) 緑の里親プロジェクト

森林保護アクション「**グリーンング・アジア**」の主要事業の 1 つ。山で集めた原生種の種を、家庭・職場・学校等が **2 年間育て、元の山に植え戻す**。また種が育った分だけ、**基金がアジアの森作りを支援**。**99 年**に始めて以来、1500 人以上が種を育て、神奈川の丹沢で 4 ヶ所の森を創り、2 ヶ国の植林を支援。

＜2007 年の活動概要＞

この活動は実行態勢を整え直している段階なので、里親の新規募集や基金集めは行わなかった。

また神奈川県丹沢山地での「グリーンング・アジアの森」も安定期に入り、下草刈りも不要になった。

「緑の里親基金」では、**モンゴル・Buhug の植林ワークキャンプ**(4/23～5/6)に、5 回目の支援を行った。数百本の苗木をボランティア達が植え、**丁寧に育林中**(夏の国際ワークキャンプでは水やり班を組織)。

6-8) アクリルたわしの推進

P45 を参照。

6-9) ノートブックアクション

P45 を参照。

6-10) 農林家住み込み隊

1 週間～1 年間、農林家に住みながら働く事業。市場経済や政府保護だけでは厳しい、農林業を応援。受入側は宿泊・食事と小遣いを提供。有機農業や山村や離島、過疎地のバイトを雇えない所に限定。グループと個人で行う場合がある。95 年から鹿児島県の沖永良部島で 20 回開催し、約 200 人が参加。

<2007 年の活動概要>

鹿児島県和泊町（沖永良部島）で今年も 2 回開催。（P13 の表参照）。計 14 名が参加（うち韓国人 2 名）。毎年受入側・ボランティア双方に好評だが、この事業に専念するスタッフがいらないため、なかなか他地域での展開につながらないのが、課題。

それでも耕作放棄地が全耕作地の 15%に達し（埼玉県の面積に相当）、食糧自給率が 40%前後で低迷する中、ボランティアの果たす潜在的な役割も大きいと、これもまた今後、力を入れていきたい活動である。



(3 月 21 日付の大島新聞より)

6-11) 難民支援アクション

主に日本における、難民（認定申請者含む）の状況を改善する活動。①入国管理所で収容者との面会、②勉強会の開催、③イベント開催展開中。実践と啓発の両方を進める。03 年に 2 月に関西で始まり、同年 11 月に関東でもチーム結成。

<2007 年の活動概要>

関西では下火になったが、関東では以下を行った。
06/24: 難民フットサル大会に協力。
10/27: NICE 秋合宿でフランス・タイの NGO 職員と難民に関する情報の交換や提携を話し合い。
11/10: 難民ダンス交流会をサポート。

6-12) 児童虐待対策アクション

児童虐待の状況を改善する活動。①予防：親子ワークキャンプの企画、②予防：駅前や公園での啓発活動、③事後：養護施設での交流・手伝い、④事後：里親会との交流・手伝い、⑤勉強会等を展開中。
04 年 4 月に関東で、同年 10 月に関西でも開始。



<2007 年の活動概要>

活発に盛り上がった！

- ① 親子ワークキャンプ：8/18-19 に神奈川県で実施。
- ② 神奈川の鎌倉児童ホームで 13 回、大阪の遙学園で 12 回の週末ワークキャンプを実施、子どもを応援。
- ③ 県央里親会との週末ワークキャンプを 3 回。
- ④ 勉強会：NGO・CMPN の専門家にはらして頂き、8/17 に国際勉強会で講演頂いた。政策提言も相談した。
- ⑤ 第 4 回・特別国際ワークキャンプを 8 月に開催。
- ⑥ しゃべり場（定例会）も平均 10 名程参加。

6-13) 情報誌などの制作・出版

「NICE プレス」(P56-57 でも紹介) は隔月で 1500 人前後に、「世界のワークキャンプ」は年 1 回 (4 月)、3000 部を発行した。

会員や海外申込者だけでなく、様々な NPO や行政機関等に他に無い様々なボランティア情報を、面白い読み物・貴重な資料として提供している。

第7章 組織運営

今までの事業・活動の準備・実行・フォローアップを支えた組織運営は今年はどうだったのか？

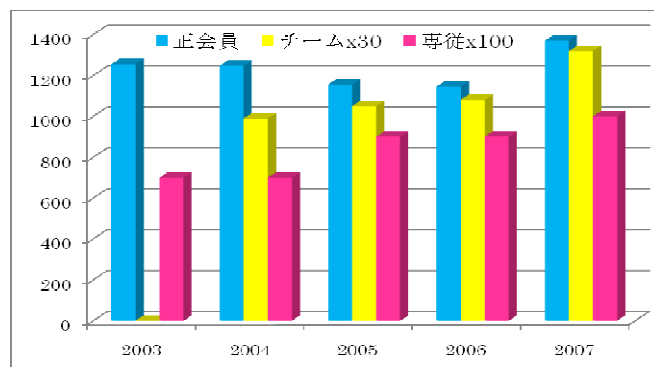
この章では以下の順で、運営面を振り返る。

- 1) 会員と総会・合宿・会報
- 2) 活動チームと地方事務局
- 3) 理事会と評議会
- 4) 事務局と職員
- 5) 広報
- 6) 財政

NICE はメンバーのパワーで支えられている NGO だが、今年も会員・チーム・理事・職員がそれぞれの持ち場で活発に活動した！



(職員・上田の誕生日会より。右の猫は元オフィス猫・ぎょんこ 1 歳半)



	正	協力	団体	チーム	専従
2003	1255	-	-	-	7
2004	1248	-	-	33	7
2005	1155	-	4	35	9
2006	1146	5312	4	36	9
2007	1371	6881	5	44	10

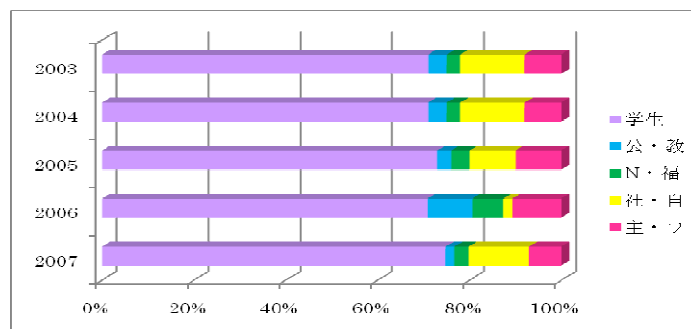
* 正＝正会員／協力＝協会員／団体＝団体会員
チーム＝登録チーム数。専従＝専従職員数

* いずれも 4 月現在（2007 年だけ、調査ができなかったため、翌年 3 月の数字）

7-1) 会員と総会・合宿・会報

① 正会員

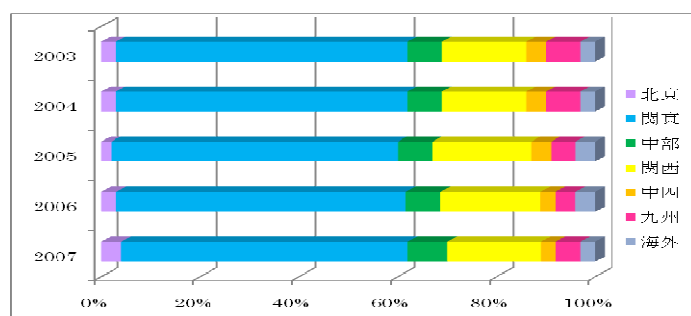
ここ数年 1200 人前後だったが、今年はかなり増えた。事業の参加者数が史上最多になったからに他ならない。学生、関東在住者が相変わらず、大部分を占める。



	女性	学生	公・教	N・福	社・自	主・フ
2003	78%	71%	4%	3%	14%	8%
2004	78%	71%	4%	3%	14%	8%
2005	74%	73%	3%	4%	10%	10%
2006	76%	73%	10%	7%	2%	11%
2007	76%	74%	2%	3%	13%	7%

公・教＝公務員・教師 N・福＝NGO・福祉・医療
社・自＝会社員・自営業 主・フ＝主婦・フリー

* 公務員・教師や NGO・福祉・医療が 06 年は異様に多く、会社員・自営業が極端に少ないのは、06 年だけが違った分類法をおしていたせいかな？



	北東	関東	中部	関西	中四	九州	海外
2003	3%	59%	7%	17%	4%	7%	3%
2004	3%	59%	7%	17%	4%	7%	3%
2005	2%	58%	7%	20%	4%	5%	4%
2006	3%	58%	7%	20%	3%	4%	4%
2007	4%	58%	8%	19%	3%	5%	3%

北東＝北海道・東北 中四＝中国・四国

② 協力会員

個人の6,881人は全員、**会員経験者**（メールマガジンを不定期で送る）。社会で様々な経験を積み重ねている彼らとのつながりを再生し、活用することがNICE・ワークキャンプ活動が更なる発展のために重要である。

団体会員は以下の5つ。まだ積極的に広報・募集していないため少ないが、今後はもっと企業・NPO・行政機関等へ働きかけて増やしていきたい。

- ☆**Euphoria**：慶應大学・医療系大学生のサークル。
インドネシアのグループ・ワークキャンプを共催。
- ☆**愛知大学経営学部 小野ゼミ**：06年に京都、07年に岐阜で、ゼミ合宿としてワークキャンプを開催。
- ☆**ラブどれん**：獨協大生中心の子ども活動サークル。
04年から3ヶ国でグループ・ワークキャンプ。
- ☆**KURE**：金沢大学・医療系大学生のサークル。
インドネシアのグループ・ワークキャンプを共催。
- ☆**Ruff**：愛知県立大生の国際ボランティアサークル。
インドネシアでグループ・ワークキャンプを実施。

③ 年度総会

以下の内容で行われた。

- ★**日時**：2007年12月15日（土）～16日（日）
- ★**場所**：神奈川県横浜市 あーすぷらざ（16日）
 - * 15日夜は、横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センターに宿泊。
- ★**参加者**：52名（うち正会員50名。関連会議を含めると、計71名で、正会員60名）
- ★**議題**：
 - ①代表スピーチ「2007～08年の世界とNICE」
 - ②事務局長スピーチ「2007～08年の日本とNICE」
 - ③理事パネル討論「小学校への英語教育の是非」
 - ④各事業の成果・課題・戦略
 - ⑤環境・福祉等、分野別のビジョン作り
 - ⑥組織運営（広報、地方組織、外交等）
 - ⑦会員アンケートによる優先課題4つ（広報力強化、地方テコ入れ、事業の質向上、新事業の創造）
 - ⑧予算承認・理事のビジョン発表
 - * 15日夜はクリスマス・パーティーで、プレゼント交換や2007年振り返りクイズを楽しんだ。

* また3/24-25には東京都新宿で臨時総会を開催し、主に年間の活動報告や決算を承認した。



④ 季節合宿

NICEでは毎年、以下の目的を幾つかを狙って、春・秋に各地方で合宿を行っている。

- 1) 会員・参加者同士の交流を深める。
- 2) 事業に参加した会員を活動の運営にも呼び込む。
- 3) 非会員も活動に巻き込み、入会も促進する。
- 4) 新しい活動のフィールドを開拓する。
- 5) 既存のフィールドとの絆を深める。

2007年は、以下の季節合宿を開催した。

- 春・関東：05/12-13 神奈川県横浜市 14名参加
- 春・関西：05/19-20 京都府和束町 21名参加
- 春・四国：05/19-20 愛媛県松山市 7名参加
- 秋・関東：10/27-28 東京都渋谷区等 116名参加
- 秋・関西：10/13-14 京都府和束町 32名参加
- 秋・中部：10/26-28 愛知県名古屋市 14名参加

<中部での秋合宿より>



全員で集合してミーティングした後は・・・



グループに分かれて、夜更けまで展示を準備



翌日はワールド・コラボ・フェスタに出典！

⑤ 会報「NICE プレス」

90年の創設以来、会員同士をつなぐ情報共有・発信の場として大きな役割を果たしてきた、NICE プレス。また活気溢れる活動レポート、特集、投稿等は会員以外にも好評で、楽しみにしている人も少なくない。

2007年は1・3・4・5・7・9・11月の計7回、平均約1,500部を発行し、会員や共催・協力団体、資料請求者等に送付した（それ以外の月はメールで発行）。

特集ページは、特別チームが以下のテーマで作った。

1月号：六ヶ所村と核燃 7月号：日本・世界の祭り
3月号：教育の今 9月号：企業の良心!?CSR(前)
5月号：ジェンダー 11月号：企業の良心!?CSR(後)

この他、以下の連載記事が掲載された。

- ★世界のワークキャンプは今（開澤真一郎）：国際ボランティア界の動向や担い手へのインタビュー紹介
- ★AFRICAN（NICE アフリカチーム）：ケニア、ガーナ、ジンバブエ、タンザニア等の文化や社会の報告
- ★平成の寅さんのその後（小林和彦）：熊本県で廃校を活用する NPO の事務局長が現地レポート
- ★砂漠が輝いているのは（芝美穂）：シリアで海外青年協力隊赴任している会員からの現地レポート
- ★青年海外協力隊便り from エクアドル（長田顕泰）：現地で活動する会員からのレポート

7-2) 活動チームと地方グループ

① 活動登録チーム

NICE では、2004 年から活動チームの登録制度を取っており、理事会が登録申請の可否を審査している。

登録チームは年々増え（P55 参照）、2007 年は 8 増の 44 チームに（新規登録 12・解散 4）。

<登録チームの義務>

- *年 1 回の活動報告・計画の提出
- *年 1~2 回のチームリーダー合宿への参加

<登録チームの権利>

- *会報「NICE プレス」等での活動紹介や参加者募集
- *年 1~2 回のチームリーダー合宿への交通費補助
- *日常での事務局・理事等と相談・サポート
- *チームリーダー・メーリングリストへの加入

<2007 年の登録チーム>

- * 灰網の 9 チームは、活動が実質停止中。

1) 海外チーム（その地域で活動した経験者達で、フェスタ等での広報、これから行く人へのオリエンテーションや参加後の報告会の企画・運営等を行う。）

- ①アフリカ（リーダー：石岡享子）
- ②モンゴル（山田真奈）
- ③インドネシア（小山田万里子）
- ④Latino=中南米（羽鳥祐子）
- ⑤南アジア（植原祐介）
- ⑥韓国（蔀佳恵）

2) 週末チーム（各開催地に分かれて、週末ワークキャンプを企画・運営する。）

- ①大沼（小杉れい）：北海道七飯町
- ②つくば（中野美緒、他複数）：茨城県つくば市

- ③小山（林裕、他複数）：東京都東久留米市
- ④渋谷（南野隆）：東京都渋谷区
- ⑤富田林（岸田はたろ→柴田景子）：大阪府富田林市
- ⑥和束（植田修→後藤なつき）：京都府和束町
- ⑦波見（花谷慶子）：京都府宮津市
- ⑧庄原（是国裕光）：広島県庄原市
- ⑨緒方（中山愛）：大分県緒方町
- ⑩八郷（鈴木沙織→久野祐）：茨城県八郷町
- ⑪朽木（渡邊由美→河崎甲志郎）：滋賀県高島市
- ⑫田原（佐野あゆみ→中山妙子・内藤千愛）
：愛知県田原市

3) 他の事業企画・運営チーム

- ①アジボネ（穴竈美和）：NVDA（アジアの NGO ネットワーク）を活かした様々なアクションを展開。
- ②緑の里親（塚本竜也）
- ③総合学習（早川壮一郎）
- ④関東難民（山田真喜子）：難民支援や難民問題の勉強会、啓発アクション等を展開
- ⑤関西難民（宮坂歩未）
- ⑥はっぴーきつず（鈴木千恵→林芙美子）：児童虐待対策で神奈川県の子育て施設や里親会等と活動。
- ⑦はぴちる（中山章広）：児童虐待対策で大阪府の子育て施設や里親会等と活動。
- ⑧SSP（山田啓貴）：日本とバングラデシュの小学校をつなぐための授業訪問等。
- ⑨スマイル本（松川希実）
- ⑩移動映画館（平野賢史）

4) 組織運営チーム

- ①ホームページ編集（末吉和弘）
- ②会報=NICE プレスの特集編集（末吉和弘）
- ③社会人活動推進（田崎裕児）

5) 大学ナイス（その大学に所属するメンバー達で、説明会や報告会の開催等を行う。）

- ①上智大学（林芙美子）
- ②創価大学（村尾華美）
- ③早稲田大学（小野正晴）
- ④中央大学（稲葉千香子）
- ⑤東洋大学（小堀弘泰）
- ⑥独協大学（吉岡浩一）
- ⑦なもないず（川端元維）：同志社+同志社女子
- ⑧たまナイス（小川祥吾）：多摩地区連合

6) ローカル・ナイス（地方ごとに説明会・報告会・合宿等の開催、週末ワークキャンプの企画等）

- ①北海道（空屋龍樹）
- ②中部（田中義治）
- ③中国（菱亮一）
- ④四国（中山和子）
- ⑤九州（河津舞）

② 県プロデューサー

NICE では2007年12月から各県でワークキャンプ活動を推進する「県プロデューサー」を新設した。

2008年からの第一期の顔ぶれは以下の12人。

北海道：田中甫幸、福島：松崎桜子、茨城：瀬口祐樹
群馬：小堀弘泰、新潟：本間貴子、長野：佐藤智樹
愛知：矢野淑恵、山口：高本佳奈、高知：益山愛
福岡：河津舞、熊本：鬼塚朋美、鹿児島：平野陽子

年度総会に先立って12/14（金）～15（土）に神奈川県横浜市の三ツ沢公園青少年野外活動センターで、合宿を行った（以下はその時の写真）。



③ 他のアクティヴ・メンバー

<国際ワークキャンプのリーダー（62人・72回）>

阪口晴美・林文子・阪口晴美・氏原由実・小野友貴奈・小池智子・青木早織（マレーシア）、本間美由希・飯田彩恵子（インドネシア）、門田瑠衣子・東平翔太（ケニア）、服部薫・一宮暢彦（ウガンダ）、山田真奈・石井まり恵・檜垣未央（モンゴル）、川端元維（宮崎県綾町）、小此木宏明2（鹿児島県和泊町）、奥山亜希（熊本県水俣市）、丹波真以子（宮城県栗原市）、河津舞（福岡県杷木町、同北九州市）、岡田健一（三重県名張市）、伊東さなえ（東京都渋谷区）、原晶子（青森県鯉ヶ沢町、大分県日田市）、羽鳥祐子（岐阜県白川村、青森県鯉ヶ沢町、香川県綾川町）、沖野道子（モンゴル、タイ）、黒澤松美・根岸あゆ美（長野県小谷村）、菱亮一（大分県日田市）、根本香菜子（東京都日の出町）、滝澤容子（岐阜県高山市）、高藤麗子（島根県雲南市）、開澤真一郎（台湾、モンゴル）、Eric Wang（佐賀県佐賀市）、檜垣未央（大阪府富田林市&太子町）、草間純一（長崎県雲仙市）、松崎桜子（福島県塙町）、池田晶（大分県日田市）、岩崎歩美（熊本県阿蘇市）、佐野あゆみ（マレーシア、愛知県田原市）、中村元哉（東京都大田区、イギリス）、中山愛（大分県豊後大野市）、小野正晴（新潟県佐渡市）、福山貴久（福岡県星野村）、林芙美子（神奈川県鎌倉市）、渡邊由美（島根県江津市）、赤塚大輔（鹿児島県川辺町）、小野友梨香（長野県塩尻市）、後藤なつき（京都府和束町）、穴竈美和（インドネシア、フランス）、梅本行宏（バングラデシュ）、川原井絢子（インド）、安川香（三重県名張市）、小杉れい（北海道七飯町）、空屋龍樹（北海道新得町）、吉井ひさの（フィリピン）、亀井賢司（新潟県南魚沼市）、塩田哲平（熊本県氷川町）、岡田健一（島根県大田市）、米澤悠・菱亮一（青森県鯉ヶ沢町）、永木顕大（静岡県芝川町）

<国際ワークキャンプの運営委員（11人）>

岡本尚子、田口知恵、馬本友幸、佐野憲一朗、永木顕大、徳住佳子、外園淳一、上田英司、開澤真一郎、沖野道子、吉井久乃

<週末ワークキャンプのリーダー（48人・137回）>

穴竈美和（東京都渋谷区3、同日の出町、同大田区3、神奈川県鎌倉市、同横浜市、岐阜県岐阜市2、長野県小谷村）、開澤真一郎（愛知県田原市、東京都大田区）、佐野あゆみ・中山妙子8・内藤千愛（愛知県田原市）、山浦和徳（長野県上田市）、尾崎嘉洋（北海道七飯町、熊本県菊池市、長野県塩尻市）、沖野道子（福岡県大牟田市、茨城県つくば市、東京都大田区、同日の出町2、大阪府富田林市、神奈川県鎌倉市）、中山愛（大分県豊後大野市）、上田英司（神奈川県鎌倉市、東京都日の出町2）、吉井久乃（京都府和束町、大阪府富田林市、愛媛県伊形町）、渡邊由美4・河崎甲志郎4（滋賀県高島市）、豊永はるか（静岡県御殿場市）、林裕4・平野賢史6・佐藤麻紀（東京都東久留米市）、佐藤智樹（長野県塩尻市）、初田裕美・南野崇2（東京都渋谷区）、原佑里子（長野県清内路村）、井口真悟（東京都日の出町）、滝澤容子3（岐阜県高山市）、和田薫・櫻井貴之・星野慧・櫻井貴之（茨城県つくば市）、末吉和弘2（東京都大田区、同奥多摩町）、中村元哉（東京都大田区）、塚本竜也（栃木県市貝町、福島県鮫川村）、岸田ほたる2・柴田景子6（大阪府富田林市）、佐野憲一朗・安川香（三重県名張市）、永木顕大（神奈川県厚木市、同相模原市）、鈴木千恵（神奈川県厚木市、同鎌倉市4）、林芙美子9（神奈川県鎌倉市）、中山章広12（大阪府島本町）、福田正浩3・西村十吾（静岡県浜松市）、水口豪（島根県出雲市）、伊東さなえ（埼玉県ふじみ野市）、佐山ますみ（山形県最上町）、亀井健司（新潟県南魚沼市）、鈴木沙織・久野祐（茨城県石岡市）、石岡享子2（青森県六ヶ所村）、植田修2・後藤なつき2（京都府和束町）

<中期ワークキャンプのリーダー（5人・6回）>

徳住佳子（タイ及び北海道七飯町）、尾崎アメリア（タイ）、大沼秀樹（ケニア）、小川祥吾（インド）、塩野信彦（ネパール）

<中長期ボランティアの運営委員（17人）>

池田文清、井口育紀、吉川絵梨、小此木宏明、中居綾子、青山奈未、岡崎亜紗美、小川祥吾、桐畑博樹、山口靖枝、樋口昌生、森脇佳世、徳住佳子、仁平有紀、飯田真紀子、尾崎嘉洋、塚本竜也

①（停止中チーム除く）の44人、②の12人、③の143人、7-3の理事15人、7-4の事務局員の25人を合わせると計239人（重複を除くと200名前後。各チームの活動メンバーも合わせればその数倍）のアクティヴ・メンバーが担い手として活躍した。

7-3) 理事会と評議会

① 理事会

NICE では理事会を 1992 年に設け（97 年までは「代表者会議」。2002 年以降は特定非営利活動法人として）、**重要事項の決定や長期計画づくり**を行っている。

2007 年は以下の **6 回**、理事会を開催した。

日にち	場所	主な議題
1/20	東京都新宿区 NICE 事務局	☆活動の年間日程の決定 ☆財政法の改訂
3/24～ 3/25	東京都新宿区 NICE 事務局	☆06 年決算・活動報告の承認 ☆07 年予算・活動計画の修正
5/27	東京都新宿区 NICE 事務局	☆分野別ビジョンの作成 ☆参加者増加作戦の作成
7/15～ 7/16	東京都渋谷区 オリンピックセンター	☆チームリーダーとの対話 ☆中間決算。評議会の計画
9/30	東京都新宿区 NICE 事務局	☆秋合宿とフェスタの企画 ☆チーム活動支援金の審査
12/1～ 12/2	東京都新宿区 NICE 事務局	☆07 年の総括・08 年の計画 ☆年度総会の企画・準備

* また、毎回活動の 2 ヶ月報告・作戦や作業部会を行い、チーム登録審査もの申請があれば行っている。

2007 年の理事は、以下の **15 名**。継続の 10 名（以下の「続」）に加え、4 月に新任 3 名・復活 2 名が加わった。一方で 3 月に 5 名が退任したため、人数は不動。

氏名		就任	役職	職業
開澤真一郎	続	92 年	代表	NICE 専従職員
塚本竜也	続	97 年	事務局長	NICE 専従職員
林広美	続	95 年	副代表	会社員
初田裕美	続	99 年	副代表	主婦
穴竈美和	続	06 年	理事	NICE 専従職員
上田英司	再	03 年	理事	NICE 専従職員
馬本友幸	続	06 年	理事	会社員
尾崎嘉洋	再	01 年	理事	NICE 専従職員
小野友貴奈	新	07 年	理事	大学生
朽木恵子	新	07 年	理事	大学院生
小林直子	続	02 年	理事	フリーランス
末吉和弘	続	01 年	理事	NICE 専従職員
田中淳子	続	06 年	理事	会社員
矢野淑恵	新	07 年	理事	大学生
吉井久乃	続	05 年	理事	NICE 専従職員
池田文清	退	05 年	理事	会社員
井上由利子	退	05 年	理事	主婦
藤沢実果	退	05 年	理事	NICE 専従職員
吉永加那	退	05 年	理事	栄養士
吉本紀子	退	02 年	理事	会社員

新＝4 月から新任。再＝4 月から復活。退＝3 月で退任

「やる人が決める」ポリシーのもと、専従職員の希望者が理事も務められるのが特徴だが、「理事全体の半数以下」というルールを設け、バランスを図っている。

監事は、特定非営利活動法人 きらり水源村・事務局長の小林和彦氏に務めていただいている。

② 評議会

NICE は若者達が手作りで運営している部分が多く、理事会も活動経験や機動力を重視した顔ぶれになっているが、それだけでは組織として不十分な面もある。

より**客観的で幅広い視野と深い経験、専門的な知識**を持つ方々のご意見や更なるご協力を頂くために、2007 年 2 月に評議会を創設し、2 回開催した。

日にち	場所	主な議題
2/12 (月)	東京都新宿区 NICE 事務局	☆活動報告と質疑応答 ☆社会状況と NICE の役割
9/28 (金)	東京都新宿区 四谷地域センター	☆NICE なビジョンにご意見 ☆活動報告と質疑応答

9/28 は終了後に交流会も開催し、ざっくばらんな雰囲気、NICE どうこうを超えた社会に対するお考えや相互の協力等についても話が弾んだ。

各界のエキスパートの方々にお集り頂いているため、色々な角度からのご指摘・ご提案を頂いて、非常に参考になっている。また、普段からのご協力も以前よりも頂けるようになった例も出ている。例えば、

☆ 勤務される大学での、NICE 説明会の開催

☆ 経理の専門知識による各種アドバイス

評議員は共催・協力団体や過去会員から以下の **17 名**。

(敬称略)	ご職業
有岡大介	佐賀テレビ ディレクター
池田誠	財) 北海道国際交流センター 事務局長
金刺潤平	水俣浮浪雲工房 主宰
北見靖直	国立中央青年の家 職員
工藤啓	特活) 「育て上げ」ネット 理事長
興柊寛	ボランティア社会学 研究者
高橋陽子	社) 日本フィランソロピー協会 理事長
滝沢浄	東京都社会福祉協議会 職員
中村伸一	株) エクスプローラ 代表取締役・隊長
古沢広祐	國學院大學経済学部 教授
堀添勝身	DAY 理事長
宮城治男	特活) ETIC 代表
宮嶋望	農組) 共働学舎新得農場 代表
八木亜紀子	東京ボランティア市民活動センター 専門員
八木雄二	大学講師
山下邦明	九州大学大学院言語文化研究室 教授
横山明子	会社員 (税理士)

7-4) 事務局と職員



(専従＋ボランティア職員の忘年会より)

① 全国事務局と関西オフィス

全国事務局は今年も、東京都新宿区のエレメンツ新宿 401 号室。職員が日々の業務を行い、会員がミーティング等のために出入りし、大勢の来客も訪れた。

会員やそのご家族、協力団体の方々等からも、沢山の差し入れを頂き、職員達の大きな励みとなった。中でも、茨城の松澤さんからはメロン約 50 個（3 回に分けて）を始めとする、野菜・果物を大量に頂いた。

関西オフィスはより良い交通アクセスを求めて、8 月に大阪市港区の「Pia NPO」から、同福島区の「大阪 NPO プラザ（ONP）」に移った。

② 専従（常勤有給）職員

2007 年は以下の **10 名**（3 月末に入れ替わりがあったため、常に **9 名** 体制）が、フルタイムで働いた。

氏名	開始	役職
開澤真一郎	92 年	代表
塚本竜也	00 年	事務局長
上田英司	02 年	国際主催事業部長
末吉和弘	02 年	広報部長
吉井久乃	04 年	関西事務局長
藤沢実果	04 年	国際派遣事業部長（～3 月）
尾崎嘉洋	05 年	中長期事業部長
沖野道子	05 年	週末事業部長
穴竈美和	05 年	グループ・ワークキャンプ事業部長
豊永はるか	07 年	国際派遣部主任（4 月～）

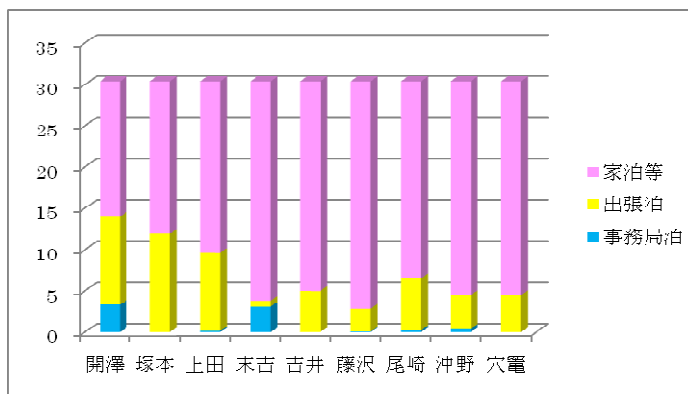
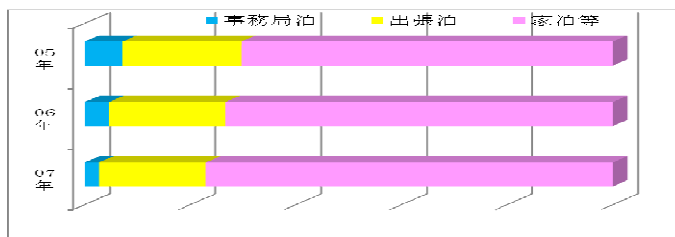
全員が物凄い情熱を注ぎながら働いた。「バディ制」の導入により、業務サポートや情報共有も改善した。

左表をご覧の通り、**休日**はまだ多いとは言えないが、過去 2 年間よりも**若干増え**（03 年は月 3.0 日）、**事務局泊はかなり減少**（03 年は月 6.3 日）、出張泊も微減。

また個人差が大きく、休日は 1.8～7.3、事務局泊は 0.0～3.3、出張泊も 2.8～11.9 までバラつきがある。

<全専従職員平均の勤務状況（月あたりの日数）>

	休日	事務局泊	出張泊	家泊等
05 年	4.3	2.2	6.8	21.4
06 年	4.2	1.4	6.7	22.3
07 年	4.9	0.8	6.2	23.4



* 休日：定義が難しいが、独自基準で申告・集計。

* 藤沢：4 月以降は豊永の分を計上。

③ 非専従有給職員

2007 年は、**2 名**が活躍した。

根本香菜子は 4～8 月に週 2 日のアルバイトで、国際派遣事業部を補佐した。また林広美は 1～3 月に計 20 日間に渡って、決算業務を行った。

④ 非専従ボランティア職員

NICE では定期的に（週 1～3 日）、数ヶ月間（1 年間を超える場合も）に渡って、事務局で日常業務を補佐しながら、自分の担当部分も持って担う、「事務局ボランティアスタッフ」が常時数名、活動している。

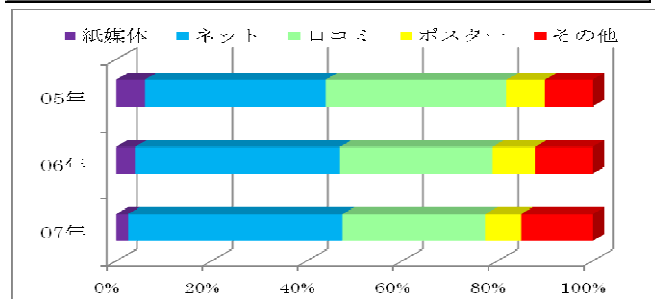
2007 年は、以下の **13 名**が活躍した。

新福莊一（国際主催事業を補佐）
 浅井義仁・根本香菜子・アメリカ・林芙美子
 （国際派遣業務を補佐）
 飯田真紀子（中長期事業を補佐）
 清水奈津実（グループ・ワークキャンプ事業を補佐）
 根岸あゆ美・仲間明日香・吉井由香・小股裕美・
 木内春菜（広報業務を補佐）
 熊木勝平（補助金情報の収集・編集を担当）

7-5) 広報

① NICE の知り方 (ボランティア参加者)

	紙媒体	ネット	口コミ	貼り紙	その他
05 年	6%	38%	38%	8%	10%
06 年	4%	43%	32%	9%	12%
07 年	3%	45%	30%	8%	15%



＊紙媒体：新聞・雑誌・本

ネット：ホームページ・メルマガ・SNS

口コミ：知人・友人からの紹介

貼り紙：(大学や NPO センターでの) ポスター

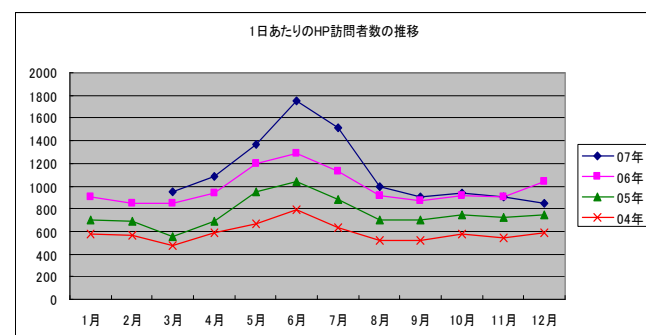
その他：他団体からの紹介、説明会、イベント等

上記のように、ネットを通じて知る割合が年々増えているが、口コミも依然根強い。

② ホームページ

2 月に本格的にリニューアルし、レイアウトを大幅に改善した(ただし、まだ改善の余地は色々ある)。その効果もあってか、訪問者は **410,566 人** (1 日あたり 1,125 人) で、**前年比 14%アップ**した。

グーグルでの「国際ボランティア」検索でも 1 位をキープするが、まだ他語での順位は十分に高くない。



③ メールマガジンと SNS

メールマガジンには約 **6,400 人** が加入し、隔週で活動のニュース等を配信した。

国内最大の SNS (ソーシャル・ネットワーク・サービス)・Mixi の NICE コミュニティにも、ホームページからのリンクの効果もあり、**2,470 名** が加入している。

③ メディアでの記事掲載

活動紹介や募集記事の掲載をして頂いた媒体は非常に多く、集計も難しい。以下はその一部 (順不同)。

★テレビ：わがとこテレビ、日本テレビ 2 回

★ラジオ：J-WAVE LOHAS SUNDAY、FM とおかまち、FM ゆきぐに

★雑誌：アイソス、国際開発ジャーナル 2 回、をちこち 2 回、国際協力ガイド 2 回

★新聞：北鹿新聞、おおだて新報、函館新聞、北海道新聞 5 回、秋田さきがけ、大島新聞、島根日日新聞 3 回、福島民友新聞社、下野新聞、中国新聞

★広報誌：青少年、若者の人間力を高めるための国民運動広報誌、キミのチカラ・未来のチカラ

★会報誌：富田林の自然を守る会、月刊とちぎ V ネットボランティア情報 2 回、中央大学父母連絡会

★教科書：帝国書院

★サイト：東京都生涯学習情報、Yahoo! ボランティア、タウンプラザしまね、良品計画

④ 説明会

事務局主催 (主に東京・大阪) では **34 回** 行い、**570 人** が参加 (平均 16.8 人) し、前年よりも 28% 増加。

また「大学 NICE」も自主的に開催し、**14 大学で 18 回開催、235 人が参加**した (北海道、埼玉、獨協、東洋、ICU、創価、早稲田、中央、横浜国立、愛知県立、名古屋・南山、長崎、九州、西南学院)。

更には「県 NICE」が中心になって、**6 県 7 市で 12 回開催、102 人が参加**した (札幌、八王子、世田谷、横浜、名古屋、鹿児島、福岡)。

以上を合わせると、**64 回開催、907 人が参加**した。

⑤ 各団体との提携

★大学：国士舘大学 (P52 参照) に加えて、**名古屋商科大学**の「ギャップイヤー」に参加する学生にワークキャンプを紹介 (17 名が参加)。**独協大学** (国際親善倶楽部)・**明治学院大学** (ボランティアセンター)・**名古屋外国語大学**で説明会を共同で開催した。他にもボランティアセンターでのプログラム紹介や生協書店での資料販売等を通じて、多くの大学に協力頂いた。

★NPO・ボランティアセンターや国際交流協会：情報本「世界のワークキャンプ」の紹介、ポスターの展示等、様々な形で協力を頂いている。

★大使館：10 月に**フランス大使館**を (来日中のフランス提携団体の事務局長と共に) 訪問し、広報面での協力を開始することになった。

⑤ イベントの企画や出典

時期	開催地	イベント名	来場
01/21	東京都	若者チャレンジ応援フェスタ	300
02/03-04	大阪府	ワンワールドフェス	2000
03/17	東京都	旅のしずく	40
04/21-22	東京都	アースデイ	1500
04/28	東京都	エコ情報交流会	20
05/12-20	東京都	ロハスデザイン大賞	30
05/19-20	東京都	アフリカンフェスタ	800
06/23-24	青森県	アースディ六ヶ所	200
07/27-29	新潟県	フジロックフェスティバル	900
10/06-07	東京都	グローバルフェスタ	2000
10/27-28	愛知県	ワールド・コラボ・フェスタ	300
10/27-28	東京都	アースガーデン	300
10/28	東京都	地球ボランティア・フェスタ	110
11/04	東京都	パレスチナのしずく	30
11/10	東京都	No Border Cafe	30
11/23	東京都	若者自立支援フォーラム	400

* 来場：NICE のブースに立ち寄った人数（概算）

2007 年は上記の **16 イベント**で、活動の広報を主な目的として出典した。このうち、「地球ボランティア・フェスタ」は独自で主催、「旅のしずく」「パレスチナのしずく」も会場との共催で行った。



アースデーより。
あれ何だろ、と
興味しんしんの
方に声をかけて



世界中の国際ワ
ークキャンプの
写真や体験談を
ご紹介☆



ボランティア同
士の打ち上げも
楽しみ！アフリ
カ太鼓も活躍♪

特集：地球ボランティア・フェスタ

日時	10/28（日）13:30～16:30
場所	東京都渋谷区の J A M 金属労働会館
目的	①国際ワークキャンプへの 社会認知 を向上。 ② 参加したい人 への貴重な生の情報を提供。 ③各国の NGO を応援し、 異文化交流 も推進。
参加者	110 名（一般来場者 70 名。8 ヶ国の NGO リーダーや NICE 会員 40 名）。 助成：三菱銀行国際財団。アジア欧州財団
内容	① 地球ボランティア旅行 （NGO リーダー達がスライド等を使いながら、以下の事業を紹介） * 難民・移民の支援（フランス） * 教育のサポート（インドネシア） * 環境保護（イギリス） * 不利な子どもの支援（ベトナム） * 身近にできる活動（日本） ② 地球丸かじりカフェ （上記の 5 ヶ国を含む 12 ヶ国のブースを設け、各国の茶・菓子を味わいながら、体験者や NGO リーダーに話を聞いた） ③ お楽しみパフォーマンス （ラ・バンバの生演奏と踊り、ベトナムのゲーム等を楽しんだ）

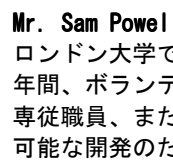
<当日の様子と主なスピーカー>



Mr. Nicolas Aguilar (40 歳・メキシコ人)
米国の加州大学で学士取得後、YAP フランス支部の職員となり、05 年から事務局長。YAP 全体の理事も務め、中南米でのボランティア推進にも尽力。気は優しいが力持ち。



Ms. Pujiarti (29 歳・インドネシア人)
大学卒業後、オランダで長期ボランティア。04 年に NVDA の専従職員となり、06 年から IIRC の代表・NVDA の事務局長に。07 年に孤児院も設立。面倒見のいい、姉御肌。



Mr. Sam Powell (34 歳・イギリス人)
ロンドン大学で修士を取り、タンザニアで 2 年間、ボランティア教師。01 年から UNA の専従職員、また CCIVS 理事として ESD（持続可能な開発のための教育）を推進。さわやか系。



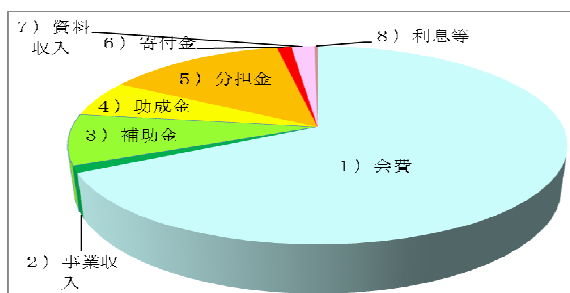
Mr. Don Tuan Phuong (30 歳・ベトナム人)
米国コロンブス大学で修士取得。香港やカナダの国際協力機関で研修し、00 年から国際医療団体に勤務、05 年に VPV 設立。障がい児施設での事業を中心に急成長中。冷静沈着な切れ者。



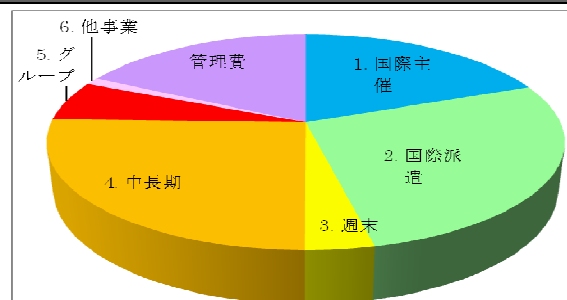
7-6) 財政

<2007 年の収支決算書>

<収入>	75,694,222	
1) 会費	51,268,462	68%
2) 事業収入	842,288	1%
3) 行政からの補助金	6,252,826	8%
4) 民間からの助成金	4,484,750	6%
5) 共催団体の分担金	10,461,520	14%
6) 寄付金	842,862	1%
7) 資料収入等	1,356,685	2%
8) 受取利息等	184,829	0%



<支出>	66,069,678	
1) 事業費	54,502,172	82%
1. 国際ワークキャンプ主催	12,667,491	19%
2. 国際ワークキャンプ派遣	18,008,549	27%
3. 週末ワークキャンプ	2,383,994	4%
4. 中長期ボランティア	16,804,134	25%
5. グループ・ワークキャンプ	3,941,091	6%
6. その他	696,913	1%
2) 管理費	11,567,506	18%
1. 交通費・旅費	901,850	1%
2. 通信・運搬費	536,724	1%
3. 印刷・資料費	628,221	1%
4. 会議・宿泊費	722,523	1%
5. 食費・消耗品費	22,846	0%
6. 器具・資材費	257,995	0%
7. 人件費・謝礼金	4,748,436	7%
8. 事務局・保険代	3,545,753	5%
9. ネットワーク・委託費	133,688	0%
10. 雑費・長期戦略費	69,470	0%



当期収支差額	9,624,544	
前期繰越収支差額	6,752,841	
次期繰越収支差額	16,377,385	

以上の会計は **NICE 側で管理している**分で、主に共催団体が事業ごとに分担している、ボランティアの宿泊・食事や作業の器具・資材等は含まれていない。

<NICE の財政の特色>

- ① 収入の中で**会費が占める割合が高い**こと。これは事業の性質と財政方針（自立・安定して事業を行う）によるものである。
- ② **借金をしない**こと
- ③ **事業や部門ごとに独立採算**で運営していること。そのため、ある事業の財政事情が悪化して中止になっても、他の事業は悪影響が及ばない。

その結果設立以来、18 年間（法人移行前の 13 年間を含む）の中で赤字になったのは、思い切った投資を行い、新事業部門を複数立ち上げた 1 年だけである。

<2007 年の状況>

2007 年は特に、**過去最高の繰越金**を計上した。国際ワークキャンプや中長期ボランティアに参加した**日本人ボランティアの数が過去最高**だったことが大きい。それ以外にも**各職員や理事・会員の努力、共催・協力団体の協力**により、良好な財政を保てたと言える。

また、まだ割合は少ないが、**補助金や助成金の金額も着実に増えている**。補助金では特に、厚生労働省と行う「若者自立塾」に加えて、07 年から東京都と開始した「奉仕の授業」（P51）が大きい。

<今後への課題>

寄付の金額・割合が非常に少ない。あまり必要でなく、集める努力もしてこなかったことや、ボランティア募集の広報を前面に出すため、寄付意欲を喚起しにくい事業に見られがちだったことが要因。

しかし今後は地域・社会問題の改善に対する事業の成果や、それに基づく事業・予算計画を分かりやすく出すことや、寄付集めを積極的に行うことによって、各事業や組織全体への寄付を**もっと集めたい**。

また、よりプロフェッショナルな会計管理も求められている。理事会での議論・決定により、2008 年からは**プロの税理士**に会計・決算を見てもらう予定である。

おわりに

最後は日本とネパールの小学校の架け橋を作った、「ノートブック・アクション」(P45 参照)の手紙と写真を一部ご紹介しよう。

＜日本で集まったノートの内訳＞ 計160冊

長野県塩尻市	塩尻東小学校	…	102 冊
千葉県船橋市	法典小学校	…	36 冊
長崎県雲仙市	国見町の皆様	…	22 冊



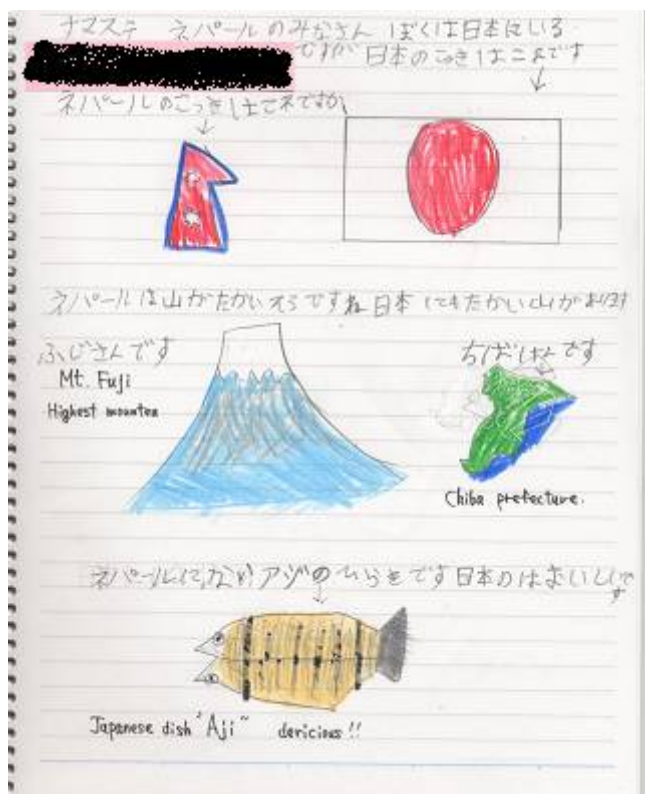
＜現地での活動を終えて＞

今回のプロジェクトは沢山の方々の協力により、実現が可能となりました。

ノートの寄付や翻訳に携わって下さった皆さま、メッセージを寄せてくれた子ども達をはじめ、現地でもノートブック・アクションを円滑に進めるために協力して下さいました地元の学生達に感謝しております。

たかが一冊ですが、されど一冊。ネパールの子供達にとって、一冊のノートがどれだけ貴重なものでしょうか。真っ白いサラサラのノートを何度も触って、その感触に感動しているように見えました。私はノートを一冊ずつ、全員に手渡しました。受け取る子ども達の目が輝いていたことを忘れられません。日本の子ども達からのメッセージを嬉しそうに読んでいました。

ノートの数に限りがあったので、小学校の全員の手に渡ったわけではありません。この素晴らしいプロジェクトが今回で終わらず、続けられることを望みます。(ノートブック・アクション リーダー 井手貴恵)



＜ネパールで配ったノートの内訳＞ 計160冊

カトマンズ市内の孤児院	…	30 冊
カトマンズ市内の学生	…	1 冊
Ananda Bhairab 中学校 (8 年生)	…	27 冊
Saraswati 小学校 (4・5 年生)	…	54 冊
地元の学生	…	13 冊
バビラセの小学校	…	35 冊

NICE 2007年 活動総合報告書

2008 年 4 月 1 日発行 同 8 月 10 日改訂

非売品 禁無断転載・複製

制作・編集 NICE 専従職員一同

発行人 開澤真一郎

＜お問い合わせ先＞

特定非営利活動法人 NICE

(日本国際ワークキャンプセンター)

160-0022 東京都新宿区新宿 2-1-14-401

電話 03-3358-7140 FAX 03-3358-7149

ホームページ <http://nicel.gr.jp>

e-mail nice@nicel.gr.jp (総合)